元総社蒼海遺跡群（62）
元総社蒼海遺跡群（63）
元総社蒼海遺跡群（64）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

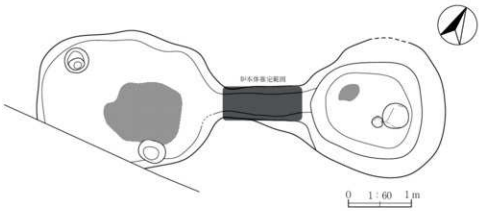
２０１６．９

前橋市教育委員会

0626364.indd 1 2016/09/26 17:52:44

元総社蒼海遺跡群（62）
元総社蒼海遺跡群（63）
元総社蒼海遺跡群（64）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書



元総社蒼海遺跡群（64）1号製鉄炉跡

2016. 9

前橋市教育委員会

0626364.indd 5 2016/09/26 17:52:44

元総社蒼海遺跡群（62）全景（西から）

元総社蒼海遺跡群（63）全景（南西から）

元総社蒼海遺跡群（64）全景（北から）

元総社蒼海遺跡群（64）1号製鉄炉跡全景（北西から）

0626364.indd 8 2016/09/26 17:53:05

はじめに

関東平野の北西部に群馬県は位置し、前橋市はその中央、上毛三山のひとつ名峰赤城を背にし、利根川や広瀬川が市街地を貫流する、四季折々の風情に溢れる県都です。豊かな自然環境にも恵まれ、２万年前から人々が生活を始め、縄文時代の遺跡も、市内の随所に存在します。

古代において前橋台地は、広大な穀倉地帯を控え、前橋天神山古墳などの初期古墳をはじめ王山古墳・天川二子山古墳といった首長墓が連綿と築かれ、上毛野国の中心地として栄えました。また、律令時代になってからは総社・元総社地区に山王廃寺、国分僧寺、国分尼寺、国府など上野国の中枢をなす施設が次々に造られました。

中世になると、戦国武将の長尾氏、上杉氏、武田氏、北条氏が鎬をけずった地として知られ、近世においては、譜代大名の酒井氏、松平氏が居城した関東三名城の一つに数えられ、「関東の華」とも呼ばれた厩橋城が築かれました。

やがて近代になると、生糸の一大生産地であったことから、横浜に至る街道は「日本のシルクロード」とも呼ばれ、横浜港からは前橋シルクの名で海外に輸出され、近代日本の発展の一翼を担いました。

今回、報告書を上梓する「元総社蒼海遺跡群（62）（63）（64）」は、古代において上野の中枢地域として上野国府の推定地域に近接するところから、その成果に期待がもたれていました。今回の調査でも、古代の住居跡をはじめ多くの貴重な遺構の検出がありました。特に、箱形の製鉄炉の検出は、上野の中枢地域における鉄生産に係る歴史を知る上で重要な発見となりました。残念ながら、現状のままでの保存が困難なため、記録保存という形になりましたが、今後、地域の歴史・前橋の歴史を解明する上で、貴重な資料を得ることができました。

最後になりましたが、関係機関や各方面の多大なるご配慮・ご尽力により調査事業を円滑に進められましたことに感謝いたします。また、発掘調査にあたられた担当者・作業員のみなさんのご尽力にも、厚くお礼申しあげます。

本報告書が斯学の発展に少しでも寄与できれば幸いに存じます。

平成 28 年９月

前橋市教育委員会
教育長　　佐　藤　博　之

0626364.indd 9　　2016/09/26 17:53:05

例　言

1　本報告書は前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う元総社蒼海遺跡群（62）（63）（64）埋蔵文化財発掘報告書である。

2　発掘調査の要項は次のとおりである。

遺跡名	元総社蒼海遺跡群（62）（63）（64）
調査場所	前橋市総社町総社 3600-1、3598-4、前橋市元総社町 2019
遺跡コード	（62）：25 A 161、（63）：25 A 162、（64）：25 A 163
発掘担当者	宇佐美義春（技研コンサル株式会社）
整理担当者	岡野　茂（技研コンサル株式会社）
調査員	丸山和浩（技研コンサル株式会社）
発掘調査期間	平成 26 年 1 月 14 日～平成 26 年 3 月 26 日
整理・報告書作成期間	平成 28 年 1 月 8 日～平成 28 年 9 月 30 日

3　本書の原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、その他を岡野が担当した。

4　発掘調査および整理作業参加者は次のとおりである。

大川明子（技研コンサル株式会社）
新井　寛　飯島冬子　石田てい子　稲毅美枝子　内島勝義　宇貫美代子　樑原義久　遠藤好則
大塚とし子　小笠原耶樹　奥沢千恵子　小田切勝巳　加賀美紀子　金古　操　鴨田榮作　川野京子
木暮朱美　木暮孝一　木暮知二　小島京子　小林克宏　佐藤和彦　塩野　浩　杉田友香　諏訪尤子
高野フミ子　竹澤賢司　田島君代　田部井美砂子　中嶋千恵子　西潟　登　萩原　誠　平澤小夜子
福島祿子　間仁田章治　水野さかえ　武藤　光　矢内朝夫　山田　修

5　本書における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。

6　製鉄関連遺物については、公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団の笹澤泰史氏に実見して頂き、御教示を受けた。

7　下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します。

公益財団法人　群馬県埋蔵文化財調査事業団　山下工業株式会社　日鉄住金テクノロジー（株）

凡　例

1　挿図中に使用した北は座標北である。

2　挿図に国土地理院発行 1/200,000『宇都宮』『長野』、1/25,000『前橋』、前橋市発行 1/2,500 都市計画図を使用した。

3　遺構名称は、住居跡：H、溝：W、井戸：I、土坑墓：DB、土坑：D、ピット：Pである。

4　遺構・遺物実測図の縮尺は原則的に次のとおりである。その他各図スケールを参照されたい。

遺構　住居跡・竪穴状遺構・井戸・土坑・ピット・その他・・・1/60　全体図・・・1/200
遺物　土器・石製品・・・1/3　鉄製品・・・1/2　古銭・・・1/1、製鉄関連遺物・・・1/3

5　本文および表中の計測値については（　）は現存値を、〔　〕は復元値を表す。

0626364.indd 10　2016/09/26 17:53:05

6　遺構・遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。

遺構　焼土範囲：　炭化物範囲：　灰範囲：　粘土範囲：
硬化面範囲：　鉄滓範囲：

遺物　須恵器（還元焔）：　石製品（磨面）：

製鉄関連遺物　砂鉄焼結範囲：　ガラス質範囲：　酸化範囲：

7　主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。

As-B（浅間Ｂ軽石：1108）、Hr-FP（榛名二ッ岳伊香保テフラ：６世紀中葉）、
Hr-FA（榛名二ッ岳渋川テフラ：６世紀初頭）、As-C（浅間Ｃ軽石：３世紀後葉～４世紀前半）

目　次

巻頭図版１
巻頭図版２
はじめに
例言・凡例

Ⅰ　調査に至る経緯 …… 1
Ⅱ　遺跡の位置と環境 …… 2
Ⅲ　調査の方針と経過
　1　調査範囲と基本方針 …… 7
　2　調査経過 …… 7
Ⅳ　基本層序 …… 8
Ⅴ　遺構と遺物
　1　元総社蒼海遺跡群（62）
　（1）溝跡 …… 9
　（2）井戸跡、土坑、ピット …… 9
　2　元総社蒼海遺跡群（63）
　（1）住居跡 …… 12
　（2）溝跡 …… 17
　（3）土坑、ピット …… 17
　3　元総社蒼海遺跡群（64）
　（1）住居跡 …… 38
　（2）竪穴状遺構 …… 38
　（3）溝跡 …… 38
　（4）土坑墓 …… 39
　（5）土坑、ピット …… 39
　（6）製鉄炉跡 …… 39
Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（64）出土製鉄関連遺物の分析調査 …… 50
Ⅶ　まとめ …… 60

o626364.indd　11　2016/09/26　17:53:08

挿図目次

Fig. 1　遺跡の位置 …… 1
Fig. 2　周辺遺跡図 …… 3
Fig. 3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図 …… 4
Fig. 4　基本層序 …… 8
Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（62）全体図 …… 9
Fig. 6　W－1号溝跡、D－1号土坑 …… 10
Fig. 7　（62）I－1号井戸跡、P－1～7号ピット、出土遺物 … 11
Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（63）全体図 …… 17
Fig. 9　（63）H－1・2号住居跡 …… 18
Fig.10　（63）H－3号住居跡 …… 19
Fig.11　（63）H－3号住居跡P1～6・カマド …… 20
Fig.12　（63）H－4号住居跡 …… 21
Fig.13　（63）H－4号住居跡カマド、H－5号住居跡 …… 22
Fig.14　（63）H－6・7号住居跡 …… 23
Fig.15　（63）H－8・9号住居跡 …… 24
Fig.16　（63）H－9号住居跡カマド、H－10号住居跡 …… 25
Fig.17　（63）H－10号住居跡貯蔵穴・P1、H－11号住居跡カマド、H－12号住居跡 …… 26
Fig.18　（63）H－13・14・17号住居跡 …… 27
Fig.19　（63）H－15・16号住居跡 …… 28
Fig.20　（63）H－15号住居跡カマド・貯蔵穴、H－16号住居跡カマド …… 29
Fig.21　（63）H－18～20号住居跡 …… 30
Fig.22　（63）W－1号溝跡、D－1・2号土坑、P－1・2号ピット …… 31
Fig.23　（63）H－1～4号住居跡出土遺物 …… 32
Fig.24　（63）H－5・7・8号住居跡出土遺物 …… 33
Fig.25　（63）H－8・9号住居跡出土遺物 …… 34
Fig.26　（63）H－10～12・15・16・18号住居跡、D－1号土坑、遺構外出土遺物 …… 35
Fig.27　流動滓・炉壁出土分布図 …… 40
Fig.28　元総社蒼海遺跡群（64）全体図 …… 41
Fig.29　（64）H－1号住居跡、T－1・2号竪穴状遺構、W－1号溝跡 …… 42
Fig.30　（64）D－1～11・14・15号土坑、DB－1号土坑墓 …… 43
Fig.31　（64）1号製鉄炉跡・D－12号土坑 …… 44
Fig.32　（64）1号製鉄炉跡構成図 …… 45
Fig.33　（64）出土遺物、製鉄関連遺物① …… 46
Fig.34　（64）製鉄関連遺物② …… 47
Fig.35　（64）製鉄関連遺物③ …… 48
Fig.36　（62）周溝の推定図 …… 60

表目次

Tab.1　周辺遺跡一覧 …… 5
Tab.2　元総社蒼海遺跡群（62）井戸跡・土坑・ピット計測表 …… 12
Tab.3　元総社蒼海遺跡群（62）出土遺物観察表 …… 12
Tab.4　元総社蒼海遺跡群（63）土坑・ピット計測表 …… 17
Tab.5　元総社蒼海遺跡群（63）出土遺物観察表 …… 36
Tab.6　1号製鉄炉跡出土製鉄関連遺物重量一覧表 …… 40
Tab.7　元総社蒼海遺跡群（64）土坑・ピット計測表 …… 48
Tab.8　元総社蒼海遺跡群（64）出土遺物観察表 …… 48
Tab.9　元総社蒼海遺跡群（64）製鉄関連遺物観察表 …… 49

写真図版目次

PL.1　（62）遺構検出状況（西から）　（62）調査区全景（北東から）　（62）調査区全景（北西から）　（62）調査区全景（北東から）　（62）調査区東部（北西から）　（62）W－1遺物出土状況（南西から）　（62）P－1～6全景（南東から）　（62）I－1全景（西から）
PL.2　（63）遺構検出状況（北西から）　（63）調査区全景（北西から）　（63）H－1全景（西から）　（63）H－1貯蔵穴全景（南から）　（63）H－2全景（南から）　（63）H－2Hr-FA堆積状況（南から）　（63）H－3全景（西から）　（63）H－3カマド全景（西から）
PL.3　（63）H－4全景（南から）　（63）H－4カマド全景（南から）　（63）H－5全景（西から）　（63）H－6全景（北東から）　（63）H－7全景（南西から）　（63）H－7カマド全景（南西から）　（63）H－8全景（北西から）　（63）H－9全景（東から）
PL.4　（63）H－9カマド遺物出土状況（東から）　（63）H－9貯蔵穴遺物出土状況（東から）　（63）H－10全景（西から）　（63）H－10貯蔵穴全景（北から）　（63）H－11カマド断面（東から）　（63）H－12全景（西から）　（63）H－12遺物出土状況（東から）　（63）H－13全景（北から）
PL.5　（63）H－13カマド全景（北から）　（63）H－14全景（東から）　（63）H－15全景（西から）　（63）H－15カマド灰層下断面（南西から）　（63）H－16全景（西から）　（63）H－16カマド断面（西から）　（63）H－17カマド断面（南西から）　（63）H－18・20全景（西から）
PL.6　（63）H－19全景（北西から）　（63）W－1全景（西から）　（63）D－1全景（南から）　（63）D－2全景（東から）　（63）P－1全景（南から）　（63）P－2全景（南から）　（63）作業風景　（63）除雪作業風景
PL.7　（64）調査区全景（上が北）　（64）遺構検出状況（西から）　（64）1号製鉄炉跡検出状況（南から）　（64）1号製鉄炉跡掘り方全景（東から）　（64）1号製鉄炉跡掘り方断面（南から）
PL.8　（64）1号製鉄炉跡上層遺物出土状況（東から）　（64）1号製鉄炉跡下層遺物出土状況（東から）　（64）1号製鉄炉跡炉本体部断面（南から）　（64）1号製鉄炉跡炉本体部掘り方断面（南から）　（64）1号製鉄炉跡炉本体部掘り方断面（東から）　（64）1号製鉄炉跡炉本体部木炭片出土状況（南から）　（64）1号製鉄炉跡西排滓土坑上層断面（東から）　（64）1号製鉄炉跡西排滓土坑下層断面（南から）
PL.9　（64）1号製鉄炉跡西排滓土坑流動滓出土状況（南から）　（64）1号製鉄炉跡東排滓土坑上層断面（南東から）　（64）1号製鉄炉跡東排滓土坑下層断面（南東から）　1号製鉄炉跡東排滓土坑流動滓出土状況　（64）H－1全景（西から）　（64）H－1カマド全景（西から）　（64）T－1全景（東から）　（64）T－2全景（南から）
PL.10　（64）D－1全景（北から）　（64）D－2全景（東から）　（64）D－3全景（南から）　（64）D－4全景（南東から）　（64）D－5全景（南から）　（64）D－6全景（南東から）　（64）D－7全景（南から）　（64）D－8断面（東から）
PL.11　（64）D－9断面（東から）　（64）D－10断面（東から）　（64）D－11断面（東から）　（64）D－14断面（北から）　（64）D－15断面（北から）　（64）D－15炭化物検出状況（東から）　（64）DB－1全景（東から）　（64）DB－1人骨出土状況（東から）

0626364.indd　12　2016/09/26　17:53:03

Ⅰ　調査に至る経緯

平成 25 年 12 月 19 日付けで前橋市長　山　本　　龍（区画整理第二課）より元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査業務に係る依頼が前橋市教育委員会（以下「市教委」という。）に提出された。市教委では既に発掘調査を実施中であり、市教委直営による発掘調査実施が困難であると判断し、民間調査組織へ発掘調査業務委託することで依頼者である前橋市と合意に至った。業務実施にあたっては市教委の作成する調査仕様書に則り、市教委による監理・指導のもと発掘調査を実施することとなった。平成 26 年 1 月 14 日付けで前橋市と民間調査組織である技研コンサル株式会社との間で業務委託契約が締結され発掘調査に着手し、平成 26 年 3 月 26 日に終了した。当該発掘調査に係る整理業務については、平成 27 年 10 月 16 日に区画整理課より依頼があり、発掘調査と同様に民間調査組織へ整理業務を委託するに至った。

なお、遺跡名称「元総社蒼海遺跡群 (62) (63) (64)」（遺跡コード：25A161、25A162、25A163）の「元総社蒼海」は土地区画整理事業名を採用し、(62) (63) (64) は過年度に実施した調査と区別するために付したものである。

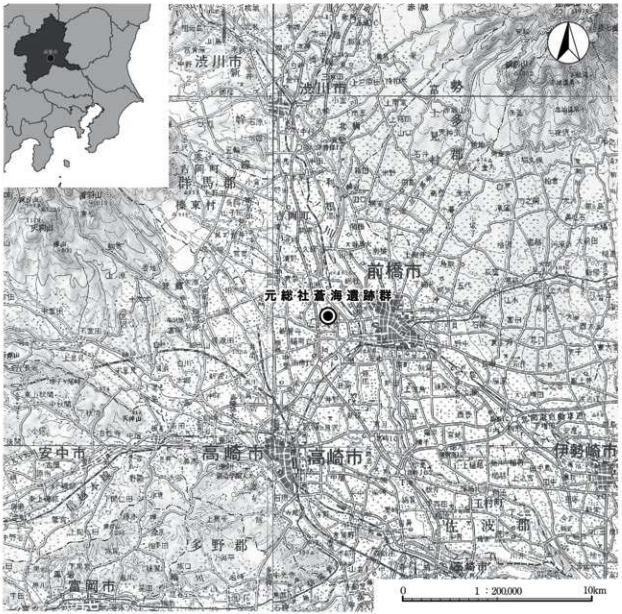


Fig.1　遺跡の位置

0626364.indd 1　2016/09/26 17:53:08

Ⅱ　遺跡の位置と環境

遺跡の位置（Fig. 1）

本調査地は、前橋市街地から利根川を隔て、西へ約3kmの地点、前橋市元総社町総社地内に所在し、西には関越自動車道が南北に、南には県道足門・前橋線が東西に、また東には市道大友・石倉線が南北にそれぞれ走っている。本調査区の地形は、榛名山山麓の相馬ヶ原扇状地扇端部と前橋台地との移行地帯にあたり、榛名山麓に水源をもつ牛池川、染谷川が開析・形成した細長い微高地上に立地する。台地上は主として畑地として利用されているが、本遺跡地の所在する位置は現在住宅地が立ち並ぶ中心地にあたる。

歴史的環境（Fig. 2、Tab. 1）

縄文時代の遺跡は八幡川右岸の微高地上に産業道路東［15］・産業道路西［16］・総社閑泉明神北Ⅲ遺跡［61］、本遺跡の立地する牛池川右岸台地上に上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］・元総社小見Ⅲ遺跡［59］・元総社蒼海遺跡群（24）などが挙げられ、住居跡が確認されている。

弥生時代の遺跡としては日高遺跡［18］・［19］、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］、正観寺遺跡［21］などがあるが分布は散漫である。日高遺跡では浅間C軽石下の水田跡が確認されている。

古墳時代になると本遺跡周辺は県内でも中心的な地域であったことが窺われる。元総社蒼海遺跡群（38・61・81・100）が位置する北東部では古墳時代前期の周溝墓が確認されている。王山古墳［7］、二子山古墳［12］、愛宕山古墳［10］、宝塔山古墳［13］、蛇穴山古墳［8］などの首長墓が古墳時代後期から終末期かけて築造された。これらの古墳群は総社古墳群として知られている。該期の集落は牛池川と染谷川に挟まれた台地上に展開するが後期の集落が多い。

奈良・平安時代に至ると、本遺跡周辺は上野国府、国分寺［2］、国分尼寺［3］、山王廃寺［4］の造営に示されるように古代の政治・経済・文化の中心地として再編成される。上野国府は本遺跡付近に推定される。元総社小学校校庭遺跡では大規模な掘立柱建物跡が検出され、元総社寺田遺跡では「國厨」・「曹司」・「国」・「邑厨」などの墨書土器や人形が出土している。また元総社明神遺跡［24］、閑泉樋遺跡［25］、元総社蒼海遺跡群（7・9・10）では区画溝が確認され、国府域の東北外郭線が想定される。国分僧寺では、築垣と、区画溝や道路状遺構などが確認されている。関連遺跡として鳥羽遺跡［20］で神社遺構や工房跡が確認され、上野国分僧寺・尼寺中間地域［22］では大規模な集落・掘立柱建物跡群が検出されている。山王廃寺は、「山ノ上碑」「上野国交替実録帳」にみられる「放光寺」であることが有力視されており、回廊や基壇建物などが確認されている。なお、この寺の塔心礎や石製鴟尾、根巻石などの石造物群は宝塔山古墳の石槨や蛇穴山古墳の石室と同系統の石造技術によるものと考えられており、仏教文化と古墳文化とが併存しながら機能していた様子が窺える。また本遺跡の南約1.5kmには東山道（国府ルート）が、日高遺跡［19］では幅約4.5mの推定日高道が国府方向へ延びると推定されている。該期の集落は、古墳時代と同様に牛池川と染谷川に挟まれた台地上に立地するが、国府推定域の中心部での分布は少なく、国府域と居住域の区分けが窺える。近年の調査による元総社蒼海遺跡群（41）では鍛冶工房が検出され、金の付着した灰釉陶器や奈良三彩といった貴重な遺物が出土している。

室町時代になると上野国守護上杉氏から守護代に任命された長尾氏が蒼海城を本拠地としこの地を治めた。元総社蒼海遺跡群では蒼海城の堀跡や、南宋～元時代の青白磁梅瓶が出土している。また本遺跡周辺には屋敷に堀を巡らした城館跡が数多く認められる。天正年間以降は譜代・秋元氏が蒼海城に入り当地の領主となるが、秋元氏が総社城に移ると同時に蒼海城は廃城となった。また、当該期の周辺遺跡では大渡道場遺跡［71］の貨幣埋納遺構から572枚に及ぶ銭貨が撚紐を通した「緡」の状態で六緡出土している。

0626364.indd 2　2016/09/26 17:53:08

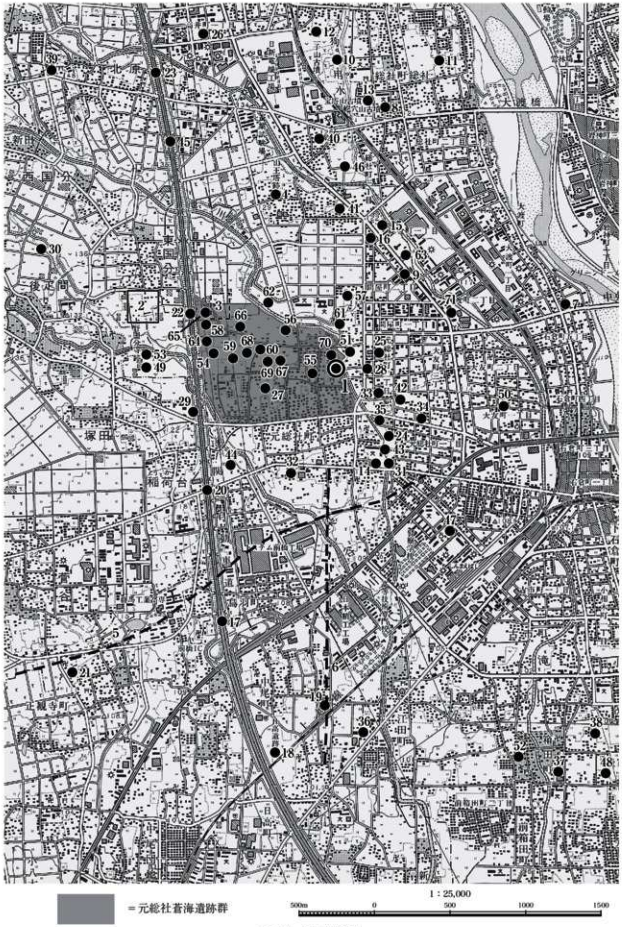


Fig. 2　周辺遺跡図

0626364.indd 3　2016/09/26 17:53:10

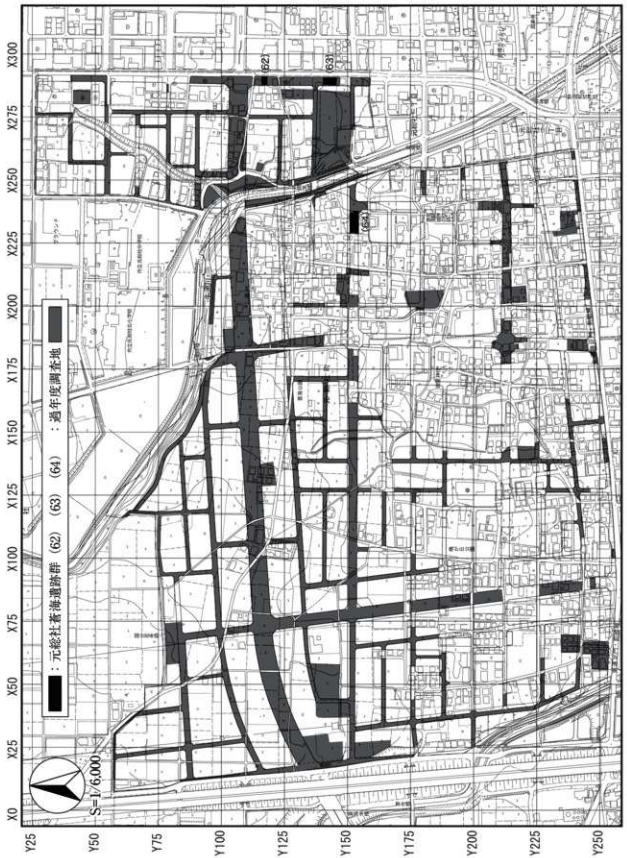


Fig.3　元総社蒼海遺跡群位置図とグリッド設定図

0626364.indd 4　2016/09/26 17:53:13

Tab. 1　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構、主な遺物
1	元総社蒼海遺跡群（62） 元総社蒼海遺跡群（63） 元総社蒼海遺跡群（64）	2014	古墳：溝跡 古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：溝跡 奈良：製鉄炉跡、中世：竪穴状遺構・土坑墓、時期不明：住居跡
2	上野国分寺跡（県教委）	1980 ～ 88	奈良：金堂基壇・塔基壇
3	上野国分尼寺跡	（1999）	奈良：西南隅・東南隅築地
4	山王廃寺跡	（1974）	奈良：塔心礎・根巻石・金堂基壇・講堂版築・回廊礎石
5	東山遺（推定）	－	
6	日高遺（推定）	－	
7	王山古墳	1972	古墳：前方後円墳（6 c中）
8	蛇穴山古墳	1975	古墳：方墳（7 c末）
9	稲荷山古墳	1988	古墳：円墳（6 c後半）
10	愛宕山古墳	1996	古墳：円墳（7 c前半）
11	滝見山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（5 c後半）
12	総社二子山古墳	未調査	古墳：前方後円墳（6 c末）
13	宝塔山古墳	未調査	古墳：方墳（7 c後半）
14	元総社小学校校庭遺跡	1962	平安：掘立柱建物跡・柱穴群・周溝跡
15	蔀屋遺跡東遺跡	1966	縄文：住居跡
16	蔀屋遺跡西遺跡	－	縄文：住居跡
17	中尾遺跡（事業団）	1976	奈良・平安：住居跡
18	日高遺跡（事業団）	1977	弥生：水田跡・方形周溝墓・住居跡・木製農具、平安：水田跡
19	日高遺跡（高崎市）	（1978）	弥生：水田跡
20	鳥羽遺跡（事業団）	1978 ～ 83	古墳：住居跡・鍛冶場跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
21	正観寺遺跡Ⅰ～Ⅳ（高崎市）	1979 ～ 81	弥生：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
22	上野国分僧寺・尼寺中間地域（事業団）	1980 ～ 83	縄文：住居跡・配石遺構、弥生：住居跡・方形周溝墓、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・溝状遺構・道路状遺構
23	北原遺跡（群馬町）	1982	縄文：土坑・集石遺構、古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
24	元総社明神遺跡Ⅰ～Ⅹ Ⅲ	1982 ～ 96	古墳：住居跡・水田跡・堰跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：住居跡・溝跡
25	間泉横道跡	1983	奈良・平安：溝跡
26	柿木遺跡・Ⅱ遺跡	1983、88	奈良・平安：住居跡・溝跡
27	草作遺跡	1984	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：井戸跡
28	間泉横南遺跡	1985	古墳：住居跡、奈良・平安：溝跡
29	塚田村東遺跡（群馬町）	1985	平安：住居跡
30	後足間遺跡Ⅰ～Ⅲ（群馬町）	1985 ～ 87	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：道路状遺構
31	寺田遺跡	1986	平安：溝跡
32	天神遺跡・Ⅱ遺跡	1986、88	奈良・平安：住居跡
33	屋敷遺跡・Ⅱ遺跡	1986、95	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・石敷遺構
34	堰越遺跡	1987	奈良・平安：住居跡・溝跡
35	大友屋敷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1987	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡・地下式土坑
36	勝呂遺跡	1987	平安：水田跡
37	村前遺跡	1987	平安：溝状遺構・水田跡
38	五反田遺跡	1987	平安：水田跡
39	熊野谷遺跡 熊野谷Ⅱ・Ⅲ遺跡	1988 1989	縄文：住居跡、平安：住居跡・溝跡 平安：住居跡
40	村東遺跡	1988	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：堀跡
41	昌楽寺裏向遺跡・Ⅱ遺跡	1988	奈良・平安：住居跡
42	堰越Ⅱ遺跡	1988	平安：住居跡
43	元総社寺田遺跡Ⅰ～Ⅲ（事業団）	1988 ～ 91	古墳：水田跡・溝跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
44	弥勒遺跡・Ⅱ遺跡	1989、95	古墳：住居跡、平安：住居跡
45	国分堰遺跡（事業団） 国分堰Ⅱ遺跡 国分堰Ⅲ遺跡（群馬町）	1990 1991 1991	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡 古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡 古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：土坑墓
46	大屋敷遺跡Ⅰ～Ⅵ	1992 ～ 2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡・地下式土坑・溝跡
47	元総社植栗遺跡	1993	縄文：土坑、平安：住居跡・製鉄炉跡・瓦塔
48	五反田Ⅱ遺跡	1995	平安：水田跡
49	上野国分寺参道遺跡	1996	古墳：住居跡、平安：住居跡
50	大友宅地添遺跡	1998	平安：水田跡
51	総社間泉町神北遺跡 総社間泉町神北Ⅱ遺跡	1999 2001	古墳：畠跡・水田跡・溝跡、中世：溝跡 古墳：住居跡・溝跡、平安：住居跡・溝跡
52	箱田川西遺跡	1999	古墳：溝状遺構、平安：水田跡
53	元総社西川遺跡（事業団）	2000	古墳：住居跡・畠跡、奈良・平安：住居跡・溝跡
54	元総社小見遺跡	2000	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・道路状遺構
55	元総社宅地遺跡1～23トレンチ	2000	古墳：住居跡、平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶場跡・溝跡・道路状遺構、中世：溝跡、近世：住居跡
56	元総社小見内Ⅱ遺跡	2001	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
57	総社平稲荷塚大道西遺跡 総社平稲荷塚大道西Ⅳ遺跡	2001	奈良、平安：住居跡・溝跡、中世：畠跡、近世：溝跡 奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構、近世：溝跡
58	元総社小見Ⅱ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・道路状遺構
59	元総社小見Ⅲ遺跡 元総社草作Ⅴ遺跡	2002	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・道路状遺構 古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
60	元総社小見内Ⅳ遺跡 元総社小見Ⅳ遺跡	2002 2003	奈良、平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡、中世：土坑墓 縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
61	総社平稲荷塚大道西Ⅲ遺跡 総社間泉町神北Ⅲ遺跡 総社平稲荷塚大道西Ⅴ遺跡	2002 2002 2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・畠跡・溝跡 縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡 古墳：畠跡、中世：畠跡
62	元総社北川遺跡（事業団）	2002 ～ 04	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡・畠跡、中近世：掘立柱建物跡・水田跡・火葬墓
63	稲荷塚道東遺跡（事業団）	2003	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、竈構築材採掘坑・井戸跡

0626364.indd 5　2016/09/26 17:53:14

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構、主な遺物
64	元総社小見内Ⅳ遺跡 元総社小見内Ⅵ遺跡	2002 2003	奈良・平安：住居跡、掘立柱建物跡・溝跡、中世：土坑墓 奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：井戸跡
65	元総社小見Ⅴ遺跡	2003	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：掘立柱建物跡
66	元総社小見内Ⅶ遺跡	2003	縄文：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：畠跡・溝跡
67	元総社小見内Ⅷ遺跡	2003	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：整穴状遺構
68	元総社小見Ⅸ遺跡 元総社小見内Ⅸ遺跡	2004	奈良・平安：住居跡、中世：溝跡 奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
69	元総社小見内Ⅹ遺跡	2004	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・粘土採掘坑、中世：溝跡・土坑墓
70	総社関泉明神北Ⅴ遺跡	2004	古墳：水田跡、奈良・平安：住居跡
71	大渡道場遺跡	2011	古墳：水田跡、平安：住居跡、中世：貨物埋納遺構・掘立柱建物跡・地下式坑・土坑墓・火葬墓・火葬跡・溝跡・整穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（17街区）	2015	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・道路状遺構・土坑、中世：土坑墓・火葬跡
－	元総社蒼海遺跡群（1）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（2）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（3） 元総社小見Ⅻ遺跡	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（4）	2005	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（5）	2005	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：周溝状遺構・土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（6）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（7）	2005	奈良・平安：住居跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（8）	2006	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（9）、（10）	2006	縄文：住居跡、古墳：整穴住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・溝跡・土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（11）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（12）	2006	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（13）	2008	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・工房跡・溝跡、中世：溝跡・土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（14）	2008	古墳：住居跡・水田跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：溝跡・整穴状遺構・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（15）	2008	奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（16）	2008	奈良・平安：住居跡・畠跡、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（17）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・整穴状遺構、中世以降：土坑墓・井戸跡、時期不明：住居跡、溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（18）	2008	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（19）	2008	古墳：水田跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（20）	2008	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・整穴状遺構・溝跡、中世：土坑墓・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（21）	2009	中世：堀跡・盛土状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（22）	2009	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（23）	2009	古墳：住居跡、平安：土坑、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（24）	2009	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・整穴状遺構、中世：整穴状遺構・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（25）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：青白磁梅瓶
－	元総社蒼海遺跡群（26）	2010	古墳：住居跡、古代：住居跡・整穴状遺構・溝跡・土坑、中世：溝跡・土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（28）	2009	古墳：住居跡・焼土遺構、古代：住居跡・掘立柱建物跡・整穴状遺構、中世：堀跡・整穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（27）	2009	古墳：住居跡・溝跡、古代：住居跡・整穴状遺構、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（29）	2009	古墳～平安：住居跡、中・近世：掘立柱建物跡・土坑墓・火葬跡・地下式坑・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（30）	2009	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：道路状遺構・土坑墓・火葬跡・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（31）	2009	古墳：住居跡、中世：道路状遺構、堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（32）	2010	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中近世：整穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（33）	2010	古墳：住居跡・粘土採掘坑、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（34）	2010	奈良・平安：住居跡、中近世：堀跡・整穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（35）	2010	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡・鍛冶産土師器、中世：土坑墓・堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（36）	2010	古墳：畠跡、平安：住居跡・水田跡・竈構築材採掘坑、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（37）	2011	古墳：住居跡、平安：住居跡・溝跡、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（38）	2012	古墳：住居跡・前方後方形周溝墓、奈良・平安：住居跡・土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（39）	2012	古墳：住居跡、奈良：溝跡、平安：土坑、中世：ピット・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（40）	2013	縄文：住居跡、古墳～奈良・平安：住居跡・鍛冶遺構、中世以降：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（41）	2013	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・鍛冶工房跡、中世：掘立柱建物跡・道路状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（42）	2013	遺構なし
－	元総社蒼海遺跡群（43）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（44）	2013	平安：住居跡、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（45）	2013	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡・地下式坑
－	元総社蒼海遺跡群（46）	2013	平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（47）	2013	中世：溝跡・柱列跡・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（48）	2013	縄文：住居跡、古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（49）	2013	平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（50）	2013	平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（51）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（52）	2013	遺構なし
－	元総社蒼海遺跡群（53）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（54）	2013	遺構なし
－	元総社蒼海遺跡群（55）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（56）	2013	古墳：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（57）	2014	中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（58）	2014	平安：溝跡、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（59）	2014	平安：住居跡、中世：堀跡・整穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（60）	2014	古墳：住居跡・溝跡、奈良・平安：住居跡・溝跡、中世：堀跡

0626364.indd 6 2016/09/26 17:53:15

番号	遺跡名	調査年度	時代：主な遺構、主な遺物
－	元総社蒼海遺跡群（61）	2013	古墳：方形周溝墓・住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：土坑墓
－	元総社蒼海遺跡群（65）	2013	古墳：住居跡、平安：住居跡、中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（66）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（67）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（68）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（72）	2013	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（73）	2013	時期不明：道路状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（81）	2014	古墳：住居跡・方形周溝墓、平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（82）	2014	古墳：住居跡、平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（83）	2014	平安：土坑、中世：溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（84）	2014	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（85）	2014	平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（88）	2014	時期不明：畠跡
－	元総社蒼海遺跡群（89）	2014	中世：溝跡・竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（90）	2014	中世：竪穴状遺構
－	元総社蒼海遺跡群（91）	2014	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡、中世：井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（95）	2014	古墳：住居跡、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡
－	元総社蒼海遺跡群（96）	2014	遺構なし
－	元総社蒼海遺跡群（97）	2014	奈良・平安：住居跡
－	元総社蒼海遺跡群（98）	2014	中世：掘立柱建物跡・井戸跡
－	元総社蒼海遺跡群（100）	2015	縄文：石器、古墳：方形周溝墓、奈良・平安：住居跡・掘立柱建物跡、中世：掘立柱建物跡・道路状遺構・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（101）	2015	縄文：土坑・竪穴状遺構、古墳：住居跡、中世：掘立柱建物跡・溝跡
－	元総社蒼海遺跡群（102）	2015	中世：堀跡
－	元総社蒼海遺跡群（103）	2015	縄文：住居跡、古墳：住居跡、平安：住居跡

Ⅲ　調査の方針と経過

1　調査範囲と基本方針

調査箇所は、前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業の道路予定地であり、調査面積は（62）110 ㎡、（63）230 ㎡、（64）500 ㎡である。グリッド座標については国家座標（日本測地系第Ⅸ系）X = 44000.000 m、Y = － 72200.000 m を基点とする 4 m ピッチのものを使用し、経線を X、緯線を Y として北西隅を基点に番号を付して呼称とした。各調査区の公共座標は次のとおりである。

測点	日本測地系（第Ⅸ系）	世界測地系（第Ⅸ系）
（62）X 288、Y 115	X = 43,540.000 m、Y = － 71,048.000 m	X = 43,894.902 m、Y = － 71,339.765 m
（63）X 288、Y 140	X = 43,440.000 m、Y = － 71,048.000 m	X = 43,794.904 m、Y = － 71,339.765 m
（64）X 227、Y 150	X = 43,400.000 m、Y = － 71,292.000 m	X = 43,756.906 m、Y = － 71,583.763 m

発掘調査は遺構確認面まで重機（0.1 及び 0.25 ㎡級バックホウ）にて表土掘削を行ない、遺構確認、遺構掘り下げ、遺構精査、測量・写真撮影の手順で実施した。遺構調査については土層の堆積状況を確認するため、土層ベルトを適宜設定した。なお、出土遺物に関しては、床面直上や遺構に伴うと判断したものは位置を記録し、他の覆土中の破片等については一括遺物として取り上げた。

遺構の記録には、図面作成はトータルステーション・電子平板を用いての測量・編集を行ない、断面図については一部オルソーフォトに変換して編集を行なった。記録写真は 35mm モノクロ・リバーサル、デジタルカメラの 3 種類を用いて撮影した。（64）の調査区全景撮影についてはラジコンヘリでの撮影を実施した。

2　調査経過

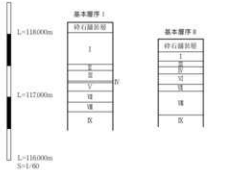
発掘調査は（62）（63）の表土掘削を平成 26 年 1 月 27 日から 1 月 29 日まで、（64）を 2 月 3 日から 2 月 5 日まで実施した。表土掘削以降、順次調査を進め、2 月 6 日に（62）、3 月 17 日に（64）、3 月 24 日に（63）の全景撮影を実施した。その後、3 月 26 日までに埋め戻しおよび撤収作業を完了し、現地での発掘調査を終了した。平成 28 年 1 月 8 日より、出土遺物・図面・写真等の整理作業および報告書作成を実施した。

0626364.indd 7　2016/09/26 17:53:15

Ⅳ　基本層序

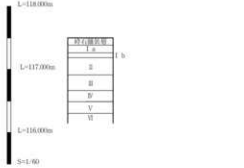
基本層序は、各調査区に確認用トレンチを設定し、セクション図をもとに模式図を作成した。以下に土層説明を掲載する。また、各調査区の概要に補足を記した。

元総社蒼海遺跡群（62）



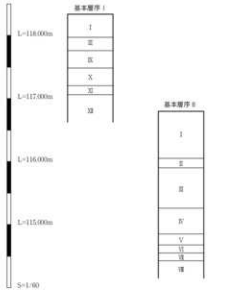
元総社蒼海遺跡群（62）　基本層序Ⅰ-Ⅱ
Ⅰ　暗褐色土（10YR3/4）　締まり有り、粘性やや強い、白色軽石小粒を微量に含む砕質土。
Ⅱ　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性やや強い、Hr-FAをブロック状に含む砕質土。
Ⅲ　黒色土（10YR2/1）締まりやや強い、粘性やや強い、AsC混土。
Ⅳ　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強い、粘性やや強い、AsCを中量含む砕質土。
Ⅴ　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性やや強い、Ⅳ層土に Ⅵ層土の砕粒やブロックを中量含む砕質土。
Ⅵ　灰黄色土（2.5Y6/2）締まり有り、粘性やや強い、砕粒と粘質土ブロックを含む砕質土。
Ⅶ　黄褐色土（10YR5/8）締まりやや強い、粘性やや強い、鉄分を含む砕質土。
Ⅷ　にぶい黄褐色土（10YR6/3）締まりやや強い、粘性やや強い、砕粒と黄橙色粘質土の互層。
Ⅸ　にぶい黄褐色土（10YR6/3）締まり強い、粘性やや強い、砕粒を含む粘質土。

元総社蒼海遺跡群（63）



元総社蒼海遺跡群（63）　基本層序
Ⅰa　灰オリーブ色土（5Y4/2）締まりやや強い、粘性やや強い、白色粒微量に含む砕質土。
Ⅰb　灰褐色土（5YR4/2）締まり強い、粘性やや強い、1層土に最少含む、火山の床土のような土層。
Ⅱ　オリーブ黒色土（5Y2/2）締まりやや強い、粘性やや強い、As-B混土層。
Ⅲ　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）Hr-FP軽石小粒、黄褐色ブロック小～中粒少量、締まり、粘性やや強い砕質土。
Ⅳ　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）AsC微量、黄褐色ブロック中～極大粒少量、締まりやや強い、粘性やや強い砕質土。
Ⅴ　オリーブ褐色土（2.5Y4/6）締まり強い、粘性弱い、粒子のやや粗い砕質土。
Ⅵ　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）締まりやや強い、粘性弱い、Ⅳ層に黄褐色ブロック大粒を含む砕質土。

元総社蒼海遺跡群（64）



元総社蒼海遺跡群（64）基本層序Ⅰ-Ⅱ
Ⅰ　にぶい黄褐色土（10YR4/3）現表土。
Ⅱ　にぶい黄褐色土（10YR5/3）締まり有り、粘性弱い、As-Bを少量含む砕質土。
Ⅲ　灰黄褐色土（10YR5/2）締まり有り、粘性弱い、As-B中量、白色粒微量に含む砕質土。
Ⅳ　暗褐色土（10YR3/4）締まり有り、粘性弱い、白色軽石粒を含む。
Ⅴ　暗褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性弱い、Hr-FA小ブロックを少量含む。
Ⅵ　黒褐色土（10YR3/2）締まり有り、粘性弱い、Hr-FA小ブロックを少量含む。
Ⅶ　黒褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性弱い、軽石を含む
Ⅷ　暗褐色土（10YR2/1）締まり有り、粘性弱い、As-C混土。
Ⅸ　黄褐色土（10YR5/6）締まり有り、粘性弱い、砕質土。漸移層。
Ⅹ　黄褐色土（10YR5/6）締まり有り、粘性弱い、砕層。
Ⅺ　褐色土（10YR4/6）締まり有り、粘性弱い、砕層。
Ⅻ　灰黄褐色土（10YR5/2）締まり有り、粘性弱い、砕層。

Fig.4　基本層序

0626364.indd 8　2016/09/26 17:53:16

Ⅴ　遺構と遺物

1　元総社蒼海遺跡群（62）

本調査区は牛池川左岸に位置し、標高117.8 m、南からやや北東へ向かって緩やかな傾斜となっている。北壁面から南に約３m幅の黒褐色土が、南半に拡がる灰色砂質土をＬ字状に囲うような溝跡が検出された。また、灰色砂質土の下層を確認するため、遺構が検出されなかった南壁面沿いにトレンチを設定し掘削を行なった。トレンチからは黄褐色粘質土層（基本層序Ⅶ層）を検出したため、灰色砂質土層は泥流起源の堆積層と考えられる。

（1）溝跡

W－１号溝跡（Fig. 5～7、PL. 1・12）

位置　X 287～290、Y 115～117　**主軸方向**　N－22°－W　**規模**　長さ（18.64 m）　最大上幅（3.76）m　最大下幅（3.52）m　深さ0.57 m　**形状等**　X 290、Y 115付近で西へ向かってほぼ直角に曲がる、断面は（台形状）を呈する。　**重複**　Ｉ－１、Ｄ－１、Ｐ－３～７と重複している。新旧関係は、Ｄ－１→本遺構→Ｉ－１、Ｐ－３～７である。　**出土遺物**　須恵器、土師器、石製品が出土している。土師器壺（１）、土師器甕（２）土師器坏（３）を各１点ずつ図示した。覆土から（１・３）、確認面から（２）が出土している。　**時期**　底面にAs-C混土が堆積している状況から古墳時代前期と考えられる。　**備考**　調査区北東ではHr-FAがまとまって堆積しており、Hr-FA洪水層が一部存在していたと考えられる。

（2）井戸跡、土坑、ピット（Fig. 5～7、PL. 1）

井戸跡１基、土坑１基、ピット７基を確認している。各計測値については「Tab. 2　元総社蒼海遺跡群（62）井戸跡・土坑・ピット計測表」を参照のこと。

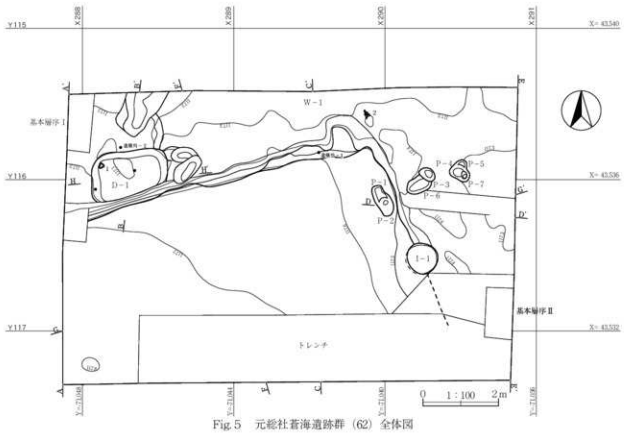


Fig. 5　元総社蒼海遺跡群（62）全体図

0626364.indd 9　2016/09/26 17:53:16

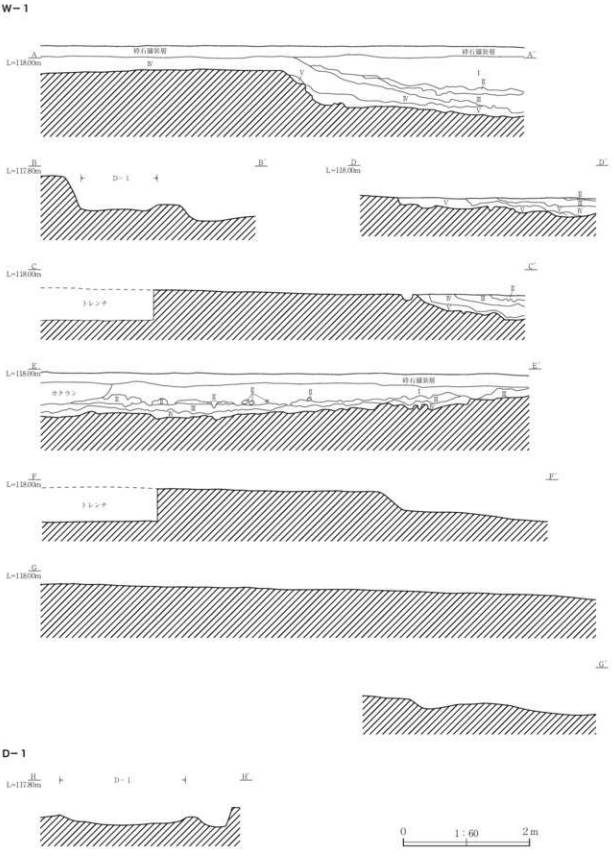


Fig.6　W－1号溝跡、D－1号土坑

o626364.indd 10　2016/09/26 17:53:16

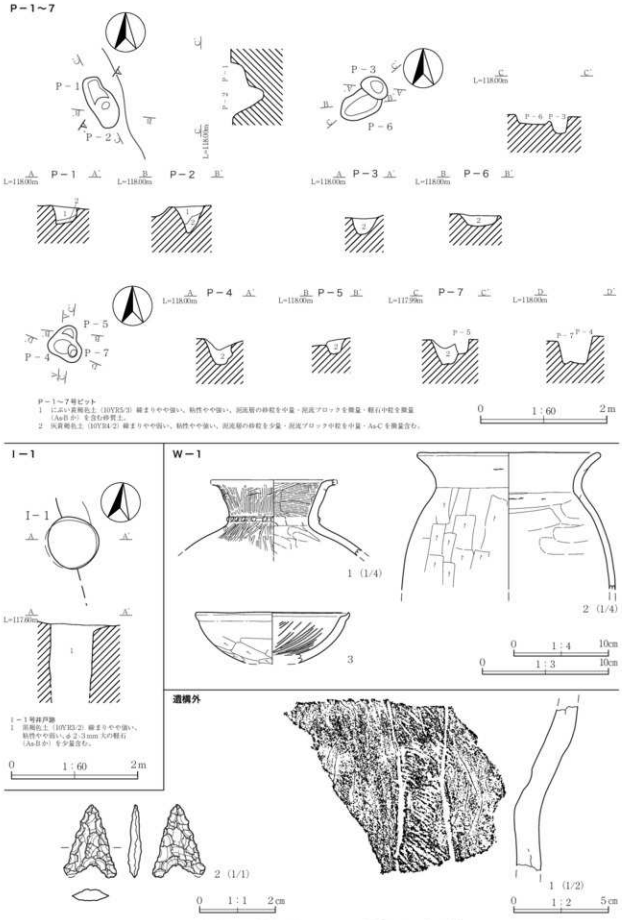


Fig.7 （62）Ⅰ－1号井戸跡、P－1～7号ピット、出土遺物

0626364.indd 11 2016/09/26 17:53:17

Tab. 2　元総社蒼海遺跡群（62）井戸跡・土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
I－1	X288、Y115・116	0.82	0.81	(0.98)	円形
D－1	X290、Y116	2.06	(1.30)	0.23	長方形
P－1	X289、Y116	0.50	0.37	0.29	楕円形

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
P－2	X289・290、Y116	(0.40)	0.31	0.44	楕円形
P－3	X290、Y115	0.47	0.31	0.26	楕円形
P－4	X290、Y115	(0.41)	0.36	0.41	(楕円形)

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
P－5	X290、Y115	0.33	(0.17)	0.28	(楕円形)
P－6	X290、Y115・116	(0.70)	0.43	0.30	楕円形
P－7	X290、Y115	0.32	(0.25)	0.40	(楕円形)

Tab. 3　元総社蒼海遺跡群（62）出土遺物観察表

W－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土 下層	土師器 鉢	(13.0)	－	(8.0)	雲母	良好	黄橙色	外面ハケナデ後ミガキ、胴部に膨らみがある形態をもつ。 内面ハケナデ後、ミガキ、ナデ。	口縁下部～胴上部残存。
2	[illegible]	土師器 甕	(20.0)	－	(14.5)	黒・白色粒・小石	良好	にぶい黄橙色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～胴上部1/6残存。
3	覆土	土師器 坏	(12.3)	丸底	(4.0)	茶色粒	良好	赤褐色	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ミガキ。	1/8残存。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	[illegible]	縄文土器 深鉢か	9.5	9.3	1.3	白・黒・赤褐粒	良好	にぶい橙色 にぶい橙色	外面平行沈線内に無節あるいは[illegible]縄文が充填され、沈線外は磨消し縄文が認められる。内面ヨコナデ。	胴部片。 加曽利E か。

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	石質	焼成	色調	重量	器形、成、整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	石器 円基無茎鏃	1.9	1.4	0.3	黒色安山岩	－	－	0.3 g	表面左半部と表面中央付近に素材剥片段階の剥離面を残して、周縁に調整剥離を施し鋸歯状の側縁を作出している。基部の先端は緩やかに丸みを持たせて作出している。	基部一部欠損。

2　元総社蒼海遺跡群（63）

本調査区は牛池川左岸に位置し、標高116.5 m、北から南へ緩やかな傾斜となっている。調査区のほぼ全面に遺構が分布しており、住居跡20軒、溝跡1条、土坑2基、ピット2基を検出した。

（1）住居跡

H－1号住居跡（Fig. 9・23、PL. 2・12）

位置　X 287～289、Y 140　**主軸方向**　N－63°－E　**規模**　東西軸5.25 m、南北軸（3.64）m、壁現高0.39 m。調査区北部において南半のみの検出であり、北半は調査区外となる。面積（11.66）㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　なし。　**カマド**　検出されず。　**壁周溝**　調査範囲内では全周。床面からの深さは約0.03 mである。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。長軸（0.95）m、短軸0.81 m、深さ0.56 m、上段に浅い段が見られる。　**柱穴** 柱穴と想定されるP 1と北壁面で部分的にP 2が検出された。が長軸0.34 m、短軸0.32 m、深さ0.29 m、P 2が長軸（0.24）m、短軸（0.12）m、深さ0.29 mである。東西間の柱間は（2.40）mである。　**出土遺物**　土師器坏（1～8、その内2～7は模倣坏）、土師器甕（9）が出土している。1～4・6・8が床面直上、5・7・9が貯蔵穴内、5が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から5世紀末から6世紀初頭と想定される。　**備考**　元総社蒼海遺跡群（38）1区H－4号住居跡と同一遺構。

H－2号住居跡（Fig. 9・23、PL. 2・12）

位置　X 289～291、Y 140　**主軸方向**　N－65°－E　**規模**　東西軸（3.77）m、南北軸（3.31）m、壁現高0.35 m。調査区北東部において南西部のみの検出であり、それ以外は調査区外となる。面積（9.22）㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　なし。　**カマド**　検出されず。　**壁周溝**　調査範囲内では全周。床面からの深さは約0.03 mである。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　P 1・2が検出された。P 1が長軸0.35 m、短軸0.32 m、深さ0.55 m、P 2が長軸0.32 m、短軸0.29 m、深さ0.46 m、東西方向で対となり柱間は2.28 mである。　**住居内施設**　床面からの深さ0.10 mの間仕切り溝を3条確認している。　**出土遺物**　土師器坏（1～2）、土師器甕（3）、臼玉（4）が出土している。3・4が床面直上、1・2が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から5世紀末から6世紀初頭と想定される。　**備考**　元総社蒼海遺跡群（38）1区H－7号住居跡と同一遺構。

H－3号住居跡（Fig.10・11・23、PL. 2・12）

位置　X 288・289、Y 141・141　**主軸方向**　N－70°－E　**規模**　東西軸4.71 m、南北軸4.14 m、壁現高0.35 m。

o626364.indd　12　　2016/09/26　17:53:17

面積19.27㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　H－4、D－1と重複する。新旧関係は本遺構→H－4→D－1である。　**カマド**　東壁やや南寄りに位置する。残存状況は全体的に悪く、構造は不明である。カマド確認範囲ではマウンド状に約0.04ｍ起伏しており、燃焼範囲に袖や支脚石を据えたと考えられる掘り込みを確認している。　**壁周溝**　全周で確認。床面からの深さは0.03ｍである。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。長軸0.60ｍ、短軸0.48ｍ、深さ0.68ｍである。　**柱穴**　P1～4が検出された。P1が長軸0.39ｍ、短軸0.38ｍ、深さ0.54ｍ、P2が長軸0.46ｍ、短軸0.35ｍ、深さ0.60ｍ、P3が長軸0.46ｍ、短軸0.36ｍ、深さ0.48ｍ、P4が長軸0.38ｍ、短軸0.35ｍ、深さ0.61ｍである。柱間は東西間2.00～2.05ｍ、南北間2.00～2.11ｍである。　**住居内施設**　床面からの深さ0.09～0.13ｍの間仕切り溝を9条確認している。　**出土遺物**　土師器坏（1～2、その内2は模倣坏）、土師器高坏（3、脚部のみ）が出土している。1～3が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向やH－4との新旧関係から6世紀前半と想定される。

H－4号住居跡（Fig.12・13・23、PL. 3・12）

位置　X 288～290、Y 141～143　**主軸方向**　N－13°－W　**規模**　東西軸4.71ｍ、南北軸4.80ｍ、壁現高0.33ｍ。面積22.61㎡。　**床面**　地山硬化床だがH－3との重複部分では黄褐色土の貼床である。　**重複**　H－3・16と重複する。新旧関係はH－16→H－3→本遺構である。　**カマド**　北壁中央に位置する。確認長0.87ｍ、燃焼幅（0.57）ｍ、燃焼部は壁面を0.35ｍ掘り込んでいる。左袖は残存しており、構築材に灰黄褐色粘土が用いられ、袖端部には焚口脇補強として凝灰質砂岩の切石が残存する。右袖は確認されなかった。支脚には凝灰質砂岩ブロックが用いられている。焚口前面には灰が分布する。天井部材や右袖部材の一部と考えられる凝灰質砂岩が出土している。掘り方においてH－3の壁周溝と間仕切り溝を確認している。　**壁周溝**　全周で確認。床面からの深さは0.05～0.08ｍである。　**貯蔵穴**　南東隅で検出された。長軸0.74ｍ、短軸0.67ｍ、深さ0.60ｍである。上面に浅い段が見られる。　**柱穴**　P1～4が検出された。P1が長軸0.40ｍ、短軸0.27ｍ、深さ0.64ｍ、P2が長軸0.39ｍ、短軸0.33ｍ、深さ0.60ｍ、P3が長軸0.31ｍ、短軸0.30ｍ、深さ0.67ｍ、P4が長軸0.31ｍ、短軸0.30ｍ、深さ0.55ｍである。柱間は東西間2.10～2.40ｍ、南北間2.35～2.40ｍである。　**住居内施設**　床面からの深さ0.06～0.12ｍの間仕切り溝を4条確認している。　**出土遺物**　土師器坏（1～5、その内4・5は模倣坏）、土師器高坏（6）が出土している。1・2・4～6が床面直上、3が貯蔵穴底面からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向やH－3・16との新旧関係から6世紀前半と想定される。

H－5号住居跡（Fig.13・24、PL. 3・13）

位置　X 288・289、Y 142・143　**主軸方向**　N－86°－E　**規模**　東西軸3.57ｍ、南北軸4.08ｍ、壁現高0.21ｍ。面積17.77㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　H－8・17と重複する。新旧関係はH－8→本遺構→H－17である。　**カマド**　検出されず。南東隅は撹乱によって削平されているが、その周辺では灰が分布し、土師器甕や羽釜の破片が出土しており、カマドの位置を想定できる。　**壁周溝**　南壁際以外で確認。床面からの深さは0.03～0.07ｍである。　**貯蔵穴**　南西隅で検出された。長軸0.50ｍ、短軸0.43ｍ、深さ0.20～0.29ｍである。東側に中段が設けられている。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　土坑が2基検出された。D1が長軸1.07ｍ、短軸0.74ｍ、深さ0.37ｍ、D2が長軸1.28ｍ、短軸0.82ｍ、深さ0.32ｍである。　**出土遺物**　須恵器坏（1）、土師質坏（2）、かわらけ状（3～6）、羽釜（7）が出土している。4・6が床面直上、1～3・5・7が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物の傾向から11世紀と想定される。

H－6号住居跡（Fig.14、PL. 3）

位置　X 288・289、Y 142・143　**主軸方向**　N－72°－E　**規模**　東西軸（3.37）ｍ、南北軸（1.02）ｍ、壁現高0.31ｍ。調査区西部において南東の一部のみ検出であり、その他は調査区外となる。面積（1.72）㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　H－12・16と重複する。新旧関係はH－16→本遺構→H－12である。　**カマド**　検出されず。　**壁周溝**　調査範囲内ではほぼ全周で確認。床面からの深さは0.04～0.07ｍである。北側の一部は、撹乱

0626364.indd 13　2016/09/26 17:53:18

によって削平されている。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　土師器の小片が少量出土しているが、図示には至らず。　**時期**　新旧関係より５世紀後半から６世紀前半と考えられる。

Ｈ－７号住居跡（Fig.14・24、PL. ３・13）

位置　X 288・289、Y 143・144　**主軸方向**　N－56°－E　**規模**　東西軸（3.37）m、南北軸（1.02）m、壁現高0.31 m。面積（1.72）㎡。　**床面**　地山硬化床だがＨ－15との重複部分では黄褐色土の貼床である。　**重複**　Ｈ－９・12・13・15・16・18・20と重複する。新旧関係は（Ｈ－18・20）→Ｈ－16→（Ｈ－13→）Ｈ－15→本遺構→Ｈ－12→Ｈ－９である。　**カマド**　東壁南寄りに位置する。確認長（0.67）m、燃焼幅（0.62）m、燃焼部は壁面を0.58 m掘り込んでいる。残存状況は全体的に悪く、床面に灰の分布や燃焼部の焼土化は認められない。また、左袖付近には使用されたと思われる構築材（凝灰質砂岩）が崩れた状態で出土している。　**壁周溝**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　須恵器高坏（１）、土師器坏（２～５、その内５は模倣坏）、管玉（６）が出土している。いずれも覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物と新旧関係から５世紀末から６世紀初頭に想定される。

Ｈ－８号住居跡（Fig.15・24・25、PL. ３・13・14）

位置　X 289・290、Y 143・144　**主軸方向**　N－56°－E　**規模**　東西軸（3.75）m、南北軸（5.88）m、壁現高0.25 m。調査区東部において西半のみの検出であり、東半は調査区外となる。面積（11.03）㎡。　**床面**　地山硬化床だが、Ｈ－10との重複部分では黒褐色土が貼床である。　**重複**　Ｈ－５・９・10と重複する。新旧関係はＨ－10→本遺構→Ｈ－９→Ｈ－５である。　**カマド**　検出されず。　**壁周溝**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　土師器坏（１～３、いずれも模倣坏）、土師器高坏（４・５）、土師器小型壺（６）、土師器甕（７～11）、土師器甑（12）が出土している。１・５～８、10～12が床面直上、２～４・９が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物と新旧関係から６世紀前半と想定される。

Ｈ－９号住居跡（Fig.15・16・25、PL. ３・４・14）

位置　X 289・290、Y 144・145　**主軸方向**　N－92°－W　**規模**　東西軸3.10 m、南北軸4.30 m、壁現高0.40 m。面積13.33 ㎡。　**床面**　地山硬化床だがＨ－８・10との重複部分では黄褐色土の貼床である。　**重複**　Ｈ－７・８・10・14・19、Ｗ－１と重複する。新旧関係はＨ－10→Ｈ－７→Ｈ－８・14・19→本遺構→Ｗ－１である。**カマド**　西壁南寄りに位置する。確認長1.70 m、燃焼幅0.49 m、煙道は壁面を1.03 m掘り込んでいる。燃焼部は平坦で、両袖は黒褐色土混じりの灰黄褐色粘土が構築材に用いられ、袖端部には焚口脇補強として凝灰質砂岩の切石が残存する。燃焼部には支脚に用いられたと考えられる安山岩が出土し、焚口では凝灰質砂岩の切石の右側に被さるように土師器甕が出土している。　**壁周溝**　検出されず。　**貯蔵穴**　南西隅で検出された。長軸0.52 m、短軸0.49 m、深さ0.32 mである。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　土師器坏（１～３、いずれも模倣坏）、土師器鉢（４）、土師器甕（５・６）が出土している。２・３・６が床面直上、１・５が貯蔵穴内、４が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物と新旧関係から６世紀後半と想定される。

Ｈ－10号住居跡（Fig.16・17・26、PL. ４・14）

位置　X 289・290、Y 143～145　**主軸方向**　N－77°－W　**規模**　東西軸（4.33）m、南北軸（7.07）m、壁現高0.56 m。調査区南東部において西半のみの検出であり、東半は調査区外となる。面積（19.44）㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　Ｈ－８・９・14、Ｗ－１と重複する。新旧関係は本遺構→Ｈ－８・14→Ｈ－９→Ｗ－１である。**カマド**　検出されていないが、西壁南寄りに灰が分布し、焼土化した浅い掘り込みが確認できるため、カマドの位置として想定される。　**壁周溝**　調査範囲内で確認。床面からの深さは約0.03 mである。　**貯蔵穴**　南西隅で検出された。長軸0.80 m、短軸0.73 m、深さ0.32 mである。　**柱穴**　柱穴と想定されるＰ１・２が検出された。

0626364.indd 14　2016/09/26 17:53:18

P１が長軸 0.48 m、短軸 0.40 m、深さ 0.73 m、P２が長軸 0.28 m、短軸 0.24 m、深さ 0.43 m、南北方向で対となり柱間は 3.95 mである。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　土師器坏（１～３、その内３が模倣坏）、土師器高坏（４）が出土している。１が床面直上、３・４が貯蔵穴底面、２が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物と新旧関係から５世紀後半と想定される。

H－11 号住居跡（Fig.17・26、PL. 4・14）

位置　X 288・289、Y 143　**主軸方向**　N－85°－E　**規模**　調査区西部においてカマド燃焼部のみの検出であり、大半は調査区外である。　**重複**　H－12・15 と重複する。新旧関係はH－15→H－12→本遺構である。**カマド**　東壁北寄りに位置すると想定される。確認長（0.49）m、燃焼幅 0.38 m、燃焼部は壁面を 0.42 m掘り込んでいる。残存状況は悪い。煙出し部で煙道の補強に用いられたと思われる凝灰質砂岩ブロックが２点出土している。　**出土遺物**　カマド使用面から羽釜の小片、覆土から須恵器甕・高台付坏（１）、土師質坏を少数出土している。　**時期**　出土遺物の傾向と新旧関係から 11 世紀と想定される。

H－12 号住居跡（Fig.17・26、PL. 4・14・15）

位置　X 288・289、Y 143・144　**主軸方向**　N－84°－W　**規模**　東西軸（3.69）m、南北軸 3.09 m、壁現高 0.13 m。面積（11.40）㎡。　**床面**　直床だが、覆土中に構築されたためか、いくらか沈んだ状態である。　**重複**　H－６・７・11・15・16 と重複する。新旧関係はH－16→H－15→H－７→（H－６→）本遺構→H－11 である。**カマド**　検出されず。　**壁周溝**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　須恵器蓋（１）、土師器坏（２、模倣坏）、土師器甕（３・４）が出土している。１・３が床面直上、２・４が覆土からの出土である。　**時期**　出土遺物と新旧関係から６世紀前半と想定される。

H－13 号住居跡（Fig.18、PL. 4・５）

位置　X 288・289、Y 144　**主軸方向**　N－107°－W　**規模**　東西軸（2.38）m、南北軸（1.70）m、壁現高 0.07 m。重複により南西部のみの残存である。大半はH－７・15 によって切られている。面積（6.46）㎡。　**床面**　黒褐色土に灰黄褐色粘土ブロックが混入した貼床である。　**重複**　H－７・15・18・20 と重複する。新旧関係は（H－18・20）→（本遺構→）H－15→H－７と推定される。　**カマド**　西壁南寄りに位置する。確認長 0.90 m、燃焼幅 0.49 m、燃焼部は壁面で立ち上がる。残存状況は悪い。両袖は灰色粘土で構築され、燃焼部に焼土化が認められる。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　土師器の小片がわずかに出土しているが、図示には至らず。　**時期**　新旧関係から５世紀末以前と想定される。

H－14 号住居跡（Fig.18、PL. ５）

位置　X 289・290、Y 144・145　**主軸方向**　N－75°－W　**規模**　東西軸 2.28 m、南北軸 1.80 m、壁現高 0.19 m。調査区南東部において北西部のみ検出であり、大半は調査区外である。面積（3.00）㎡。　**床面**　地山硬化床だがH－10 との重複部分では黄褐色土の貼床である。　**重複**　H－９・10、W－１と重複する。新旧関係はH－10→本遺構→H－９→W－１である。　**カマド**　検出されず。　**貯蔵穴**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。**住居内施設**　検出されず。　**出土遺物**　土師器の小片が少数出土しているが、図示には至らず。　**時期**　新旧関係から６世紀前半と想定される。　**備考**　北壁には焼土がまだらに分布し、床面直上に炭化材を出土しているため、焼失家屋の可能性が考えられる。

H－15 号住居跡（Fig.19・20・26、PL. ５・15）

位置　X 288・289、Y 143・144　**主軸方向**　N－57°－W　**規模**　東西軸（3.32）m、南北軸（4.30）m、壁現高 0.34 m。調査区西部において東半のみの検出であり、西半は調査区外である。面積（6.46）㎡。　**床面**　地山硬化床。**重複**　H－７・11・12・13・16 と重複する。新旧関係はH－16→（H－13→）本遺構→H－７→H－12 である。　**カマド**　西壁南寄りに位置する。確認長 1.80 m、燃焼幅 0.49 m、燃焼部は壁面を 0.24 m掘り込んでいる。上面はH－12 によって削平されている。両袖は灰黄褐色粘土で構築される。左袖先端には、焚口の補強のため

0626364.indd 15　2016/09/26 17:53:18

に用いられたと考えられる凝灰質砂岩の切石が残存する。支脚にも凝灰質砂岩の切石が用いられている。 **貯蔵穴** 南東隅に検出された。長軸0.62 m、短軸0.59 m、深さ0.63 mである。 **柱穴** 柱検出されず。 **住居内施設** 床面からの深さ0.15 mの間仕切り溝1条が確認されている。 **出土遺物** 土師器坏（1）、土師器高坏（2）、土師器甕（3）が出土している。2が床面直上、3がカマド、1が覆土からの出土である。 **時期** 出土遺物の傾向や新旧関係から5世紀末から6世紀初頭と想定される。

H－16号住居跡（Fig.19・20・26、PL. 5・15）

位置 X 288・289、Y 142～144 **主軸方向** N－57°－W **規模** 東西軸（3.02）m、南北軸5.91 m、壁現高0.32 m。調査区西部において東半のみ検出であり、西半は調査区外である。面積（17.85）㎡。 **床面** 地山硬化床。 **重複** H－4・6・7・12・15と重複する。新旧関係は本遺構→H－15→H－7・6→H－4→H－12である。 **カマド** 東壁やや南寄りに位置する。確認長（0.97）m、燃焼幅0.50 m、燃焼部は壁面を0.08 m掘り込んでいる。残存状況は悪い。両袖は灰黄褐色粘土で構築されている。燃焼部には焼土化が認められない。左袖先端には焚口の補強のために用いられたと考えられる凝灰質砂岩の切石が残存する。右袖はH－7による削平を受けている。 **貯蔵穴** 南東隅に検出された。長軸0.84 m、短軸0.71 m、深さ0.73 mである。上端はH－7による削平を受けている。 **柱穴** P 1～3が検出された。P 1が長軸0.37 m、短軸0.32 m、深さ0.40 m、P 2が長軸0.37 m、短軸0.30 m、深さ0.54 m、P 3が長軸0.36 m、短軸0.34 m、深さ0.67 mである。柱間は東西間2.36 m、南北間3.15 mである。 **住居内施設** 検出されず。 **出土遺物** 須恵器蓋（1）、土師器坏（2）、土師器甕（3）、土師器甑（4）が出土している。1・2が床面直上、3・4が覆土からの出土である。また、3・4については出土位置からH－12に帰属する可能性がある。 **時期** 出土遺物の傾向や新旧関係から5世紀後半と想定される。

H－17号住居跡（Fig.18、PL. 5）

位置 X 290、Y 143 **主軸方向** N－43°－E **規模** 東西軸（0.14）m、南北軸（0.47）m、壁現高0.15 m。調査区東部においてカマド燃焼部のみの検出であり、大半は調査区外である。 **重複** H－5と重複する。新旧関係は不明である。 **カマド** 西壁北寄りに位置すると想定される。確認長（0.35）m、燃焼幅（0.38）m、燃焼部は壁面を（0.35）m掘り込んでいる。南側は撹乱によって壊されている。 **出土遺物** なし。 **時期** 詳細な時期は不明。

H－18号住居跡（Fig.21・26、PL. 5・15）

位置 X 288・289、Y 144 **主軸方向** N－60°－W **規模** 東西軸（4.01）m、南北軸（3.09）m、壁現高0.04 m。調査区西部において東半のみ検出であり、西半は調査区外である。面積（10.31）㎡。 **床面** 地山硬化床。 **重複** H－7・13・15・20、W－1と重複する。新旧関係は（本遺構→H－13→）H－15→H－7である。H－20とは不明。 **カマド** 検出されず。 **壁周溝** 検出されず。 **貯蔵穴** 検出されず。 **柱穴** P 1～2が検出された。P 1が長軸0.40 m、短軸0.38 m、深さ0.73 m、P 2が長軸0.46 m、短軸（0.35）m、深さ0.53 mである。柱間は東西間2.40 mである。 **住居内施設** 検出されず。 **出土遺物** 覆土から土師器坏、土師器甕の小片を少数、土師器鉢（1）を出土している。 **時期** 出土遺物と新旧関係から5世紀末以前と想定される。 **備考** H－13の貼床直下に床面を確認した。

H－19号住居跡（Fig.21、PL. 6）

位置 X 289、Y 144・145 **主軸方向** N－57°－W **規模** 東西軸（1.80）m、南北軸（1.84）m、壁現高0.33 m。面積（1.82）㎡。大半はW－1に切られる。 **床面** 地山硬化床。 **重複** H－9、W－1と重複する。新旧関係は本遺構→H－9→W－1である。 **カマド** 検出されず。 **壁周溝** 調査範囲内で確認。床面からの深さは約0.05 mである。 **貯蔵穴** 検出されず。 **柱穴** 柱穴と想定されるP 1がW－1底面から検出された。長軸0.36 m、短軸0.35 m、深さ0.36 m、床面からの深さは0.47 mである。 **住居内施設** 検出されず。 **出土遺物** なし。 **時期** 新旧関係から6世紀前半以前と想定される。

0626364.indd 16 2016/09/26 17:53:18

H－20号住居跡（Fig.21、PL. 5）

位置　X 288、Y 144・145　主軸方向　不明　規模　東西軸（2.09）m、南北軸（1.67）m、壁現高　不明。面積（2.34）㎡。重複する遺構に切られ、島状に残されている。　床面　地山硬化床。　重複　H－7・13・18、W－1と重複する。新旧関係はH－18とは不明、（本遺構→H－13→）H－15→H－7である。　カマド　検出されず。　壁周溝　検出されず。　貯蔵穴　検出されず。　柱穴　P 1～2が検出された。P 1が長軸0.44 m、短軸0.41 m、深さ0.42 m、P 2が長軸0.44 m、短軸0.41 m、深さ0.43 mである。柱間は南北間2.98 mである。　住居内施設　検出されず。　出土遺物　なし。　時期　新旧関係から5世紀末以前と想定される。

（2）溝跡

W－1号溝跡（Fig.22、PL. 6）

位置　X 288～290、Y 144・145　主軸方向　N－97°－W　規模　長さ（10.30 m）、最大上幅（1.83）m、最大下幅（1.52）m、深さ0.54 m、調査区南部において北半のみの検出であり、南半は調査区外である。　形状等　西から東へ走向する、断面は台形状を呈する。　重複　H－9・10・14・18～20と重複している。新旧関係は、（H－18・20→）H－10→H－14・19→H－9→本遺構である。　出土遺物　緑釉陶器、須恵器、土師器の破片が少量出土している。小片のため図示には至らず。　時期　新旧関係と覆土状況から中世以降と考えられる。　備考　元総社蒼海遺跡群（7）で検出されているW－2と同一の遺構と考えられる。

（3）土坑、ピット（Fig22・26、PL. 6・15）

土坑2基、ピット2基を検出した。各計測値については「Tab. 4　元総社蒼海遺跡群（63）土坑・ピット計測表」を参照のこと。

D－1では底面から砥石（1）が出土している。

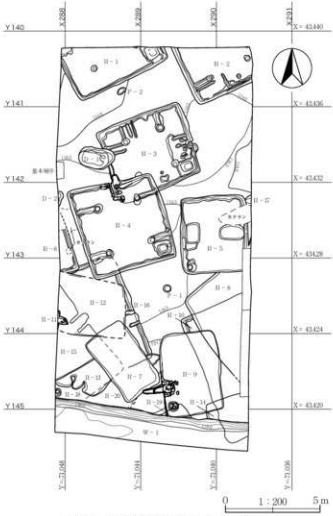


Fig. 8　元総社蒼海遺跡群（63）全体図

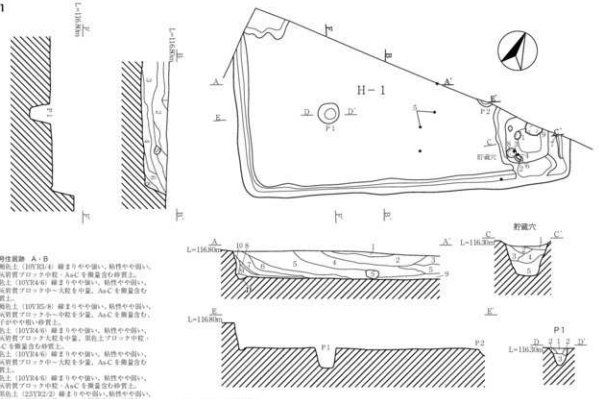
Tab. 4　元総社蒼海遺跡群（63）土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
D－1	X288、Y141	1.67	1.13	0.45	楕円形
D－2	X287・288、Y142	2.06	0.80	0.25	楕円形

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
P－1	X289、Y143	0.41	0.39	0.26	円形
P－2	X289、Y140	0.50	0.30	0.25	楕円形

0626364.indd　17　2016/09/26　17:53:18

H－1

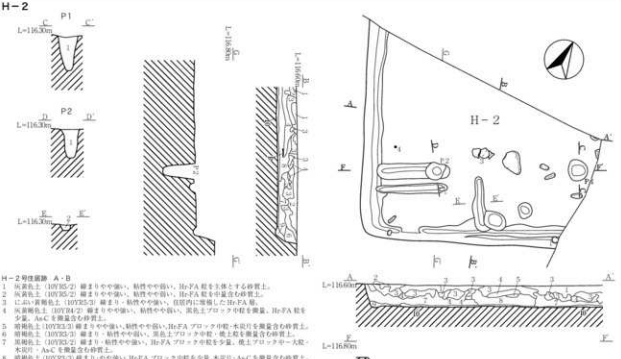


H－1号住居跡　A・B
1　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強い、粘性やや弱い、礫(礫質ブロック小粒・AsC を微量含む)
2　褐色土（10YR4/6）締まりやや強い、粘性やや弱い、礫(礫質ブロック小～大粒を少量、AsC を微量含む)
3　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、礫(礫質ブロック小～中粒を少量、AsC を微量含む、粒子がやや粗い)
4　褐色土（10YR4/6）締まりやや強い、粘性やや弱い、礫(礫質ブロック大粒を中量、黒色土ブロック中粒・AsC を微量含む)
5　褐色土（10YR4/6）締まりやや強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小～大粒を少量、AsC を微量含む)
6　褐色土（10YR4/6）締まりやや強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック中粒・AsC を微量含む)
7　赤黒色土（2.5YR2/2）締まりやや強い、粘性やや強い、焼土粒・木炭粒を中量、AsC を微量含む、粒子がやや粗い)
8　褐色土（10YR4/6）締まりやや強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒・AsC を微量含む)
9　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒を少量含む)
10　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性強い、礫(礫質ブロック小粒・AsC を微量含む)
11　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒を少量、AsC を微量含む)

H－1号住居跡　C（貯蔵穴）
1　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、礫(礫質ブロック中粒・灰色粘質土ブロック中粒を微量含む、粒子がやや粗い)
2　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、礫(礫質ブロック小～中粒を中量、灰色粘質土ブロックを微量含む、粒子がやや粗い)
3　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、礫(礫質ブロック小～大粒を微量含む、粒子がやや粗い)
4　黒褐色土（10YR2/3）締まり強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒を微量含む)
5　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒・灰色粘質土ブロック小粒を微量含む、粒子やや粗い)

H－1号住居跡　D（P1）
1　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小～大粒を少量、黒色土ブロック大粒を中量含む)
2　黒褐色土（10YR2/2）締まり・粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒を少量、黒色土ブロック中粒を少量含む)
3　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり強い、粘性やや強い、礫(礫質ブロック小粒を少量含む、粒子がやや粗い)

H－2

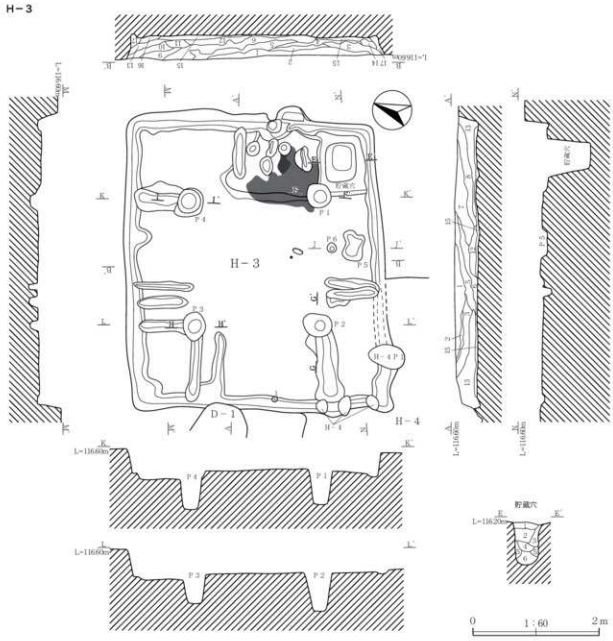


H－2号住居跡　A・B
1　灰黄色土（10YR5/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、Hr-FA 粒を主体とする砂質土。
2　灰黄色土（10YR5/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、Hr-FA 粒を中量含む砂質土。
3　にぶい黄褐色土（10YR5/3）締まり・粘性やや強い、住居内に堆積した Hr-FA 層。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性やや強い、黒色土ブロック中粒を微量、Hr-FA 粒を少量、AsC を微量含む砂質土。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、Hr-FA ブロック中粒・木炭片を微量含む砂質土。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや強い、黒色土ブロック中粒・焼土粒を微量含む砂質土。
7　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや強い、粘性やや強い、Hr-FA ブロック中粒を少量、焼土ブロック小～大粒・木炭片・AsC を微量含む砂質土。
8　暗褐色土（10YR3/3）締まり・やや強い、Hr-FA ブロック中粒を少量、木炭片・AsC を微量含む砂質土。
9　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、地山の黒色粘質ブロック中粒を少量、AsC を微量含む砂質土。
10　暗褐色土（10YR3/4）締まり強い、粘性やや強い、床面直上の礫質土。黒色粘質ブロック小～中粒を中量、木炭・AsC を微量含む砂質土。

H－2号住居跡　C～E（P1・2）
1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり強い、粘性有り、黒色土ブロック・木炭片を少量含む。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強い、粘性やや有り、黒色土ブロック粒をやや多量、木炭粒・焼土粒を少量含む砂質土。

Fig.9　(63) H－1・2号住居跡

0626364.indd　18　2016/09/26　17:53:20



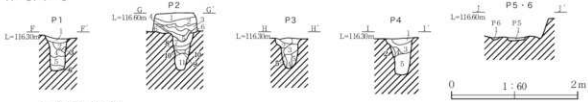
H－3号住居跡　A－B
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性やや弱い、AsCを中量、黄褐ブロック小～中粒を少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、AsCを微量、被熱した灰オリーブ色粘質土ブロック大粒を微量、木炭片を中量含む砂質土。
3　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）締まり・粘性やや弱い、AsCを微量、被熱した灰オリーブ色粘質土ブロックや粒を少量、粒子がやや粗い砂質土。
4　にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まり・粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック大粒を多量、灰オリーブ色粘質土のやや強く化したブロック大粒を中量、木炭片を中量含む砂質土。
5　黄褐色土（10YR5/6）締まり強い、粘性やや弱い、褐灰岩質ブロック大粒を主体とし、AsCを微量含む砂質土。
6　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、黒色土ブロック大粒を主体とし、AsCを少量、黄褐ブロック小～中粒を小量含む砂質土。
7　灰黄褐色土（10YR5/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、灰オリーブ色粘質土ブロック中粒・黄褐ブロックや粒を中量、黒色土ブロック小～中粒を少量含む砂質土。
8　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、AsCを少量、黄褐ブロック小～中粒・黒色土ブロック中～大粒を微量含む砂質土。
9　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、AsC・黄褐ブロック小～中粒を微量含む砂質土。
10　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、AsC・黄褐ブロック小粒を少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
11　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり・粘性やや強い、AsCを微量、黄褐ブロック小～中粒を中量含む砂質土。
12　暗灰黄色土（2.5Y4/2）締まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック・黄褐ブロック中粒を少量含む砂質土。
13　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、AsCを微量、黄褐ブロック小粒を微量含む砂質土。
14　にぶい黄褐色土（10YR5/4）締まり・粘性やや強い、被熱した灰オリーブ色粘質土ブロック大粒主体とし、木炭片を少量含む砂質土。
15　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、床直上の強質土、灰オリーブ色粘質土ブロックや粒を少量、木炭片を微量含む砂質土。
16　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック粒を少量含む砂質土。
17　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性弱い、黄褐ブロック小～中粒を中量含む砂質土。

H－3号住居跡　E　（貯蔵穴）
1　暗オリーブ褐色土（2.5Y3/3）締まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土粒を中量、黄褐ブロック中～大粒を中量含む砂質土。
2　オリーブ黒色土（5Y3/2）締まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック小～大粒を中量、黄褐ブロック中粒を微量含む砂質土。
3　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック中粒・黄褐ブロック中粒を微量含む砂質土。
4　黒色土（2.5Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒を少量含む砂質土。
5　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘質土ブロック中粒・黄褐ブロック中粒を少量含む砂質土。
6　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小粒を少量含む砂質土。

Fig.10　(63) H－3号住居跡

0626364.indd　19　2016/09/26　17:53:20

H－3P1～6



H－3号住居跡　F（P1）

1　黒褐色土（10YR2/2）縁まり・粘性やや強い、暗赤灰色粘質土ブロック大粒を中量、AsCを微量含む、粒子がやや粗い砂質土。
2　黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック大粒・黄褐ブロック大粒を少量含む砂質土。
3　黄褐色土（10YR5/6）縁まりやや強い、粘性弱い、灰黄褐色砂質土を主体とし、黄褐ブロックの一小粒を少量含む、粒子が粗い砂質土。
4　暗褐色土（10YR3/4）縁まり・粘性やや強い、黄褐ブロックの一大粒を中量含む、粒子がやや粗い砂質土。
5　灰黄褐色土（10YR4/2）縁まり・粘性やや強い、灰黄褐色砂質土を主体とし、同ブロックの一大粒を中量含む、粒子が粗い砂質土。
6　褐色土（10YR4/6）縁まりやや強い、粘性弱い、灰黄褐色砂質土の第一層、粒子が粗い砂質土。

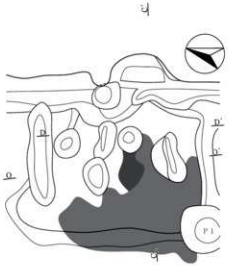
H－3号住居跡　G（P2）

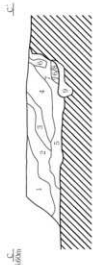
1　黒褐色土（10YR2/2）縁まり・粘性やや強い、AsCを微量、暗赤灰色粘質土ブロックの一大粒を微量含む砂質土。
2　黒褐色土（10YR2/3）縁まり・粘性やや強い、暗赤灰色粘質土ブロック小粒を少量、黄褐ブロック小粒を微量含む砂質土。
3　黒色土（10YR2/1）本炭主体の薄い層。
4　黒褐色土（10YR2/3）縁まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・暗赤灰色粘質土ブロック小粒を微量含む、粒子がやや粗い砂質土。
5　褐色土（5YR4/6）縁まりやや強い、粘性やや強い、赤化した粘質土ブロックを主体とし、灰を少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
6　黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・黒色土ブロック小粒・灰色粘質土ブロック小粒を微量含む、粒子がやや粗い砂質土。（以上、H－4）
7　黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック大粒・黄褐ブロック大粒を少量含む砂質土。（以下、H－3P2）
8　黒褐色土（10YR2/3）縁まり・粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック大粒・黄褐ブロック中粒を少量含む、粒子が粗い砂質土。
9　黒褐色土（10YR2/2）黒色粘質土ブロックの大粒。
10　褐色土（10YR4/6）縁まりやや強い、粘性弱い、灰黄褐色砂質土の第一層、粒子が粗い砂質土。
11　灰黄褐色土（10YR4/2）縁まり・粘性やや強い、灰黄褐色砂質土を主体とし、同ブロックの一大粒を中量含む、粒子が粗い砂質土。

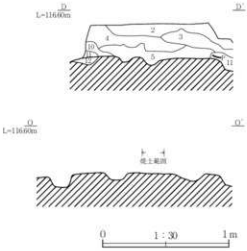
H－3号住居跡　H～J（P3～6）

1　黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック大粒・黄褐ブロック大粒を少量含む砂質土。
2　黄褐色土（10YR5/6）縁まりやや強い、粘性弱い、灰黄褐色砂質土を主体とし、黄褐ブロックの一小粒を少量含む、粒子が粗い砂質土。
3　黒褐色土（10YR2/3）縁まり・粘性やや強い、黒褐色粘質土ブロック大粒・黄褐ブロック小粒を少量含む、粒子が粗い砂質土。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）縁まり・粘性やや強い、灰黄褐色砂質土を主体とし、同ブロックの一大粒を中量含む、粒子が粗い砂質土。
5　褐色土（10YR4/6）縁まりやや強い、粘性弱い、灰黄褐色砂質土の第一層、粒子が粗い砂質土。

H－3カマド





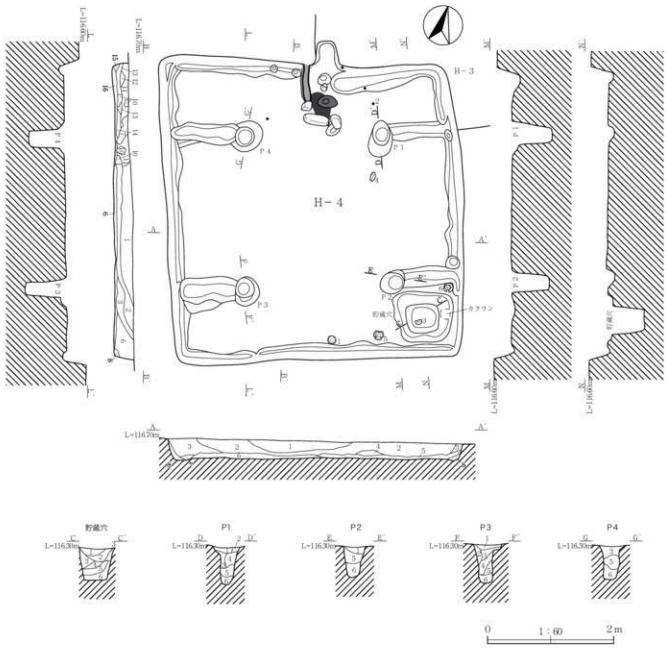


H－3号住居跡　C－D（カマド）

1　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック中粒を多量、黄褐ブロック小粒を微量含む砂質土。
2　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック小粒を中量、黒色土ブロック大粒を微量含む砂質土。
3　灰オリーブ色土（5Y4/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック大粒を多量、黄褐ブロック小粒・黒色土ブロック中粒を微量含む砂質土。
4　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロックの一小粒を少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
5　灰オリーブ色土（5Y4/2）縁まり・粘性強い、灰オリーブ色粘土ブロック・同粘土粒を主体とし、黄褐ブロックの一大粒を少量、下方に灰を少量含む砂質土。
6　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック大粒・黄褐ブロック中粒を中量含む砂質土。
7　黄褐色土（2.5Y5/6）黄褐ブロック大粒を主体。
8　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック中粒・同ブロックの焼土ブロック中粒を少量、本炭を微量含む砂質土。
9　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘土粒が中量、黄褐ブロック小粒を少量含む砂質土。
10　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まりやや強い、粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロックの一大粒が中量、黄褐ブロック中粒を微量含む砂質土。
11　オリーブ黒色土（5Y3/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック小粒・黄褐ブロック小粒を微量含む、粒子がやや粗い砂質土。
12　灰オリーブ色土（5Y4/2）縁まり・粘性やや強い、灰オリーブ色粘土ブロック大粒を主体とする砂質土。

Fig.11　(63) H－3号住居跡P1～6・カマド

o626364.indd　20　2016/09/26　17:53:22



H－4号住居跡　A・B

1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性やや弱い、黄褐ブロック大粒を少量、Hr-FA ブロック中～大粒を少量、AsC を微量含む砂質土。
2　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり有り、粘性やや弱い、黄褐ブロック小～中粒を中量、Hr-FA ブロック大粒を少量、AsC を少量含む砂質土。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや有り、粘性弱い、黄褐ブロック大粒を微量、Hr-FA ブロック小粒を少量、AsC を少量含む砂質土。
4　褐灰色土（10YR4/1）2層に木炭片を含む層。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性やや弱い、黄褐ブロック中粒を少量、木炭を少量含む砂質土。
6　暗褐色土（10YR3/4）黄褐ブロック小粒を中量、木炭片を含む砂質土。
7　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小粒・木炭を少量含む砂質土。
8　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小～中粒を中量含む砂質土。
9　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック小粒を少量含む砂質土。
10　にぶい黄褐色土（10YR5/3）Hr-FA ブロック純層。
11　黒褐色土（10YR3/2）締まりやや弱い・粘性有、Hr-FA 粒を多く含む砂質土。
12　黒褐色土（10YR3/2）締まり弱い・粘性有、Hr-FA 粒・AsC・黒色土ブロック中粒を少量含む砂質土。
13　黒褐色土（10YR3/2）締まり・粘性やや弱い、Hr-FA 粒・黄褐ブロック中粒を少量含む砂質土。
14　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや弱い、粘性有り、Hr-FA 粒を中量、Hr-FA ブロック中粒を少量含む砂質土。
15　暗褐色土（10YR3/4）締まり弱い、粘性やや弱い、Hr-FA 粒を少量、黄褐ブロック小粒を少量含む砂質土。
16　暗褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性やや弱い、Hr-FA 粒を中量、Hr-FA ブロック中粒を少量、黄褐ブロック小粒を中量含む砂質土。

H－4号住居跡　C～G（貯蔵穴 P1～4）

1　黒褐色土（10YR2/2）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック小粒を少量、Hr-FA ブロック中粒を少量含む砂質土。
2　褐色土（10YR4/6）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小粒を多量含む砂質土。
3　褐色土（10YR4/6）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小粒を多量含む砂質土。
4　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小～大粒を中量含む砂質土。
5　褐色土（10YR4/6）締まり・粘性無し、黄褐ブロック大粒を多量含む砂質土。
6　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小～大粒を多量含む砂質土。

Fig.12 （63）H－4号住居跡

0626364.indd 21　2016/09/26 17:53:22

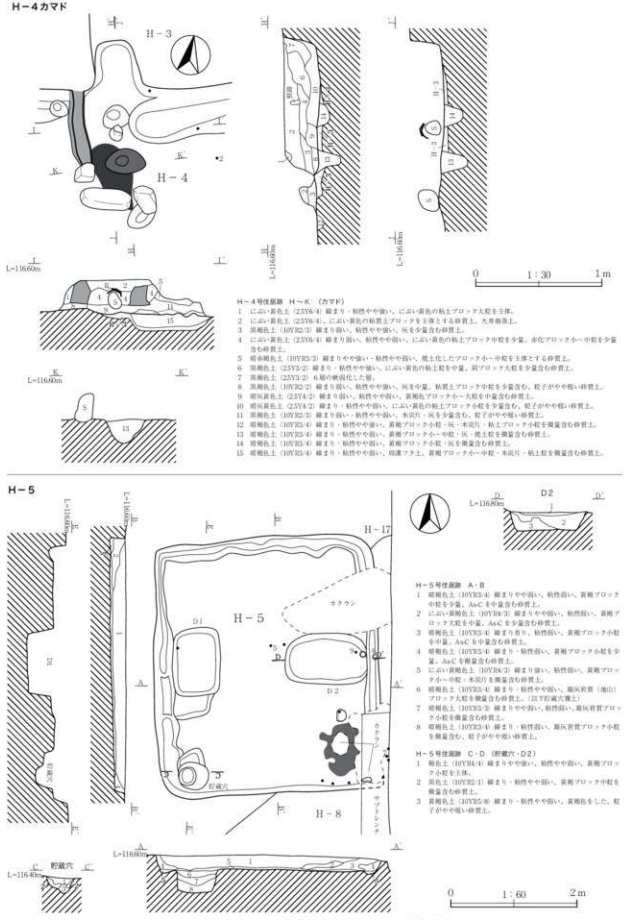
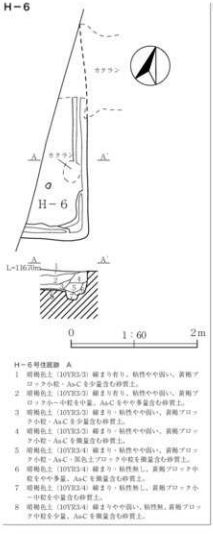


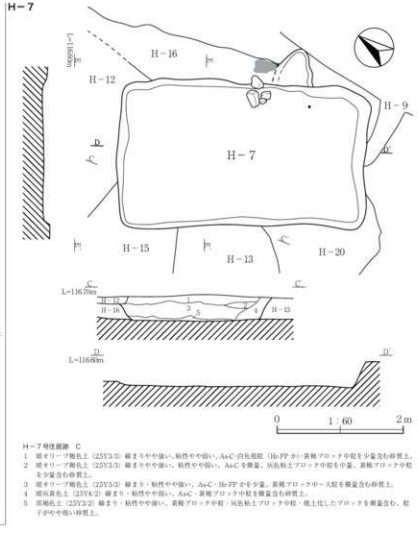
Fig.13　(64) H－4号住居跡カマド、H－5号住居跡

0626364.indd 22　2016/09/26 17:53:23



H－6号住居跡　A

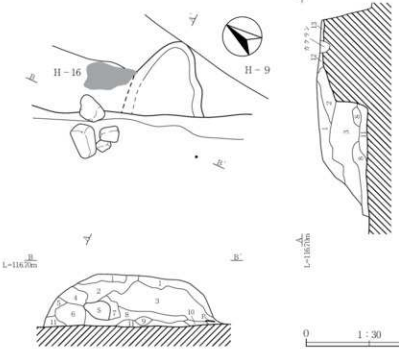
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性やや弱い、黄褐ブロック小粒・AsC を少量含む炉跡土。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり有り、粘性やや弱い、黄褐ブロック小～中粒を中量、AsC 小粒を少量含む炉跡土。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック小粒・AsC を少量含む炉跡。
4　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック小粒・AsC を微量含む炉跡土。
5　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック小粒・AsC・黒色土ブロック小粒を微量含む炉跡土。
6　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性無し、黄褐ブロック中粒をやや多量、AsC を微量含む炉跡土。
7　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性無し、黄褐ブロック小～中粒を中量含む炉跡土。
8　暗褐色土（10YR3/4）締まりやや弱い、粘性無、黄褐ブロック中粒を少量、AsC を微量含む炉跡土。



H－7号住居跡　C

1　暗オリーブ褐色土（25Y3/3）締まりやや強い、粘性やや弱い、AsC・白色粗粒（Hr-FP か）黄褐ブロック中粒を少量含む炉跡土。
2　暗オリーブ褐色土（25Y3/3）締まりやや強い、粘性やや弱い、AsC を微量、灰色粘土ブロック中粒を中量、黄褐ブロック中粒を少量含む炉跡土。
3　暗オリーブ褐色土（25Y3/3）締まり・粘性やや強い、AsC・Hr-FP かを少量、黄褐ブロック小～大粒を微量含む炉跡土。
4　暗灰黄色土（25Y4/2）締まり・粘性やや強い、AsC・黄褐ブロック中粒を微量含む炉跡土。
5　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中粒・灰色粘土ブロック中粒・焼土化したブロックを微量含む、粒子がやや強い炉跡土。

H－7カマド



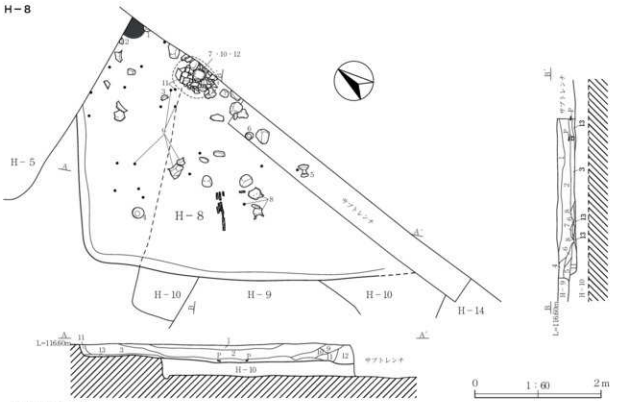
H－7号住居跡　A－B（カマド）

1　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり・粘性やや強い、AsC・灰色粘土ブロック小粒・焼土化した粘土ブロック小粒を微量含む炉跡土。
2　灰黄褐色土（10YR5/2）締まりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土粒・岡ブロック小～中粒・焼土化した粘土ブロック小～中粒を中量含む、粒子がやや強い炉跡土。
3　灰黄褐色土（10YR4/2）締まり・粘性やや強い、AsC・灰色粘土ブロック中粒・黄褐ブロック小粒を微量含む炉跡土。
4　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性やや強い、AsC を微量、焼土化した粘土ブロック中粒を少量含む炉跡土。
5　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、AsC を微量、黄褐ブロック中粒を少量含む、粒子がやや強い炉跡土。
6　褐色土（10YR4/6）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒を主体とし、粒子がやや強い炉跡土。
7　灰黄褐色土（10YR5/2）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック中粒・焼土化した粘土ブロックを微量含む、粒子がやや強い炉跡土。
8　灰黄褐色土（10YR4/2）締まりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック小粒・焼土ブロック小粒を微量含む炉跡土。
9　褐色土（10YR4/6）灰色粘土ブロック・焼土化した粘土ブロックを主体とする炉跡土。
10　暗灰色土（10YR4/1）締まり・粘性強い、灰色粘土粒・岡ブロック小～中粒を主体とし、粒子がやや強い炉跡土。
11　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック粒を少量含む、粒子がやや強い炉跡土。
12　赤褐色土（25YR4/6）締まり強い、粘性やや強い、焼土粒・岡ブロック小粒を主体とし、粒子がやや強い炉跡土。
13　灰黄褐色土（10YR5/2）締まりやや強い、粘性弱い、灰色粘土粒を少量、焼土粒を微量含む炉跡土。

Fig14　(63) H－6・7号住居跡

0626364.indd 23　2016/09/26 17:53:24

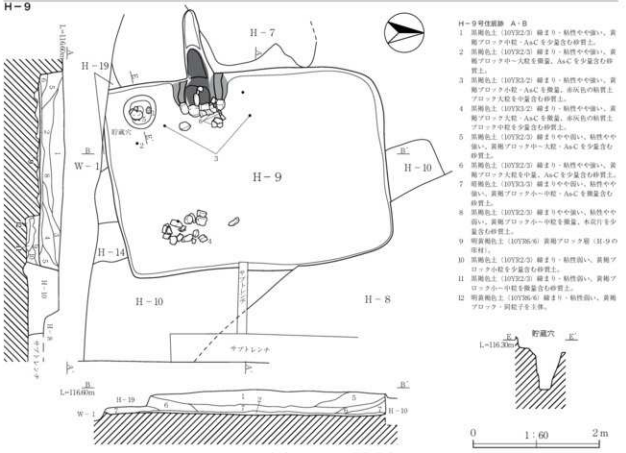
H－8



H－8号住居跡　A・B

1　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・AsCを微量含む砂質土。
2　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中粒・AsC・灰黄色粘質土ブロック（Hr.Fa.P）中粒を少量を含む砂質土。
3　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや強い、木炭粒・AsCを微量を含む砂質土。
4　黒褐色土（25Y3/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、黄褐ブロック中～大粒を中量、AsCを少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
5　黒褐色土（10YR2/2）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック大粒・AsCを微量、木炭片を少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
6　黒褐色土（10YR2/2）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック大粒、木炭片を少量、AsCを微量含む、粒子がやや粗い砂質土。
7　黒褐色土（10YR2/2）木炭片・木炭粒を主体。
8　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや弱い、木炭粒・AsCを微量含む、粒子がやや粗い砂質土。
9　暗オリーブ褐色土（25Y3/3）締まりやや弱い、粘性やや強い、灰白色粘質土ブロック大粒・同粒子を中量、AsCを少量含む、粒子がやや粗い砂質土。
10　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック中粒を少量、AsCを微量含む、粒子がやや粗い砂質土。
11　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや弱い、黄褐ブロック大粒・灰白色粘質土ブロック中粒を少量、AsCを微量含む砂質土。
12　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒・灰白色粘質土ブロック小～大粒・AsCを少量含む砂質土。
13　黒褐色土（25Y3/2）締まり・粘性やや強い、塊土化した粘質土ブロック中～大粒・木炭片を少量、AsCを微量を含む砂質土。

H－9



H－9号住居跡　A・B

1　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中粒・AsCを少量含む砂質土。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒を微量、AsCを少量含む砂質土。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・AsCを微量、赤灰色の粘質土ブロック大粒を中量含む砂質土。
4　黒褐色土（10YR3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック大粒・AsCを微量、赤灰色の粘質土ブロック中粒を少量含む砂質土。
5　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや弱い、粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒・AsCを少量含む砂質土。
6　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック大粒を中量、AsCを少量含む砂質土。
7　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや弱い、粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒・AsCを微量含む砂質土。
8　黒褐色土（10YR2/3）締まりやや強い、粘性やや弱い、黄褐ブロック小～中粒を微量、木炭片を少量含む砂質土。
9　明黄褐色土（10YR6/6）黄褐ブロック層（H-9の床材）。
10　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性弱い、黄褐ブロック小粒を少量含む砂質土。
11　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性弱い、黄褐ブロック小～中粒を微量含む砂質土。
12　明黄褐色土（10YR6/6）締まり・粘性弱い、黄褐ブロック・同粒子を主体。

Fig.15　(63) H－8・9号住居跡

o626364.indd　24　2016/09/26　17:53:25

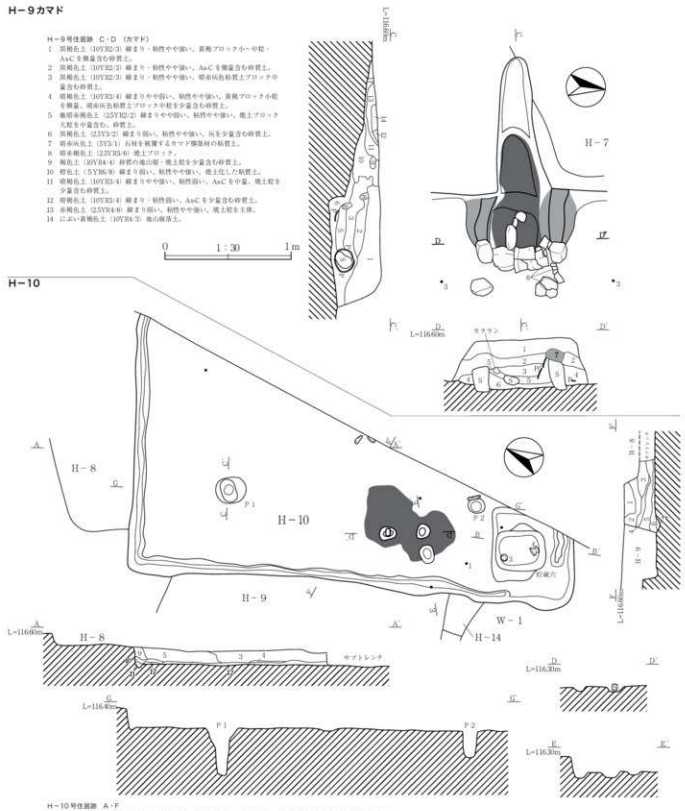
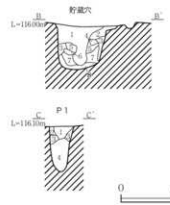


Fig.16 （63）H－9号住居跡カマド、H－10号住居跡

0626364.indd 25 2016/09/26 17:53:26

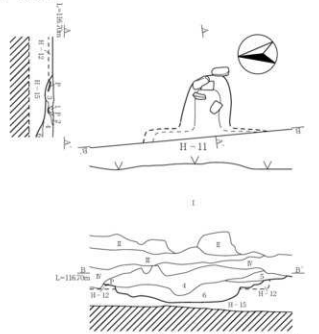
H－10 貯蔵穴・P1



H－10 号住居跡　B　（貯蔵穴）
1　褐色土（10YR4/4）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小～大粒を中量、黒色土ブロック大粒を微量含む砂質土。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒を微量含む砂質土。
3　黒褐色土（10YR2/3）締まり強い（硬質）、粘性やや強い、灰色粘土ブロック中粒・黄褐ブロック中～大粒を微量含む砂質土。
4　黒褐色土（10YR2/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中粒を少量含む砂質土。
5　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック中粒を微量含む砂質土。
6　にぶい黄褐色土（10YR5/3）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック大粒を主体とし、粒子がやや強い砂質土。
7　褐色土（10YR4/2）締まり強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック中粒を少量含む砂質土。
8　黒色土（10YR2/1）締まり強い、粘性やや強い、砂質土。

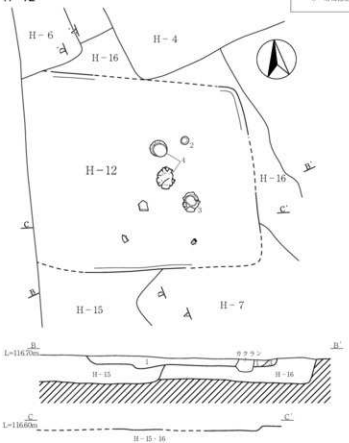
H－10 号住居跡　C　（P1）
1　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中粒を微量含む砂質土。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、にぶい黄褐ブロック大粒を少量含む、粒子がやや強い砂質土。
3　褐色土（10YR4/4）締まり・粘性やや強い、混合物がほとんどない、粒子がやや強い砂質土。
4　褐色土（10YR4/6）締まり・粘性やや強い、混合物がほとんどない、粒子がやや強い砂質土。

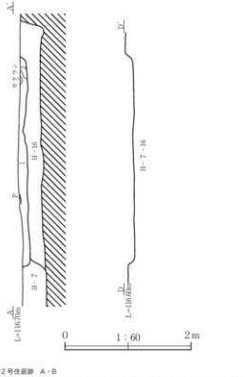
H－11 カマド



H－11 号住居跡　A－B　（カマド）
1　明赤褐色土（2.5YR5/8）焼土化した粘土ブロックを主体。
2　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性やや強い、焼土化した粘土ブロック小粒を少量含む、粒子がやや強い砂質土。
3　暗褐色土（10YR3/3）締まり強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック小粒・焼土ブロック小粒を微量含む砂質土。
4　黒褐色土（10YR3/1）締まり強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒・焼土ブロック小粒を微量、炭を少量含む砂質土。
5　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒を微量含む砂質土。
6　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性やや強い、As-C・焼土ブロック小粒・木炭片を微量含む砂質土。

H－12



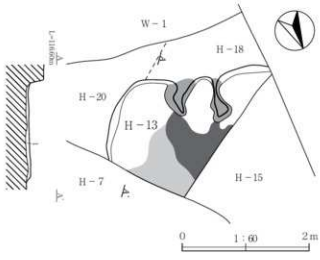


H－12 号住居跡　A－B
1　黒褐色土（10YR2/2）締まりやや強い、粘性やや弱い、As-C を中量、灰白色粘土ブロック・木炭片を微量、黄褐ブロック中粒を少量含む、粒子がやや強い砂質土。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒を中量、As-C を少量含む、粒子がやや強い砂質土。
3　黒褐色土（10YR3/2）締まり・粘性やや強い、木炭片・黄褐ブロック小～中粒・As-C・焼土ブロックを少量含む、粒子がやや強い砂質土。

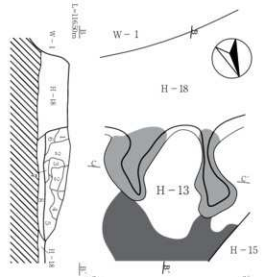
Fig.17　H－10 号住居跡貯蔵穴・P1、H－11 号住居跡カマド、H－12 号住居跡

0626364.indd 26　2016/09/26 17:53:23

H－13



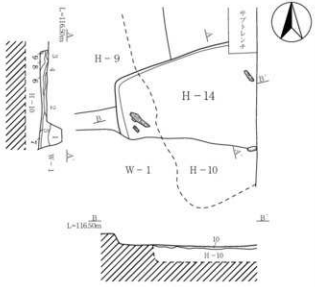
H－13 カマド



H－13 号住居跡　A
1　黄褐色土（10YR5/8）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック混入土。（H－13 の貼床）

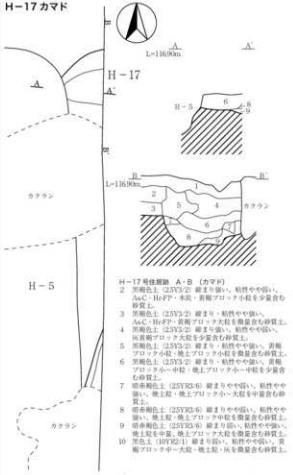
H－13 号住居跡　B・C（カマド）
1　黒褐色土（10YR3/1）締まり・粘性やや弱い、灰色粘土粒を中量、焼土粒を微量含む枠質土。
2　暗赤褐色土（10YR4/4）締まり・粘性やや強い、灰色粘土粒・ブロックを主体とし、焼土粒・ブロックを少量含む枠質土。
3　暗赤褐色土（2.5YR3/4）締まり・粘性やや強い、焼土化した粘土ブロックを主体。
4　褐灰色土（10YR4/1）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・灰色粘土ブロック小粒を含む枠質土。
5　黒褐色土（10YR3/1）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック中粒を少量、焼土粒・灰を少量含む枠質土。
6　黒褐色土（10YR2/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・灰色粘土ブロック小粒を少量、焼土粒・灰を微量含む、粒子がやや粗い枠質土。
7　褐灰色土（10YR4/1）締まり・粘性弱い、灰層。
8　暗赤褐色土（2.5YR3/6）締まり強い、粘性やや強い、焼土粒・黄褐ブロック小粒・灰・木炭片を微量含む、粒子がやや粗い枠質土。

H－14



H－14 号住居跡　A・B
1　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、AuC を少量、木炭片を微量含む枠質土。
2　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや強い、AuC を微量、木炭片を中量含む枠質土。
3　赤色土（2.5YR4/8）焼土化した粘土ブロックを主体。
4　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや強い、AuC を微量、木炭片を中量、黄褐ブロック小粒を少量含む枠質土。
5　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、AuC を少量、黄褐ブロック小粒・木炭片を微量含む枠質土。
6　暗褐色土（10YR3/3）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒を中量含む、粒子がやや粗い枠質土。
7　暗褐色土（10YR3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小粒を少量含む、粒子がやや粗い枠質土。
8　暗褐色土（10YR3/4）締まり・粘性弱い、黄褐ブロック大粒を中量含む、粒子がやや粗い枠質土。
9　黒褐色土（10YR2/3）締まり・粘性弱い、黄褐ブロック小粒を微量含む、粒子がやや粗い枠質土。
10　明黄褐色土（10YR6/6）締まり・粘性やや強い黄褐ブロック混入土。

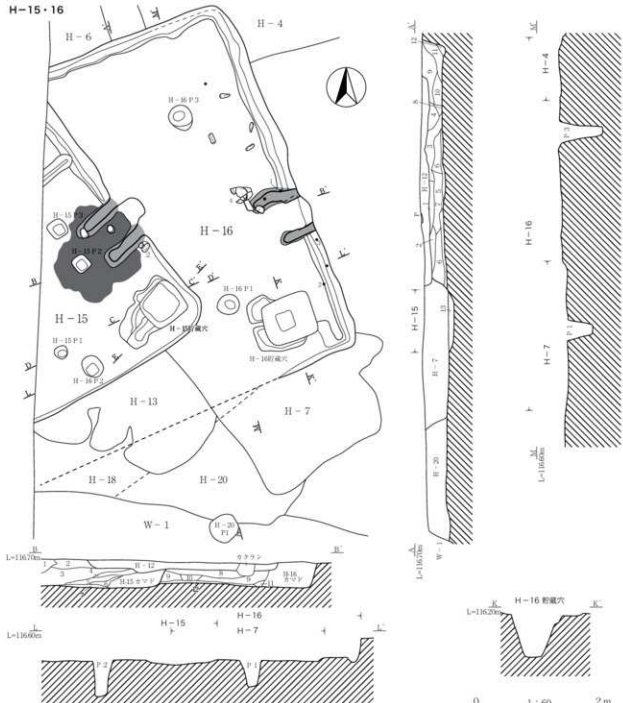
H－17 カマド



H－17 号住居跡　A・B（カマド）
2　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、AuC・Hr-FP・木炭・黄褐ブロック小粒を少量含む枠質土。
3　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、AuC・Hr-FP・黄褐ブロック大粒を微量含む枠質土。
4　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、16 黄褐ブロック大粒を少量含む枠質土。
5　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒・焼土ブロック小粒を微量含む枠質土。
6　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒・焼土ブロック小～中粒を少量含む枠質土。
7　暗赤褐色土（2.5YR3/6）締まりやや強い、粘性やや強い、焼土粒・焼土ブロック小～大粒を中量含む枠質土。
8　暗赤褐色土（2.5YR3/6）締まりやや強い、粘性やや強い、焼土粒・焼土ブロック中粒を微量含む枠質土。
9　暗赤褐色土（2.5YR3/6）締まり弱い、粘性やや強い、焼土粒を中量、焼土ブロック大粒を微量含む枠質土。
10　黒色土（10YR2/1）締まり弱い、粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒・焼土粒・灰を微量含む枠質土。

Fig.18　H－13・14・17 号住居跡

0626364.indd　27　2016/09/26　17:53:28



H－15・16号住居跡　A

1　焼オリーブ褐色土（2.5Y3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、As-C・黄褐ブロック中～大粒を少量含む、粒子がやや粗い。
2　焼オリーブ褐色土（2.5Y3/3）締まり・粘性やや強い、As-C・黄褐ブロック粒・灰色粘土ブロック中～小粒を少量含む、粒子がやや粗い。
3　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小～大粒中量含む、粒子がやや粗い。
4　焼オリーブ褐色土（2.5Y3/3）締まりやや強い、粘性やや強い、As-Cを中量、黄褐ブロック小粒を微量含む、粒子がやや粗い。
5　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小～中粒を中量、灰色粘土ブロック中粒を少量、As-Cを少量含む、粒子がやや粗い。
6　黒褐色土（2.5Y3/2）締まりやや強い、粘性やや強い、As-C・黄褐ブロック中粒・灰色粘土ブロック小粒を少量含む、粒子がやや粗い。
7　黒褐色土（2.5Y3/2）締まりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック小粒・黄褐ブロック中粒・木炭片を少量含む、粒子がやや粗い。
8　焼オリーブ褐色土（2.5Y3/3）締まり強い、粘性やや強い、As-C・黄褐ブロック小粒を少量を含む、粒子がやや粗い。
9　黄色土（2.5Y7/8）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒を少量を含む、粒子がやや粗い。
10　明黄褐色土（2.5Y6/8）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～小粒を少量を含む、粒子がやや粗い。
11　黄褐色土（2.5Y5/6）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒を少量を含む、粒子がやや粗い。
12　黄褐色土（2.5Y5/6）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック小粒を微量を含む。
13　黒褐色土（10Y2/2）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック中～大粒・黄褐ブロック小～中粒を少量含む、粒子がやや粗い。

H－15・16号住居跡　B

1　黒褐色土（10Y2/2）締まり・粘性やや強い、As-C・黄褐ブロック小粒を少量含む。
2　黒褐色土（10Y3/2）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小粒を微量、木炭片を少量含む。
3　黒褐色土（10Y3/2）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック中～大粒・黄褐ブロック小～中粒を少量含む、粒子がやや粗い。
4　暗灰黄色土（2.5Y4/2）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック小～中粒・同粒子を中量含む、粒子がやや粗い。
5　黒褐色土（2.5Y3/2）締まりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土粒・黄褐ブロックを少量含む、粒子がやや粗い。
6　黒褐色土（10Y2/2）締まりやや強い、粘性やや強い、灰を主体とし、灰色粘土粒を少量含む。
7　オリーブ灰色土（10Y4/2）灰を主体。
8　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、As-C・黄褐ブロック中粒・灰色粘土ブロック小粒を少量含む、粒子がやや粗い。
9　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック中～大粒を少量、木炭片・As-Cを微量含む、粒子がやや粗い。
10　黒褐色土（2.5Y3/2）締まり・粘性やや強い、灰色粘土ブロック大粒を主体とし、黄褐ブロック小粒を少量含む、粒子がやや粗い。
11　灰色土（10Y3/2）締まり強い、粘性やや強い、黄褐ブロック小粒を微量含む。
12　黒褐色土（10Y2/2）締まりやや強い、粘性やや強い、黄褐ブロック中粒・灰色粘土ブロック小粒を微量、木炭片を少量含む。
13　オリーブ褐色土（2.5Y4/4）締まり・粘性やや強い、黄褐ブロック～大粒中量含む、粒子がやや粗い。

Fig.19　(63) H－15・16号住居跡

0626364.indd　28　2016/09/26　17:53:26

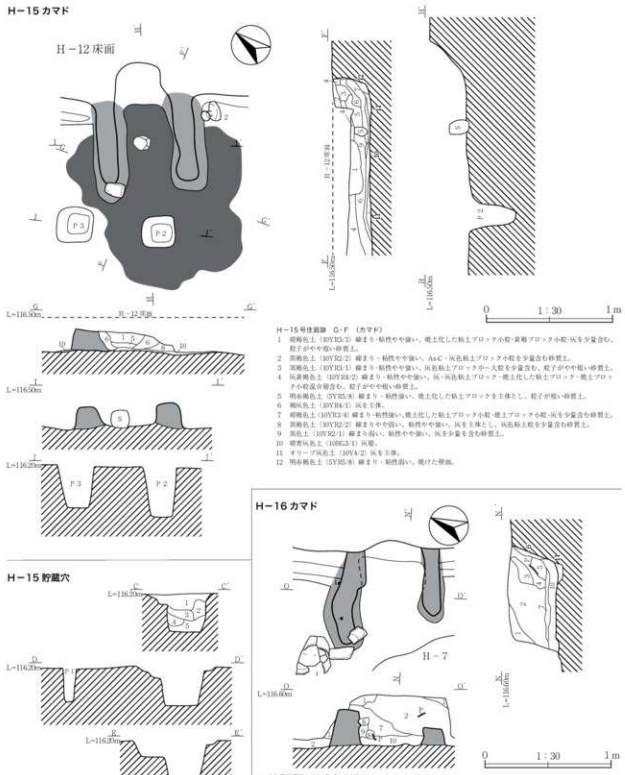


Fig.20　(63) H－15号住居跡カマド・貯蔵穴, H－16号住居跡カマド

0626364.indd 29　2016/09/26 17:53:30

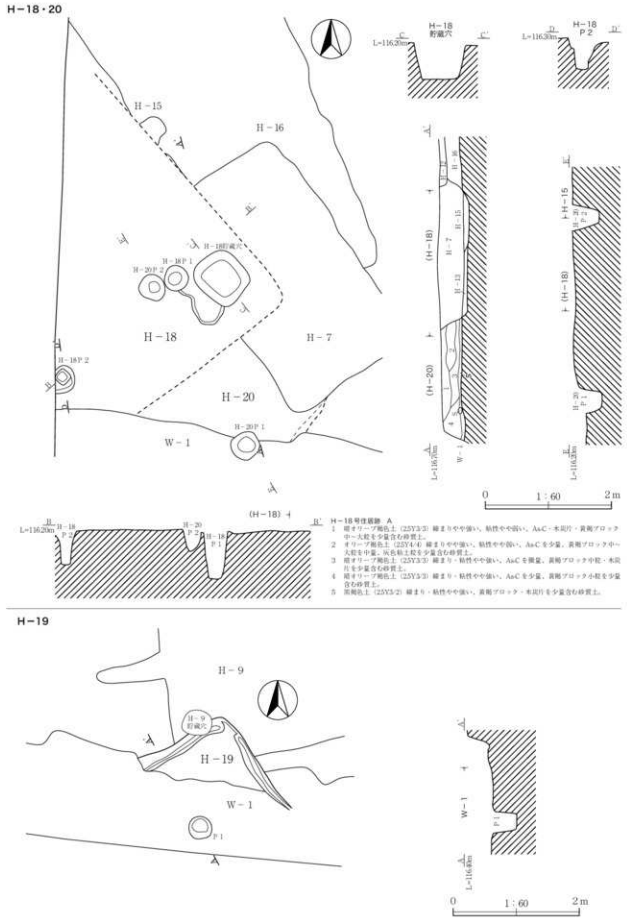
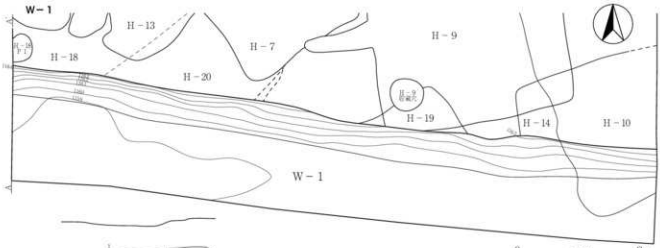
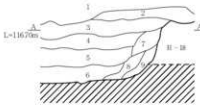


Fig.21　(63) H－18 ～ 20 号住居跡

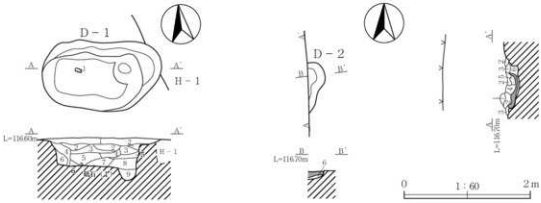
0626364.indd 30　2016/09/26 17:53:30





W－1号溝跡
1 黒褐色土（10YR3/2）整地層、砂利を含む。
2 オリーブ黒色土（7.5Y3/2）縁まりや強い、粘性やや強い、わずかに灰色味がある密な砂質土。
3 灰オリーブ色土（7.5Y4/2）縁まりやや強い、粘性やや強い、わずかに青灰色味がある密な砂質土。
4 黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、白色微粒子（AsC か）を少量含む密な砂質土。
5 黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、白色微粒子を少量含む密な砂質土。
6 黒褐色土（10YR2/3）縁まり強い、粘性やや強い、白色微粒子を少量含む密な砂質土。
7 黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、白色微粒子を微量含む密な砂質土。
8 黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、白色微粒子・微土ブロック小粒を微量含む密な砂質土。
9 黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘性やや強い、白色微粒子・凝灰岩質ブロック小粒を微量、木炭片を少量含む密な砂質土。

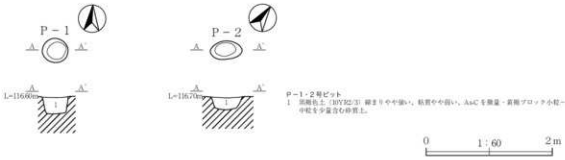
D－1・2



D－1号土坑
1 暗褐色土（10YR3/4）縁りやや強い、粘性強い、凝灰岩質ブロック中粒を微量含む砂質土。
2 褐色土（10YR4/4）縁まりやや強い、粘性やや強い、凝灰岩質ブロック中粒を少量含むやや粗い砂質土。
3 暗褐色土（10YR3/4）縁りやや強い、粘性やや強い、凝灰岩質ブロック小粒を微量含む砂質土。
4 暗褐色土（10YR3/4）縁りやや強い、粘性やや強い、凝灰岩質ブロック小粒を少量含む砂質土。木炭粒。
5 暗褐色土（10YR3/4）縁まりやや強い、粘性やや強い、凝灰岩質ブロック小粒を微量含む砂質土。
6 オリーブ褐色土（2.5Y4/3）縁まり強い、粘性強い、灰黄褐色の凝灰岩質の砂質土。土粒は黄褐色土。雲母微量土。
7 褐色土（10YR4/4）縁まりやや強い、粘性やや強い、凝灰岩質ブロック中～大粒を中量含むやや粗い砂質土。
8 暗褐色土（10YR3/4）縁まりやや強い、粘性やや強い、凝灰岩質ブロック小粒を少量含むやや粗い砂質土。
9 褐色土（10YR4/4）縁まり強い、粘性強い、凝灰岩質ブロック大粒を中量含む砂質土。

D－2号土坑
1 オリーブ黒色土（7.5Y3/2）縁まりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロックの小粒・黄褐色ブロック小～中粒を微量含むやや粗い砂質土。
2 オリーブ黒色土（7.5Y3/2）縁まりやや強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック中～大粒・黄褐ブロック中粒を少量含むやや粗い砂質土。
3 暗オリーブ色土（7.5Y4/3）縁まり強い、粘性強い、灰色粘土粒・黄褐ブロック中～大粒を少量含む粗い砂質土。
4 灰色土（10Y4/1）縁まり強い、粘性やや強い、灰色粘土ブロック大粒を主体とするやや粗い砂質土。
5 オリーブ黒色土（7.5Y3/2）縁まり強い、粘性やや強い、微土化した粘土ブロック中粒を少量、灰色粘土ブロック小粒を中量含むやや粗い砂質土。
6 オリーブ黒色土（7.5Y3/2）縁まり強い、粘性やや強い、灰色粘土粒・黄褐ブロック小～中粒を少量含む砂質土。

P－1・2



P－1・2号ピット
1 黒褐色土（10YR2/3）縁まりやや強い、粘質やや強い、AsC を微量・黄褐ブロック小粒～中粒を少量含む砂質土。

Fig.22 (63) W－1号溝跡、D－1・2号土坑、P－1・2号ピット

o626364.indd 31 2016/09/26 17:53:31

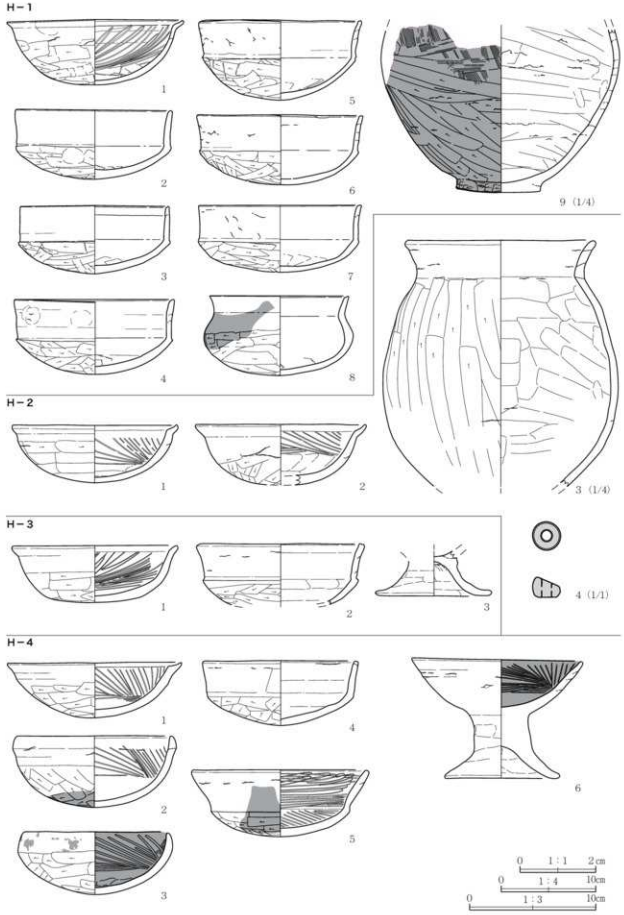


Fig.23 (63) H－1～4号住居跡出土遺物

0626364.indd 32 2016/09/26 17:53:32

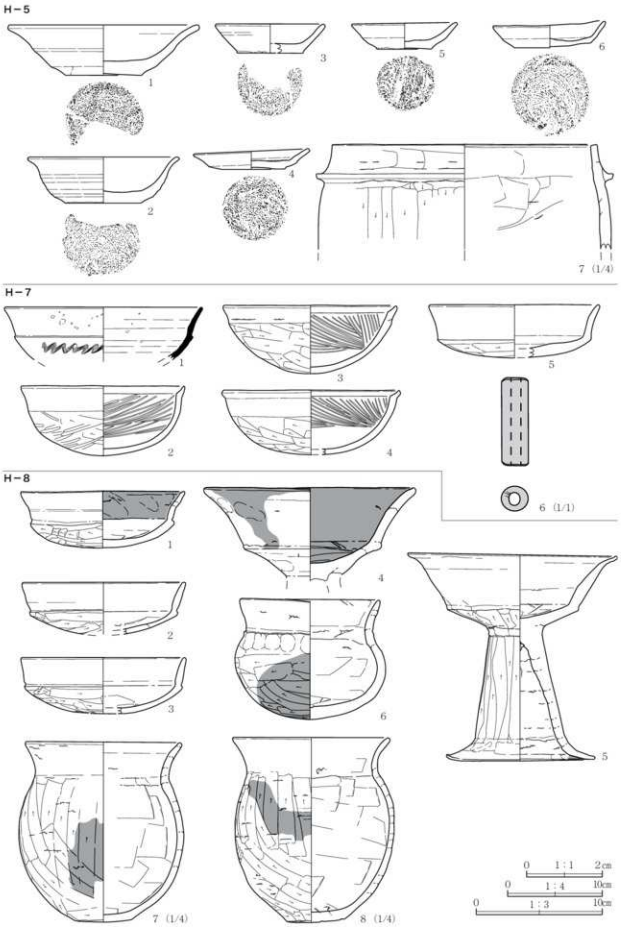


Fig.24 (63) H－5・7・8号住居跡出土遺物

o626364.indd 33 2016/09/26 17:53:32

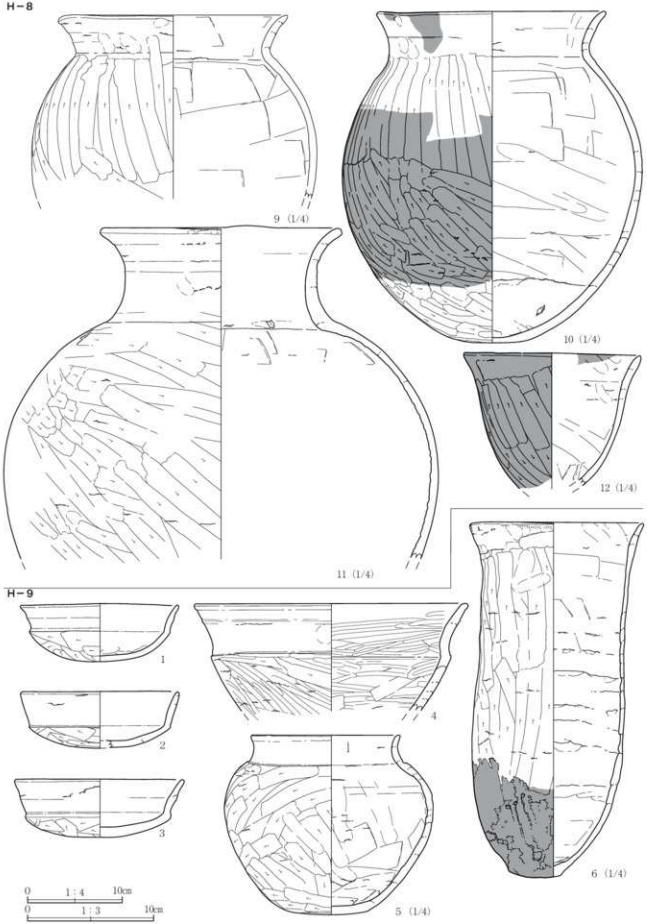


Fig25 (63)H－8・9号住居跡出土遺物

0626364.indd 34 2016/09/26 17:53:32

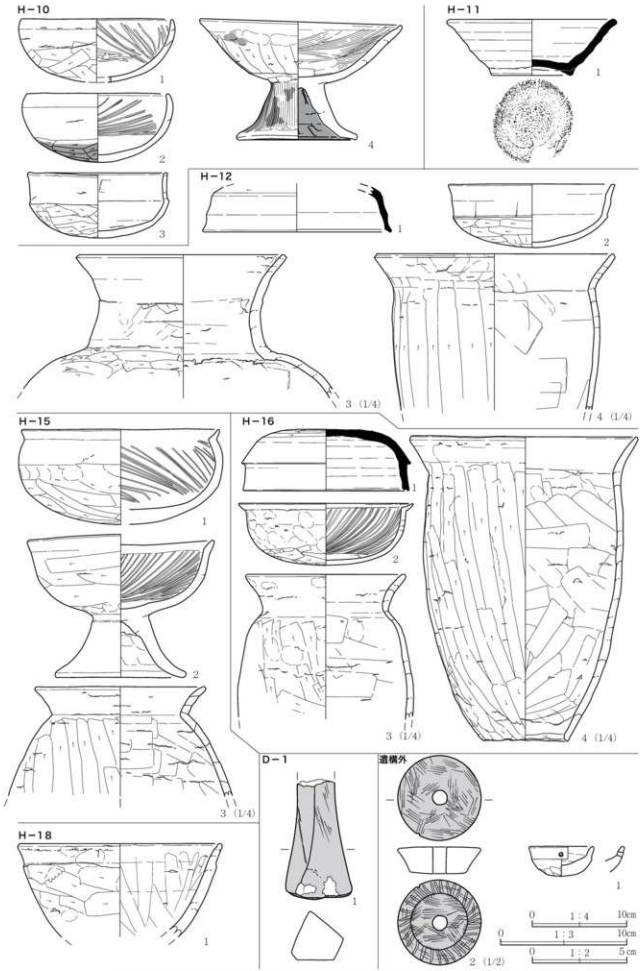


Fig.26 （63） H－10～12・15・16・18号住居跡、D－1号土坑、遺構外出土遺物

0626364.indd 35 2016/09/26 17:53:33

Tab. 5　元総社蒼海遺跡群（63）出土遺物観察表

H－1

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	土師器 坏	14.0	丸底	5.2	白・黒・赤色細粒、石英	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヨコナデ後ミガキ、底部ヘラナデ。	口縁部一部欠損。
2	床面直上	土師器 坏	12.3	丸底	5.5	白・黒・赤色細粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部一部欠損。
3	床面直上	土師器 坏	11.8	丸底	5.4	白・黒・赤色細粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、稜部ナデ、以下縦位ヘラケズリ、下位横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	完存。
4	床面直上	土師器 坏	12.6	丸底	5.95	白・黒・赤色粒及び細粒、雲母	良好	にぶい赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。体部中位に稜を有し、口縁部は直立する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	5/6残存。
5	覆土	土師器 坏	12.9	丸底	6.3	白・黒・赤色細粒	良好	明赤褐 明赤褐・橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。体部中位に稜を有し、口縁部は直立する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	底部一部欠損。
6	床面直上	土師器 坏	13.0	丸底	5.6	白・黒・赤色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。体部中位に稜を有し、口縁部は直立する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部一部欠損。 内面付着物あり。漆か？
7	覆土	土師器 坏	12.8	丸底	5.3	白・黒・赤色粒及び細粒、雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。体部中位に稜を有し、口縁部は直立する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	4/5残存。
8	床面直上	土師器 坏	11.0	丸底	6.4	白・黒・赤色粒	良好	橙 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。口縁部内部に有段。	口縁部一部欠損。 外面煤付着。
9	覆土	土師器 甕	欠損	8.9	(17.7)	白・黒色細粒、雲母	やや軟質	にぶい黄橙・黒色 にぶい黄橙	外面胴部中位ハケナデ、以下横位・斜位ヘラケズリ、台部横位ヘラケズリ 内面ヘラナデ及びユビナデ。	胴中位～底部1/2残存。 外面煤付着。

H－2

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	(13.0)	丸底	4.7	黒細粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ後、体上部ミガキ。	3/5残存。
2	覆土	土師器 坏	(13.4)	丸底	(4.8)	雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ後、体上部ミガキ。	1/3残存。
3	床面直上	土師器 甕	(19.8)	－	(26.0)	白・茶色粒、雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～胴部1/3残存。
No	**出土位置**	**種別**	**長さ**	**直径**	**穿孔径**	**材質**	**重量**		**成・整形、文様等の特徴**	**残存状況・備考**
4	床面直上	石製品 臼玉	0.35	0.7	0.3	滑石	0.4g		上面の傾斜は下面の大きさによることも推定できるが、側面の研磨状況から製作工程の分割段階の形状とみられる。	ほぼ完存。

H－3

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	13.0	丸底	4.5	白色粒、雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	ほぼ完存。
2	覆土	土師器 坏	(12.7)	丸底	4.6	白色粒	良好	赤褐 赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	口縁部1/4残存。
3	覆土	土師器 高坏	－	8.8	(3.5)	雲母	良好	赤褐 赤褐	外面ナデ。 内面ナデ。	台部のみ残存。

H－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	土師器 坏	13.7	丸底	4.4	白・茶色粒、雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ミガキ。	ほぼ完存。
2	床面直上	土師器 坏	(12.3)	丸底	5.6	雲母、小石	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後上部ミガキ。	口縁～底部1/3残存。
3	貯蔵穴 底面	土師器 坏	11.4	丸底	5.0	白色粒、雲母、小石	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁～体部ミガキ、底部ユビナデ。	3/4残存。
4	床面直上	土師器 坏	(12.2)	丸底	5.1	雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～底部1/3残存。
5	床面直上	土師器 坏	13.7	丸底	5.3	白色粒、雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁～底部ミガキ。	口縁1/5残存。
6	床面直上	土師器 高坏	(13.6)	8.9	9.5	雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、体部マメツ、高台部ナデ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ミガキ、高台部ナデ。	ほぼ完存。

H－5

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 坏	(15.0)	6.0	4.0	雲母	酸化焔	にぶい黄橙 にぶい黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁1/8～底部1/2残存。
2	覆土	土師質 坏	(11.7)	6.0	3.7	白・茶色粒、雲母少量	酸化焔	浅黄橙 浅黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁1/4～底部3/4残存。
3	覆土	土師質 かわらけ状	(8.5)	5.2	2.3	白・茶色粒、雲母少量	良好	明黄褐 明黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	1/3残存。
4	床面直上	土師質 かわらけ状	9.0	5.0	1.7	白・茶色粒、雲母	酸化焔	橙 橙	外面口縁部～体部ヨコナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部～底部ヨコナデ。	完存。
5	覆土	土師質 かわらけ状	8.1	4.4	2.1	雲母	良好	黄橙 黄橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁部1/4欠損。
6	床面直上	土師質 かわらけ状	8.8	6.1	2.1	雲母	良好	橙 橙	外面口縁部～体部ヨコナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部～底部ヨコナデ。	完存。
7	覆土	羽釜	(27.9)	－	(11.0)	雲母、小石	酸化焔	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁～鍔部1/8残存。

H－7

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	須恵器 高坏	(15.6)	欠損	(4.3)	白色細粒、黒色細粒	堅緻	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。口縁部と体部の境に鋭い稜を有し、体部には8条1単位の櫛描き波状文が廻る。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁～体部片。 外面口縁部下位に自然釉が付着。
2	覆土	土師器 坏	12.9	丸底	5.5	雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ後ミガキ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	ほぼ完存。
3	覆土	土師器 坏	13.6	丸底	5.4	雲母、小石	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	口縁部1/3欠損。
4	覆土	土師器 坏	(13.9)	丸底	(5.1)	白色粒、雲母少量	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	1/3残存。
5	覆土	土師器 坏	(13.3)	丸底	(4.2)	茶色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/3残存。
No	**出土位置**	**種別**	**長さ**	**直径**	**穿孔径**	**材質**	**重量**		**成・整形、文様等の特徴**	**残存状況・備考**
6	覆土	石製品 管玉	2.35	0.7	0.3	蛇紋岩	2.1g		研磨（擦痕）痕が若干認められる。	完存。

H－8

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	土師器 坏	13.0	丸底	4.5	白・黒・茶色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。体部中位に稜を有して口縁部は外反する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	完存。 内面口縁部に煤付着。

o626364.indd　36　　2016/09/26　17:53:34

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	覆土	土師器 坏	(12.9)	丸底	(4.0)	白・黒色粒、石英粗粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ、体部中位に稜を有し、口縁部は直立する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/4残存。
3	覆土	土師器 坏	(13.0)	丸底	(4.5)	白・黒・茶色粒	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ、体部中位に稜を有し、口縁部は直立する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	1/3残存。
4	覆土	土師器 高坏	16.6	欠損	(7.4)	白・黒・赤色粒、黒雲母	良好	橙 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下（ヘラケズリ後）ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ	坏部ほぼ完存。 内面黒色処理か。
5	床面直上	土師器 高坏	16.4	11.9	16.4	白・黒色粒、チャート粗粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面坏部口縁～体部ヨコナデ、底部ヘラケズリ、脚部ヨコナデ、脚部縦位ヘラケズリ、裾部ヘラナデ後ユビナデ。 内面坏部口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ、脚部ヘラナデ後ユビナデ、裾部ヨコナデ、上部に絞り痕が若干認められる。	坏部口縁1/3欠損、裾部一部欠損
6	床面直上	土師器 小型壺	11.0	丸底	9.5	黒・赤色粒、黒雲母、水晶	良好	明赤褐 黒褐	外面口縁部ヨコナデ、以下体部上位ヘラケズリ後ユビナデ、以下ヘラケズリ。口縁部と体部の境に明瞭な稜を有する。 内面ヘラナデ及びユビナデ、以下同様。	口縁部一部欠損。
7	床面直上	土師器 甕	16.3	6.6	19.1	白・黒・茶色粒、チャート	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下胴上半部縦位ヘラケズリ、下半部斜位ヘラケズリ、下端部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	4/5残存。 外面胴部中位に煤付着。
8	床面直上	土師器 甕	16.3	6.0	19.5	白・黒色粒、チャート粗粒	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下胴上半部縦位ヘラケズリ、胴下半部斜位ヘラケズリ、胴下端部横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	4/5残存。 外面胴部中位に煤付着。
9	覆土	土師器 甕	21.2	欠損	(19.0)	白・黒・茶色粒	良好	橙 にぶい黄褐、黒	外面口縁部ヨコナデ、以下胴上半部縦位ヘラケズリ、下部斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部中位1/2残存。
10	床面直上	土師器 甕	21.0	6.5	35.0	白・灰色粒	良好	にぶい黄褐、黒褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下胴上半部縦位ヘラケズリ、胴下半部斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	4/5残存。
11	床面直上	土師器 甕	(24.0)	欠損	(35.3)	白・黒・茶色粗粒、チャート	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部下位2/3残存。 内面胴部は剥落が顕著で、ヘラナデの痕跡を確認できない。
12	床面直上	土師器 甑	18.6	欠損	(14.4)	白・黒色粒、雲母	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	4/5残存。 外面全体と内面口縁部に煤付着。

H－9

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	貯蔵穴内	土師器 坏	12.3	丸底	4.6	雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ユビオサエ。	完存。
2	床面直上	土師器 坏	(12.4)	丸底	4.4	雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	1/2残存。
3	床面直上	土師器 坏	13.2	丸底	4.6	雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	口縁部1/4欠損。
4	覆土	土師器 鉢	(21.4)	欠損	(8.5)	白・黒・茶色粒、小礫	良好	にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ後ミガキ。口縁部と体部の境に段を有する。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ後ミガキ。	口縁部～体部片。
5	貯蔵穴内	土師器 甕	(15.6)	8.1	19.0	チャート粗粒	良好	橙 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下胴部斜位ヘラケズリ、胴下端部横位ヘラケズリ、底部ヘラケズリ 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部1/2欠損。
6	床面直上	土師器 甕	18.3	5.5	37.8	白・黒・茶色粗粒、チャート粗粒	良好	橙 橙	外面口縁部（ヘラケズリ後）ヨコナデ、以下縦位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	ほぼ完存。全体に歪みあり。 外面胴部下位に粘土及び煤付着。

H－10

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	土師器 坏	(11.9)	丸底	(5.0)	雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	1/4残存。
2	覆土	土師器 坏	11.2	丸底	5.5	雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	1/2残存。
3	貯蔵穴 底面	土師器 坏	11.6	丸底	5.2	白・黒色粒、茶色粗粒、黒雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ。	口縁部一部欠損。
4	貯蔵穴 底面	土師器 高坏	15.9	9.2	9.6	白・黒色粒、茶色粗粒、雲母	良好	明赤褐 明赤褐 明赤褐 赤黒	外面坏部口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ、底部ヨコナデ。 脚部ハケナデ、裾部ヨコナデ。 内面坏部口縁部ヨコナデ、以下ハケナデ。 脚部ヘラナデ後ユビナデ、裾部ヨコナデ。	ほぼ完存。 坏部内、外面と脚部外面に黒色処理の名残点は漆塗布か。 脚部内面は黒色処理。

H－11

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	カマド	須恵器 高台付坏	(12.9)	6.1	4.4	白色粒	良好	灰 灰	外面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 内面口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	口縁部1/3欠損。

H－12

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	須恵器 蓋	(14.7)	－	(3.5)	白色粒、雲母	良好	灰 灰	外面天上部ヘラケズリ、以下ロクロナデ。 内面ロクロナデ。	破片
2	覆土	土師器 坏	13.0	丸底	5.0	雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ。	ほぼ完存。
3	床面直上	土師器 甕	(12.6)	欠損	(15.1)	白・灰・茶色粒、チャート、石英	良好	黄褐・にぶい黄褐 にぶい黄褐	外面口縁部ヨコナデ、胴部ヘラナデ及びユビナデ、胴部横位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ、口縁～胴部整形に歪みあり。	口縁～胴部。
4	覆土	土師器 甕	25.0	欠損	(16.6)	白・黒・茶色粒、黒雲母	良好	明黄褐 明黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下縦位ヘラケズリ、口縁の稜は鋭く、口唇部との間に僅かな沈線が廻る。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴上部残存。

H－15

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	(15.6)	丸底	(7.5)	雲母	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ナデ後ミガキ。	1/2残存。
2	床面直上	土師器 高坏	(14.6)	10.0	11.4	白色粒、雲母	良好	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、体部ヘラケズリ、台部ヨコナデ。 内面口縁部ヨコナデ、体部ミガキ、台部ナデ。	2/3残存。
3	カマド	土師器 甕	(17.7)	欠損	11.5	白色粒、雲母	良好	明赤褐 明黄褐	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴部1/8残存。

H－16

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	床面直上	須恵器 蓋	(13.1)	天井部径 (5.2)	4.9	白・黒色粗粒、石英	堅緻	暗灰 暗灰	外面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ後天井部回転ヘラケズリ、口縁部と体部境に水平に突出する稜を有する。 内面口縁部ヨコナデ、体部ロクロナデ、口唇部内側に段を有する。	1/2残存。
2	床面直上	土師器 坏	13.8	丸底	4.9	白・黒・赤色粒	良好	明赤褐 明赤褐	外面口縁部ヨコナデ、体部ヨコナデ及びユビオサエ、底部ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヨコナデ後ミガキ、底部ヘラナデ。	3/4残存。 内・外面の一部に煤付着。
3	覆土	土師器 甕	(16.6)	欠損	(13.2)	白・黒・茶色粒、石英	やや軟質	橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ。	口縁～胴上部1/3残存。
4	覆土	土師器 甑	23.8	8.9	32.3	白・黒色粗粒、雲母	良好	明赤褐・橙 橙	外面口縁部ヨコナデ、以下縦位及び斜位ヘラケズリ。 内面口縁部ヨコナデ、以下ヘラナデ及びユビナデ、底部周縁は回転ヘラケズリにより整えられている。	口縁～胴上部1/5残存。

o626364.indd 37 2016/09/26 17:53:34

H－18

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 坏	(26.0)	9.2(6)	7.2(4)	白・黒色粒、チャート	良好	橙 明赤褐	内面に横撫でのナデ、口縁下位に稜を有する。 内面に横撫でのナデ、口縁～ロクロ痕ナデ。	口縁～体部片。

D－1

No	出土位置	種別	長さ	幅	厚さ	材質	重量	成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	竪跡	石製品 紡錘	(3.6)	3.3	4.4	角閃石安山岩	204.7g	下面を残し全面を研磨痕として使用し、断面形状は五角形を呈する。	上部欠損。

遺構外

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	形形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	表－5 覆土	ミニチュア土器	5.0	4.5(6)	2.4	雲母	良好	橙 橙	内面に横撫でのナデ、口ヲヨコナデ。 内面に横撫でのナデ、口ヲナデ。	口縁部1/2欠損。
No	出土位置	種別	直径	厚さ	孔径	材質	重量	成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	表採区 一括	石製品 紡錘車	4.3	1.4	0.7	玄武岩	32.8g	上・下面ともに敲打痕跡で光沢を有する。下面には2～3.5mm幅の研磨痕（あるいは擦痕）が放射状に認められる。	1/2が欠損。

3　元総社蒼海遺跡群（64）

本調査区は標高118.4ｍ、牛池川右岸に立地し、現流路から50ｍ程離れた台地縁辺に位置する。住居跡1軒、竪穴状遺構2基、製鉄炉跡1基、土坑墓1基、溝跡1条、土坑13基、ピット43基を検出した。調査区南西部では耕作機械による耕作痕が多く遺構の検出が困難であった。

（1）住居跡

H－1号住居跡（Fig.29、PL. 9）

位置　X 229、Y 152・153　**主軸方向**　N－82°－E　**規模**　東西軸2.81ｍ、南北軸2.95ｍ、壁現高0.14ｍ、面積8.29㎡。　**床面**　地山硬化床。　**重複**　なし。　**カマド**　東壁やや南寄りに位置する。確認長（1.23）ｍ、燃焼幅0.90ｍ、燃焼部の壁面側は撹乱によって削平されている。残存状況は悪い。両袖は白色粘土を主体とした混土で構築されている。　**貯蔵穴**　検出されず。　**壁周溝**　検出されず。　**柱穴**　検出されず。　**出土遺物**　土師器や縄文土器の小片が少数出土しているが、図示には至らず。　**時期**　詳細な時期は不明。

（2）竪穴状遺構

T－1号竪穴状遺構（Fig.29、PL. 9）

位置　X 228・229、Y 151・152　**主軸方向**　N－83°－E　**規模**　東西軸3.27ｍ　南北軸2.32ｍ　壁現高0.50ｍ、面積7.58㎡。　**重複**　なし。　**出土遺物**　土師器、須恵器、陶磁器、縄文土器の小片が出土しているが、図示には至らず。　**時期**　As-B混土により埋没しているため中世以降と考えられる。

T－2号竪穴状遺構（Fig.29、PL. 9）

位置　X 230・231、Y 152・153　**主軸方向**　N－89°－E　**規模**　東西軸3.42ｍ　南北軸2.22ｍ　壁現高0.34ｍ　面積7.59㎡　**重複**　1号製鉄炉跡、D－11と重複し、新旧関係は1号製鉄炉跡→本遺構→D－11である。**出土遺物**　1号製鉄炉跡から流入した鉄滓が少数出土しているが、図示には至らず。　**時期**　As-B混土により埋没しているため中世以降と考えられる。

（3）溝跡

W－1号溝跡（Fig.29、PL. 7）

位置　X 228～231、Y 151　**主軸方向**　N－83°－W　**規模**　長さ8.52ｍ　上幅0.64ｍ　下幅0.42ｍ　深さ0.23ｍ　**形状等**　西から東へ走向する。断面は半円形を呈する。　**重複**　なし。　**出土遺物**　灰釉陶器、土師器、内耳鍋の破片が少量出土しているが、小片のため図示には至らず。　**時期**　出土遺物や覆土により中世以降と考えられる。

0626364.indd 38　2016/09/26 17:53:35

（4）土坑墓

ＤＢ－１号土坑墓（Fig.30、PL. 11）

位置　X 233、Y 153　**主軸方向**　N－4°－E　**規模**　東西軸 0.77 m、南北軸 1.31 m、深さ 0.34 m。　**形状等**　隅丸長方形。　上層には６～30cm の石が敷詰めて置かれている。　**人骨出土状況**　ほぼ全体の骨格が残存する。北頭位東向きの横臥屈葬である。　**出土遺物**　須恵器短頸壺や内耳鍋の小片が合わせて３点出土しているが、図示には至らず。　**時期**　出土遺物や埋葬状況から中世以降と考えられる。　**備考**　人骨の所見は成人女性のものとみられる。

（5）土坑、ピット（Fig.30、PL. 7・10・11・15）

土坑 14 基、ピット 43 基を検出した。各計測値については「Tab. 8　元総社蒼海遺跡群（64）土坑・ピット計測表」を参照のこと。

Ｄ－４は中位～底面にかけて炉壁（２）や鉄滓の大きい破片が出土しており、１号製鉄炉跡と同時期に存在していた可能性がある。Ｄ－13 は１号製鉄炉跡の東排滓土坑の掘り方部分とし、欠番とした。Ｐ－21 からは銭貨（１・２）が出土しており、そのうちの元豊通宝（２）は孔の整形が粗いため、近世に入って私鋳されたものと考えられる。Ｐ－24 からは 10 世紀代の須恵器坏（１）が出土している。

（6）製鉄炉跡

１号製鉄炉跡（Fig.31 ～ 35、PL. 7 ～ 9・16・17）

調査方法・所見　表土掘削時に調査区の中央南から南西部にかけて鉄滓（主に流動滓）が広く採取できたため、当初は製鉄関連遺構に付随する土坑と考えた。しかし、精査の結果、西南西方向に焼土・炭化物が多く検出されたため、西南西に排滓溝が付随する大型の製錬炉と想定した。そこで、検出したプランを中心に２分するように軸線を取り、南北方向は北から Ａ ～ Ｐ、東西方向は東から１～ 16 を付与し 50 ㎝間隔のメッシュを組んだ。メッシュ毎に鉄滓を取り上げながら遺構の精査を行い、Ｅ ～ Ｊ・３～ 16 の範囲に絞り、掘り下げを開始した。

炉本体と想定した土坑部分を掘り下げると、炉壁の破片や焼土が多量に含まれる灰黄褐色粘質土（４層）が厚さ３～７cm で堆積しており、使用面である可能性が考えられたため、この層位の上面を基準として上層と下層に２分し鉄滓の取り上げを行った。ところが、排滓溝と想定した焼土・炭化物範囲を掘り下げると、直下の土層（３層）では砂鉄がブロック状に含まれているのを確認した。この層を約 13cm 掘り下げると底面に達し、焼土面を確認したため、排滓溝と想定された部分が炉本体であることが分かった。炉本体の西側は、耕作痕のため正確なプランを把握できなかったが、炉本体と同じ高さまで掘り下げると、詳細な判断のできる大きな鉄滓が出土するようになり、確認範囲を広げて立ち上がりを確認した。これにより、最終的には両端に排滓土坑をもつ箱形炉と判明した。その後は両排滓土坑の下層部分を掘り下げ、順次調査を進めた。

位置　X 230・231、Y 153・154　**主軸方向**　N－60°－E　**規模**　全長 6.49 m、両端に排滓土坑をもつ箱形炉。**炉本体部**　長さ 1.48 m、幅 0.63 m、深さ 0.20 m を測る。平面は長方形を呈し、断面は船底形の浅い掘り込みである。確認面の状況から後世の開発で上面が削平されている可能性がある。炉床は総社砂層を掘り込み、焼き締まって非常に硬くなっている。　**付属施設**　製鉄炉の東西両端に排滓土坑を検出した。西排滓土坑は長さ 2.87 m、幅 2.23 m、深さ 0.35 m を測る。南西部は調査区外となるため全容は不明である。ほぼ地山が土坑の底面で、直上では流動滓がまとまって出土している。出土する範囲は長軸 1.20 m、短軸 0.91 mで、約 6 cm 窪んでいる。流動滓の残存状況は悪く、亀裂が多いため１個体として取り上げることはできなかった。また、西排滓土坑内にピットを２基検出した。いずれも底面から検出され、覆土に鉄滓を含むことから、西排滓土坑内に付随するものと考える。Ｐ１が長軸 0.43 m、短軸 0.35 m、深さ 0.10 m、Ｐ２が長軸 0.40 m、短軸 0.38 m、深さ 0.28 mである。

0626364.indd 39　2016/09/26 17:53:35

東排滓土坑は長さ2.14ｍ、幅1.79ｍ、深さ0.43ｍを測る。土坑底面には粘質土で締め固められた硬化面があり、中央東寄りには長軸0.47ｍ、短軸、0.42ｍ、高さ0.27ｍの敲打痕が認められる大きな石が硬化面から約12cm埋められた状態で設置されている。下層では手のひらサイズに砕かれた鉄滓が多く、大きな石を中心に散らばった状態で検出されている。　**出土遺物**　製鉄関連遺物は別項に記す。それ以外では土師器・須恵器の小片を多数、Ｐ１内から土師器坏（１）、Ｈ-11上層から臼玉（２）を出土している。　**製鉄関連遺物**　本遺構からは、メッシュ毎に取り上げた土を約1,670kg持ち帰った。メッシュの位置から西排滓土坑、本体部、東排滓土坑に別け、洗浄作業を行った。抽出した鉄滓の総重量は約152kgである。

東排滓土坑は４層上面、西排滓土坑は５層上面を上層と下層の境界とした。上層では鉄滓は小片が多く、炉壁も細かく磨滅してるものがほとんどで、細分類をすることはできなかった。下層では鉄滓・炉壁ともに破片が大きくなり、磨滅も少ないため、細かい分類することができた。細分項目は、炉壁は上段・中段・下段（送風孔付近）・下段、流動滓は磁着の有無、その他鉄滓は単位流動滓・流出孔滓・炉内滓・鉄塊系遺物・炉底塊・微細な不明滓は小片とし分別した。流動滓が全体の約９割を占め、製品と考えられる鉄塊系遺物はごく僅かであった。各重量を計測し集計したのがTab. 6である。また、各グリットの集計をもとに流動滓・炉壁の出土分布を図示したのがFig.27である。

本遺構では製鉄関連遺物を構成する36点（Fig.32）を抽出し、そのうち６点を分析対象遺物として選別、さらに４点に絞って分析を行なった。分析対象遺物については、「第Ⅵ章　元総社蒼海遺跡群（64）出土製鉄関連遺物の分析調査」に掲載した。

時期　出土遺物や覆土の堆積状況から８世紀前半には廃絶したと考えられる。

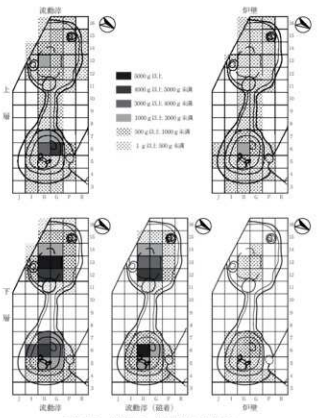


Fig27.　流動滓・炉壁出土分布図

Tab. 6　１号製鉄炉跡出土製鉄関連遺物重量一覧表

	西排滓土坑		本体部	東排滓土坑		合計
	上層	下層		上層	下層	
流動滓	6,108	35,177	1,992	17,972	27,913	89,162
流動滓（磁着）	262	6,808	136	98	8,568	15,872
炉壁	1,565	2,033	191	4,003	2,548	10,340
小片	1,565	650	191	4,003	882	—
上段	0	152	0	0	132	—
中段	0	524	0	0	397	—
下段（送風孔付近）	0	0	0	0	410	—
下段	0	707	0	0	727	—
その他鉄滓	7,098	9,441	1,981	10,782	7,705	37,007
小片	6,896	0	1717	10,620	0	—
単位流動滓	2	254	54	19	193	—
流出孔滓	0	5,431	56	0	2,910	—
炉内滓	146	558	5	32	227	—
鉄塊系遺物	54	1,208	149	90	1,805	—
炉底塊	0	1,990	0	21	2,570	—
					総重量	152,381

単位：ｇ

0626364.indd 40　2016/09/26 17:53:38

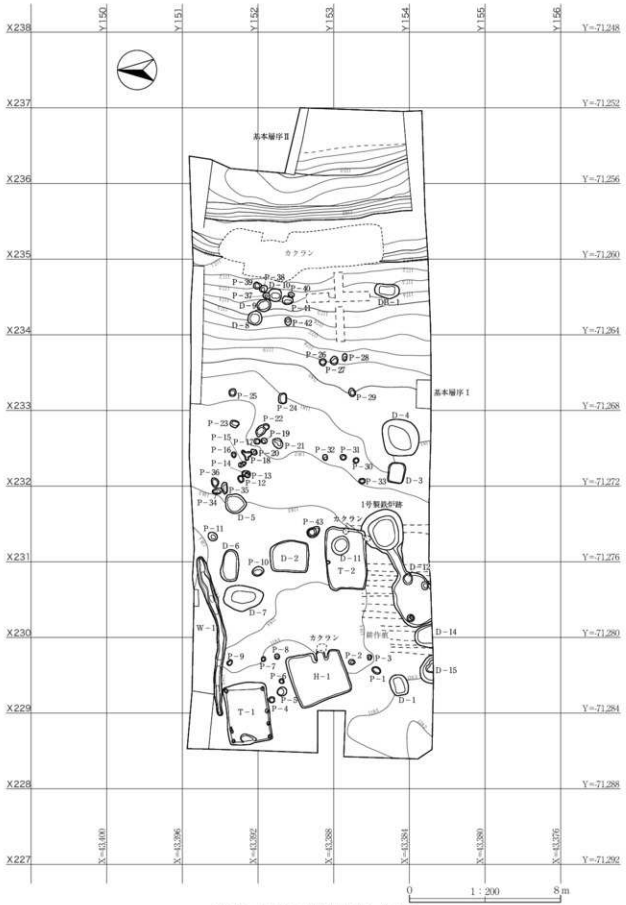


Fig.28　元総社蒼海遺跡群（64）全体図

0626364.indd 41　2016/09/26 17:53:37

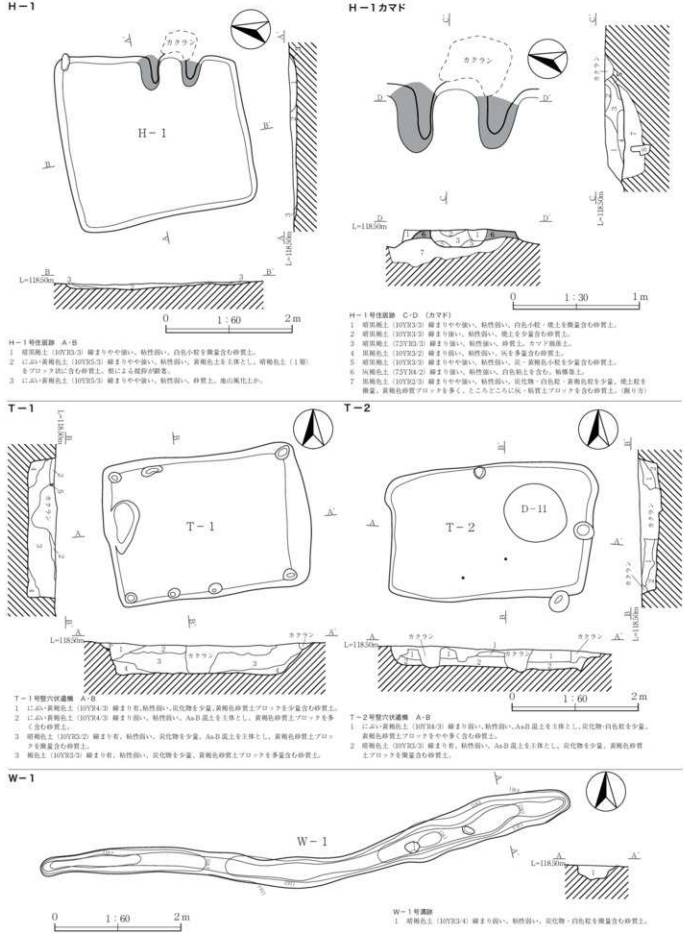


Fig.29 （64）H－1号住居跡、T－1・2号竪穴状遺構、W－1号溝跡

0626364.indd 42　2016/09/26 17:53:38

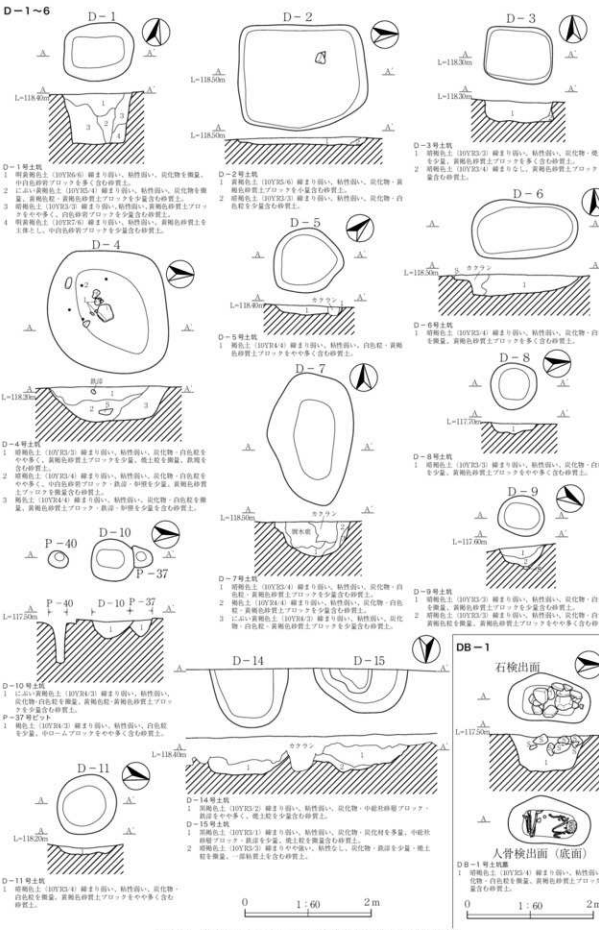
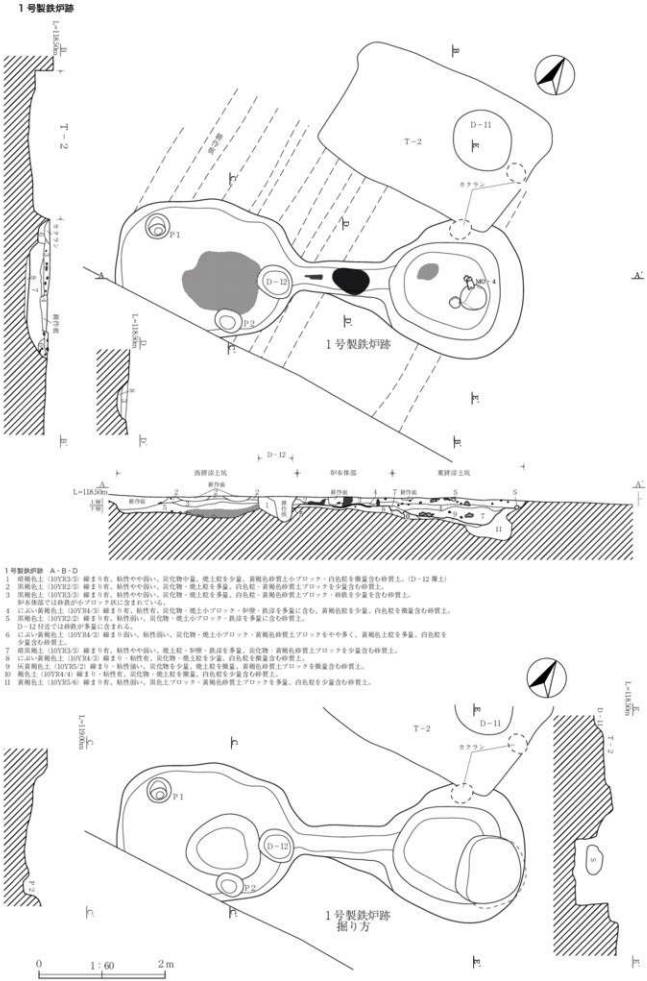


Fig.30　(64) D－1～11・14・15号土坑、DB－1号土坑墓

0626364.indd 43　2016/09/26 17:53:38



1号製鉄炉跡　A-B-D
1　暗褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや弱い。炭化物中量、焼土粒を少量、黄褐色砂質土小ブロック・白色粒を微量含む砂質土。（D-12 覆土）
2　黒褐色土（10YR2/3）締まり有、粘性やや弱い。炭化物・焼土粒を多量、白色粒・黄褐色砂質土ブロックを少量含む砂質土。
3　黒褐色土（10YR3/3）締まり有、粘性やや弱い。炭化物・焼土粒を多量、白色粒・黄褐色砂質土ブロック・砕鉄を少量を含む砂質土。
　炉本体部では鉄鉱がブロック状に含まれている。
4　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり有、粘性有、炭化物・焼土小ブロック・砕鉄・鉄滓を多量に含む、黄褐色粒を少量、白色粒を微量含む砂質土。
5　黒褐色土（10YR2/2）締まり有、粘性弱い、炭化物・焼土小ブロック・鉄滓を多量に含む砂質土。
　D-12 付近では砕鉄が多量に含まれる。
6　にぶい黄褐色土（10YR4/2）締まり弱い、粘性弱い、炭化物・焼土小ブロック・黄褐色砂質土ブロックをやや多く、黄褐色土粒を多量、白色粒を少量含む砂質土。
7　暗黒褐土（10YR3/3）締まり有、粘性やや弱い。焼土粒・砕鉄・鉄滓を多量、炭化物・黄褐色砂質土ブロックを少量含む砂質土。
9　にぶい黄褐色土（10YR4/3）締まり・粘性有、炭化物・焼土粒を少量、白色粒を微量含む砂質土。
10　灰黄褐色土（10YR5/2）締まり・粘性弱い、炭化物を少量、焼土粒を微量、黄褐色砂質土ブロックを微量含む砂質土。
10　褐色土（10YR4/4）締まり・粘性有、炭化物・焼土粒を微量、白色粒を少量含む砂質土。
11　黄褐色土（10YR5/6）締まり有、粘性弱い、黒色土ブロック・黄褐色砂質土ブロックを多量、白色粒を少量含む砂質土。

Fig.31　1号製鉄炉跡・D-12号土坑

0626364.indd 44　2016/09/26 17:53:40

Fig.32　1号製鉄炉跡構成図

0626364.indd 45　2016/09/26 17:53:41

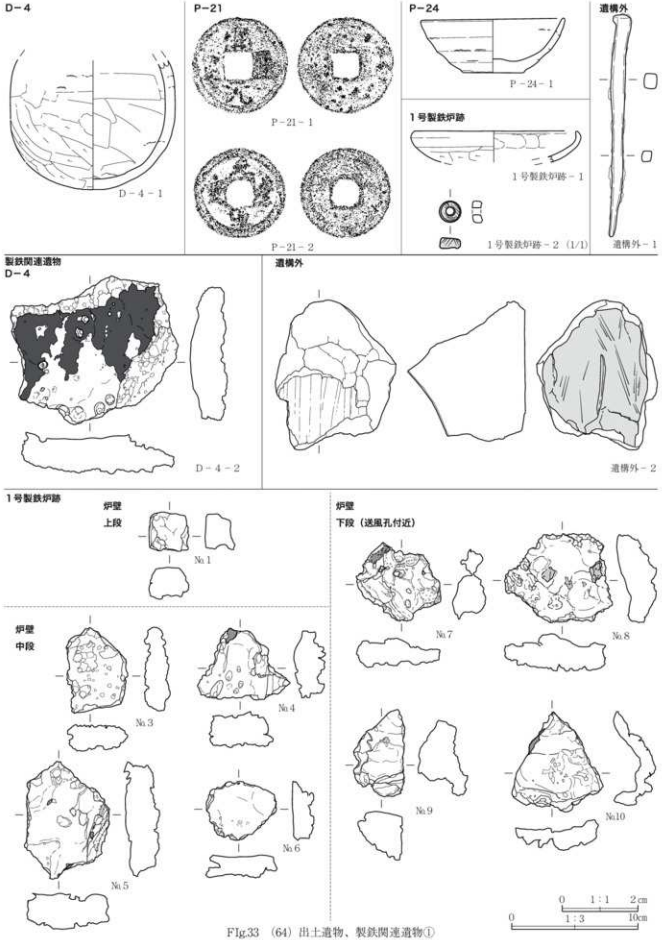


FIg.33 （64）出土遺物、製鉄関連遺物①

o626364.indd 46 2016/09/26 17:53:42

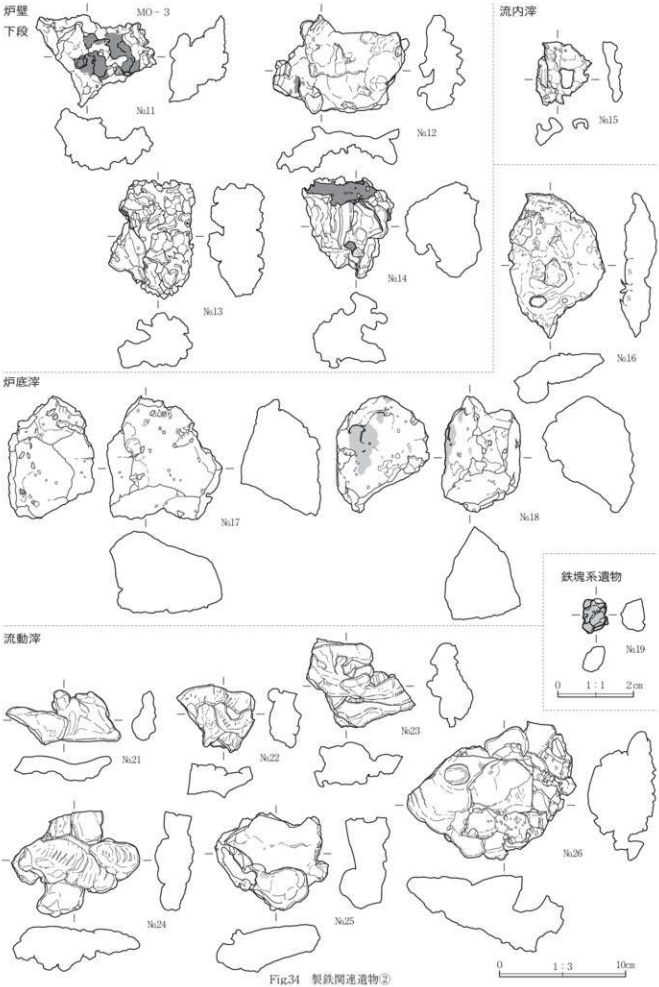


Fig.34 製鉄関連遺物②

0626364.indd 47 2016/09/26 17:53:42

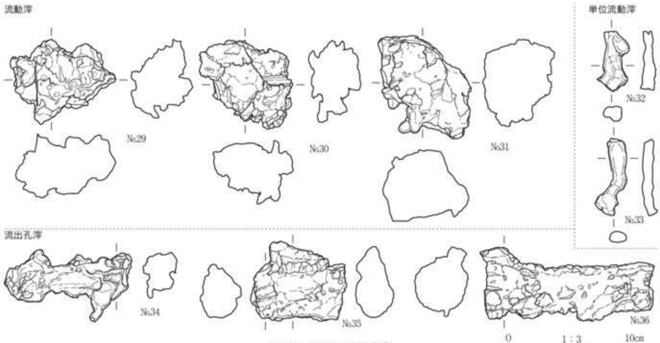


Fig.35　製鉄関連遺物③

Tab. 7　元総社蒼海遺跡群（64）土坑・ピット計測表

遺構名	位　置	長軸	短軸	深さ	平面形状
D－1	X229、Y153	1.12	0.90	0.61	長方形
D－2	X230・231、Y152	2.04	1.62	0.14	長方形
D－3	X232、Y153	1.07	0.88	0.35	長方形
D－4	X232、Y153	1.92	1.87	0.56	円形
D－5	X231、Y151	1.13	1.03	0.14	円形
D－6	X230・231、Y151	1.65	0.90	0.34	長方形
D－7	X230、Y151・152	2.12	1.39	0.54	楕円形
D－8	X234、Y151・152	0.74	0.73	0.19	円形
D－9	X234、Y152	0.76	0.64	0.32	楕円形
D－10	X234、Y152	0.66	0.65	0.26	円形
D－11	X231、Y153	0.95	0.94	0.14	円形
D－12	X230、Y154	0.58	0.48	0.44	円形
D－13	欠番				
D－14	X229・230、Y154	(0.94)	1.26	(0.32)	楕円形
D－15	X229、Y154	(1.41)	(1.04)	(0.42)	楕円形
P－1	X228、Y153	0.47	0.35	0.24	楕円形
P－2	X229、Y153	0.32	0.28	0.18	円形
P－3	X229、Y153	0.28	0.24	0.19	楕円形
P－4	X229、Y152	0.32	0.32	0.35	円形
P－5	X229、Y152	0.48	0.48	0.40	円形
P－6	X229、Y152	0.27	0.25	0.12	円形
P－7	X229、Y152	0.25	0.22	0.23	円形
P－8	X229、Y152	0.28	0.27	0.18	円形
P－9	X229、Y151	0.33	0.23	0.12	楕円形
P－10	X230、Y152	0.64	0.48	0.36	楕円形
P－11	X231、Y151	0.52	0.43	0.19	楕円形
P－12	X232、Y151	0.36	0.28	0.13	楕円形
P－13	X232、Y151	0.25	0.23	0.14	円形
P－14	X232、Y151	0.28	0.17	0.17	楕円形
P－15	X232、Y151	0.43	0.23	0.16	楕円形
P－16	X232、Y151	0.30	0.25	0.17	楕円形
P－17	X232、Y151	0.59	0.47	0.07	不整形
P－18	X232、Y151	0.36	0.27	0.19	楕円形
P－19	X232、Y151	0.30	0.29	0.11	方形
P－20	X232、Y152	0.32	0.19	0.24	円形
P－21	X232、Y152	0.61	0.48	0.21	楕円形
P－22	X232、Y151・152	0.82	0.45	0.36	楕円形
P－23	X232、Y151	0.47	0.38	0.13	楕円形
P－24	X233、Y152	0.55	0.43	0.21	長方形
P－25	X233、Y153	0.40	0.36	0.17	円形
P－26	X233、Y152	0.37	0.36	0.18	円形
P－27	X233、Y152	0.45	0.42	0.10	円形
P－28	X233、Y153	0.39	0.24	0.11	楕円形
P－29	X233、Y152	0.45	0.35	0.10	楕円形
P－30	X232、Y152	0.30	0.27	0.17	円形
P－31	X232、Y152	0.32	0.31	0.25	円形
P－32	X232、Y151	0.31	0.26	0.24	円形
P－33	X232、Y152	0.34	0.28	0.23	円形
P－34	X231、Y151	0.53	0.31	0.12	楕円形
P－35	X232、Y151	0.61	0.32	0.22	楕円形
P－36	X232、Y151	0.51	0.38	0.09	楕円形
P－37	X234、Y152	0.36	0.35	0.26	円形
P－38	X234、Y152	0.43	0.37	0.21	円形
P－39	X234、Y151・152	0.41	0.37	0.12	円形
P－40	X234、Y152	0.32	0.26	0.62	円形
P－41	X234、Y152	0.57	0.43	0.47	楕円形
P－42	X232、Y151	0.43	0.34	0.32	楕円形
P－43	X234、Y152	0.43	0.34	0.32	楕円形

Tab. 8　元総社蒼海遺跡群（64）出土遺物観察表

D－4

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	覆土	土師器 甕か	(32.4)	丸底	(10.3)	白・黒色粒、石英 チャート粒	良好	にぶい褐色 明赤褐色	体部～底部ヘラケズリ。体部上位は表面が剥離。 体部～底部ヘラナデ及びユビナデ。	体部中位～底部残存。

P－21

No	出土位置	種別	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	銭種、鋳造年等	残存状況・備考
1	覆土	銭貨	2.5	0.1	0.65	銅	3.0g	開元通宝（996年初鋳）	完存。
2	覆土	銭貨	2.4	0.1	0.75	銅	2.7g	元豊通宝（1078年初鋳）	完存。 孔の整形が粗い。私鋳銭。

P－24

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	底面	須恵器 坏	11.3	4.8	4.4	白色粒	酸化焔	浅黄橙色 浅黄橙色	口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ、底部回転糸切り。 口縁部ヨコナデ、以下ロクロナデ。	完存。

1号製鉄炉跡

No	出土位置	種別、器種	口径	底径	高さ	胎土	焼成	色調	器形、成　・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
1	P1	土師器 坏	(12.6)	丸底	(2.4)	白色粒、雲母	良好	褐色 褐色	口縁部ヨコナデ、以下ヘラケズリ。 口縁部ヨコナデ、以下ユビナデ。	破片。

No	出土位置	種別	直径	厚さ	穿孔径	材質	重量	成・整形、文様等の特徴	残存状況・備考
2	II-11 上層	石製品 臼玉	0.55	0.3	0.2	滑石	0.2g	表・裏・側面には整形時の擦痕が顕著。	完存。

o626364.indd　48　　2016/09/26　17:53:43

遺構外

No	出土位置	種別、器種	長さ	幅	厚さ	材質	焼成	色調	重量	成・整形等の特徴	残存状況・備考
1	確認面	鉄製品 釘	1.9	1.4	0.3	鉄	-	-	19.9 g	-	完存。

Tab. 9　元総社蒼海遺跡群（64）製鉄関連遺物観察表

D－4

No	出土位置	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴等
1	覆土 中位	炉壁	13.3	11.8	3.4	170.8 g	内面は黒褐色に滓化、外面下半は表面酸化。胎土にはスサを多量に含む。内面から厚さ約1cmが発泡している。送風孔の上部か。

遺構外

No	出土位置	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴等
2	調査区 表採	炉壁 上部か	11.8	9.6	9.4	255.9	内面が被熱しており、炉壁の上部の可能性があるが他の炉壁と質感が大きく異なる。製鉄炉の炉壁であるとすれば、胎土質感が異なるのは特異な残存状況のためか。鍛冶炉壁など製鉄炉ではない炉構築材の可能性もある。

1号製鉄炉跡

No	出土位置	種別	長さ	幅	厚さ	重量	特徴等
1	西排滓土坑 下層	炉壁 上段	3.2	3.1	2.45	18.1 g	内面は被熱しているが、滓化していない。外面はやや赤色酸化。胎土はスサを多量に含む。
2	東排滓土坑 下層	炉壁 上段	8.2	7.3	3.1	86.3 g	MO－1を参照。
3	東排滓土坑 下層	炉壁 中段	6.9	2.1	2.1	17.4 g	内面は被熱により滓化・発泡。外面は還元。胎土はスサを多量に含む。
4	東排滓土坑 下層	炉壁 中段	7.4	5.7	2.9	30.3 g	内面は黒褐色に滓化。外面は還元。胎土はスサを多量に含む。内面から厚さ約1cmが滓化・発泡している。やや下段気味か。
5	東排滓土坑 下層	炉壁 中段	9.3	6.7	2.9	42.8 g	内面は黒褐色に滓化。外面下半は赤色酸化。胎土はスサを多く含む。内面から厚さ約1.4cmが発泡している。やや下段気味。送風孔の上部か。
6	東排滓土坑 下層	炉壁 中段	5.5	4.7	1.9	24.2 g	内面は黒褐色に滓化。外面は還元。胎土はスサを多量に含む。内面から厚さ約0.5cmは発泡している。中段やや上位か。
7	東排滓土坑 下層	炉壁　下段 （送風孔付近）	6.7	6.3	2.7	29.9 g	内面は黒褐色に滓化。垂れが生じている。外面は赤色酸化。胎土はスサを多量に含む。内面から厚さ約0.5cmは滓化・発泡している。送風孔付近か。
8	東排滓土坑 下層	炉壁　下段 （送風孔付近）	8.6	7.0	3.25	71.8 g	内面は滓化し全面に垂れが生じている。表面は暗紫灰～暗青灰色である。炉壁の胎土には、長さ3cm程の多量スサが混入している。炉の内面から厚さ9mm程度は滓化・発泡し、その外側は酸化している。送風孔周辺か。
9	東排滓土坑 下層	炉壁　下段 （送風孔付近）	6.9	4.0	4.8	30.9 g	内面は黒褐色に滓化。外面は赤色酸化。胎土はスサを多量に含む。内面から厚さ約2.2cmは滓化している。送風孔付近か。
10	東排滓土坑 下層	炉壁　下段 （送風孔付近）	7.9	7.3	3.5	72.0 g	内面はガラス化している。外面は赤色酸化。胎土はスサを多量に含む。内面から厚さ約0.6cmがガラス化している。送風孔付近か。
11	東排滓土坑 下層	炉壁 下段	7.4	9.6	5.2	155.6 g	内面は激しく滓化し、全面が凸凹のある垂れが生じている。表面は暗紫灰～暗青灰色である。炉壁の胎土にはスサが多量に混入している。炉の内面から22mm程度は滓化・発泡し、その外面は還元している。
12	東排滓土坑 下層	炉壁 下段	10.8	7.9	4.1	176.2 g	内面は黒褐色に滓化。垂れが生じている。外面は赤色酸化。胎土はスサを多量に含む。内面から厚さ約2.5cmは滓化している。送風孔付近か。
13	東排滓土坑 下層	炉壁 下段	9.4	6.8	4.5	174.7 g	内面は黒褐色に滓化。内壁に被熱痕りしている。外面はやや還元しており、部分的に酸化。胎土はスサを多量に含む。
14	東排滓土坑 下層	炉壁 下段	8.1	7.3	6.2	189.6 g	内面は約4cm厚くガラス化しており、木炭痕が観察できる。外面はやや還元しており、部分的に酸化している箇所がある。胎土はスサを多量に含む。下段下位か。
15	西排滓土坑 下層	炉内滓	5.1	4.4	3.2	32.1 g	木炭痕と小鉄塊を含む炉内滓。炉壁起源の垂れが生じている。
16	西排滓土坑 下層	炉底滓	11.5	7.7	4.1	264.4 g	上面上位に小鉄塊が生じた滓主体の炉底滓。木炭痕と気泡が内在する。
17	西排滓土坑 下層	炉底滓	9.8	9.1	6.8	740.8 g	光沢のある灰褐色を呈する滓質が密な炉底滓。小鉄塊が内在し、炉床土が付着している。
18	西排滓土坑 下層	炉底滓	8.2	6.2	7.3	489.9 g	光沢のある灰褐色を呈する滓質が密な炉底滓。小鉄塊が内在し、炉床土が付着している。
19	西排滓土坑 底面	鉄塊系遺物	2.7	2.1	2.0	17.2 g	放射割れが生じた鉄塊系遺物。下面上半に滓が付着。
20	西排滓土坑 底面	鉄塊系遺物	3.9	2.9	2.3	34.1 g	MO－6を参照。
21	東排滓土坑 下層	流動滓	9.1	4.3	2.0	80.9 g	幅約2cmを呈する小型の流動滓。滓質は密で気泡はほとんどない。
22	東排滓土坑 下層	流動滓	6.2	5.4	2.7	120.9 g	厚さ約2.5cmの流動滓片。流れ皺が生じている。気泡はほとんどなく流動性が高い。
23	西排滓土坑 底面	流動滓	8.6	7.1	3.7	286.5 g	幅約8cmの小型の流動滓。滓質は密で気泡は内在する。流動性が高い。
24	東排滓土坑 下層	流動滓	10.1	8.4	3.8	292.2 g	幅約3.5cmの流動滓の先端。滓質は密で気泡がほとんどない。上面は青紫色。
25	東排滓土坑 下層	流動滓	9.1	7.7	4.9	332.0 g	厚さ約3.5cmの流動滓片。滓質は密で気泡が多く内在する。
26	II－6 下層	流動滓	13.4	10.9	7.2	842.4 g	厚さ約6.5cmの流動滓片。滓質は密で気泡が多く内在する。炉壁片を噛み込んでいる。
27	東排滓土坑 下層	流動滓	13.3	12.4	3.5	672.8 g	MO－4を参照。
28	西排滓土坑 底面	流動滓	10.5	8.2	3.7	576.3 g	MO－5を参照。
29	西排滓土坑 底面	流動滓	6.5	6.7	3.3	142.8 g	流動性の高い流動滓。気泡が多く内在し、炉壁片や砂粒を噛み込んでいる滓質は脆い。
30	西排滓土坑 底面	流動滓	7.4	7.6	5.1	188.1 g	流動性の高い流動滓。気泡が多く内在し、炉壁片や砂粒を噛み込んでいる滓質は脆い。
31	西排滓土坑 底面	流動滓	8.2	7.4	6.0	375.7 g	やや粘性の高い流動滓。気泡がわずかに内在し、炉壁片や砂粒が付着している。滓質は密。
32	西排滓土坑 底面	単位流動滓	4.7	2.5	1.6	7.0 g	上面は青紫色。下面には炉壁片などが付着している。流動性は高い。
33	西排滓土坑 底面	単位流動滓	6.1	1.8	1.1	13.6 g	上・下面ともに青紫色。流動性が高い。
34	東排滓土坑 下層	流出孔滓	10.1	5.7	2.8	108.7 g	上面平坦で青紫色。下面は断面円形で炉床土が付着している。炉底塊周辺に生じる湯道の滓か。
35	西排滓土坑 底面	流出孔滓	7.7	6.3	3.1	149.8 g	上面平坦で青紫色。下面は断面円形で炉床土が付着している。炉底塊周辺に生じる湯道の滓か。
36	II－6 下層	流出孔滓	13.9	5.9	4.3	307.3 g	上面平坦で青紫色。下面は断面円形で炉床土が付着している。炉底塊周辺に生じる湯道の滓か。

o626364. indd　49　　2016/09/26　17:53:44

Ⅵ　元総社蒼海遺跡群（64）出土製鉄関連遺物の分析調査

日鉄住金テクノロジー（株）
八幡事業所・TAC センター
大澤正己・鈴木瑞穂

1．いきさつ

元総社蒼海遺跡群（64）は群馬県前橋市に所在する。発掘調査に伴い、古代の製鉄炉跡が１基検出された。両端に排滓土坑を持つ箱形炉と推定される。当炉での鉄生産の実態を検討する目的から、調査を実施する運びとなった。

2．調査方法

2－1．供試材

Table1 に示す。出土製鉄関連遺物計４点の調査を行った。

2－2．調査項目

（1）肉眼観察

分析調査を実施する遺物の外観の特徴など、調査前の観察所見を記載した。

（2）マクロ組織

顕微鏡埋込み試料の断面全体を低倍率で撮影したものを指す。広い範囲で試料の形状や組織の分布状態などを観察できる。

（3）顕微鏡組織

鉱滓の鉱物組成や金属部分の組織観察などを目的とする。金属反射顕微鏡を用い、特徴的・代表的な視野を選択して写真撮影を行った。金属鉄の腐食（Etching）には、3% ナイタル（硝酸アルコール液）を用いた。

（4）EPMA（Electron Probe Micro Analyzer）調査

日本電子㈱製 JXA-8800RL（波長分散型５チャンネル）にて含有元素の定性・定量分析を実施した。定量分析は試料電流 2.0 × 10 － 8 アンペア、ビーム径３μm、補正法は ZAF に従った。反射電子像（COMP）は、調査面の組成の違いを明度で表示するものである。また元素の分布状態を把握するため、反射電子像に加え、特性 X 線像の撮影も適宜行った。

（5）化学組成分析

供試材の分析は次の方法で実施した。

全鉄分（Total Fe）、金属鉄（Metallic Fe）、酸化第一鉄（FeO）：容量法。

炭素（C）、硫黄（S）、：燃焼容量法、燃焼赤外吸収法

二酸化硅素（SiO_2）、酸化アルミニウム（Al_2O_3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化カリウム（K_2O）、酸化ナトリウム（Na_2O）、酸化マンガン（MnO）、二酸化チタン（TiO_2）、酸化クロム（Cr_2O_3）、五酸化燐（P_2O_5）、バナジウム（V）、銅（Cu）、二酸化ジルコニウム（ZrO_2）、砒素（As）：ICP（Inductively Coupled Plasma Emission Spectrometer）法：誘導結合プラズマ発光分光分析。

0626364.indd 50　2016/09/26 17:53:44

３．調査結果

MO － 1：炉壁

（1）肉眼観察：強い熱影響を受けて、内面が黒色ガラス質化した炉壁片（86.3g）である。また内面表層には茶褐色の錆化鉄が点々と付着する、なかには弱い着磁性を持つ箇所もある。炉壁粘土は灰褐色の粘土質で、短く切ったスサが多量に混和されている。

（2）顕微鏡組織：Photo.1 ①～③に内面のガラス質滓部分を示す。表層には灰褐色多角形結晶マグネタイト（Magnetite:FeO･Fe_2O_3）が晶出する。微細な不定形・粒状灰白色部は錆化鉄である。またガラス質滓中には、熱影響を受けた砂粒（石英・長石類など）が点在する。これは炉壁粘土中に混和されたものと判断される。

（3）化学組成分析：Table2 に示す。強熱減量（Ig loss）は 1.67% と低値であった。強い熱影響を受けて、結晶構造水が飛散した状態である。鉄分（Fe_2O_3）は 7.06% と高値である。分析にあたって内面表層は除去しているが、全体にガラス質化が進んでいるため、滓中の鉄分の影響を受けた可能性が高いと考えられる。またアルミナ（Al_2O_3）は 20.19% と高値傾向を示す。

（4）耐火度：1120℃であった。

当炉壁は耐火性に寄与するアルミナ（Al_2O_3）の割合は高いが、古代の製鉄炉の炉壁としては若干低めの耐火性状といえる。上述したようにガラス滓中の鉄分の影響があり、炉壁本来の耐火性より低めの値となった可能性が考えられる。

MO － 4：流動滓

（1）肉眼観察：上面が滑らかな流動状で、操業中に炉外に排出された製錬滓の破片（672.8g）である。表面に微細な炉壁片が固着する。短軸側の側面２面は破面で、大小の気孔が少量点在するが、緻密で重量感のある滓である。

（2）顕微鏡組織：Photo.1 ④～⑥に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル（Ulvöspinel：2FeO･TiO_2）、淡灰色柱状結晶ファヤライト（Fayalite：2FeO･SiO_2）が晶出する。砂鉄製錬滓に最も一般的な晶癖といえる。また滓中に点在する微細な明白色粒は金属鉄である。

（3）化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）40.96% に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.23%、酸化第１鉄（FeO）46.82%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）6.21% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO + K_2O + Na_2O）の割合は 37.32% と高く、塩基性成分（CaO + MgO）も 6.46% と高め傾向を示す。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱[11]）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 6.22%、バナジウム（V）が 0.25% であった。また酸化マンガン（MnO）は 0.48%、銅（Cu）は＜ 0.01% と低値であった。

以上の鉱物・化学組成から、当鉄滓は砂鉄製錬滓に分類される。

MO － 5：流動滓

（1）肉眼観察：上面が滑らかな流動状で、操業中に炉外に排出された製錬滓の破片（576.3g）である。表面に微細な炉壁片が固着する。短軸両端は破面であるが、片側は小破面で端部付近の破片と推定される。中小の気孔が散在するが、緻密で重量感のある滓である。

（2）顕微鏡組織：Photo.2 ①～③に示す。淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネル、淡灰色柱状結晶ファヤライトが晶出する。砂鉄製錬滓の晶癖である。また下面表層側には、被熱砂鉄粒子が複数混在する。③の左側の灰褐色粒はその拡大で、格子状の離溶組織を持つ含チタン鉄鉱である。

（3）化学組成分析：Table2 に示す。全鉄分（Total Fe）45.16% に対して、金属鉄（Metallic Fe）0.60%、酸化第１鉄（FeO）50.45%、酸化第２鉄（Fe_2O_3）7.65% の割合であった。造滓成分（SiO_2 + Al_2O_3 + CaO + MgO

0626364.indd 51 2016/09/26 17:53:44

+ K_2O + Na_2O）の割合は 32.10% と高めで、塩基性成分（CaO + MgO）も 6.16% と高め傾向を示す。製鉄原料の砂鉄（含チタン鉄鉱）起源の二酸化チタン（TiO_2）は 6.00%、バナジウム（V）が 0.24% であった。また酸化マンガン（MnO）は 0.46%、銅（Cu）は＜ 0.01% と低値である。
当鉄滓も流動滓（MO － 4）とよく似た鉱物・化学組成であり、砂鉄製錬滓に分類される。

MO － 6：鉄塊系遺物

（1）肉眼観察：表面が茶褐色の鉄錆化物で覆われた、小形の鉄塊系遺物（34.1g）である。表面には小さな凹凸があり、微細な木炭破片が少量付着する。また特殊金属探知器の M（◎）で反応があり、内部には金属鉄が残存すると推定される。

（2）マクロ組織：Photo.2 ④に示す。素地の暗灰色部は製錬滓で、内部に不定形の微細な金属鉄、およびその錆化物が多数散在する。また表面には土砂が付着しており、そのなかには微細な木炭破片や多数の砂鉄粒子が観察される。

（3）顕微鏡組織：Photo.2 ⑤⑥～ Photo.3 ①②に示す。Photo.2 ⑤の暗灰色部は滓部で、淡茶褐色多角形結晶ウルボスピネルが晶出する。砂鉄製錬滓の晶癖である。また明白色部は金属鉄である。素地は白色のフェライト（Ferrite：α 鉄）で、黒色層状のパーライト（Pearlite）が少量晶出する。この部分は鉄中の炭素含有率が低く、0.1% 未満と推定される。一方⑥は最もまとまりのよい金属鉄部の拡大である。表層部分には白色針状のフェライトが析出するが、中央ははぼ全面黒色層状のパーライト（Pearlite）組織を呈する。この部分では鉄中の炭素含有率は最大で 0.8% 程度と推定される。

Photo.3 ①中央は微細な木炭破片である。内部には導管が分布しており、広葉樹材の黒炭と推定される。また左下の灰褐色粒は砂鉄で、②の箇所でも多数の砂鉄粒子（含チタン鉄鉱）が観察される。

（4）EPMA 調査：Photo.3 ③に金属鉄部の反射電子像（COMP）を示す。鉄中に点在する微小黄褐色部は、特性 X 線像では硫黄（S）に強い反応がある。定量分析値は 66.7%Fe － 30.2%S（分析点 1）、66.1%Fe － 33.0%S（分析点 2）であった。硫化鉄（FeS）に同定される。

Photo.3 ④は滓部の反射電子像（COMP）を示す。滓中の微細な白色針状結晶と淡茶褐色多角形結晶は特性 X 線像ではチタン（Ti）に強い反応がある。白色針状結晶の定量分析値は 29.6%FeO － 38.9%TiO_2 － 2.1%V_2O_3 － 9.8%SiO_2 － 3.9%Al_2O_3 － 2.2%CaO － 5.5%MgO（分析点 3）であった。白色針状結晶は非常に微細なため、測定値は周囲のガラス質滓の影響を受けた値となっている。結晶はイルミナイト（Ilmenite：FeO・TiO_2）に近い組成の鉄チタン酸化物と推定される。また淡茶褐色多角形結晶の定量分析値は 46.6%FeO － 32.1%TiO_2 － 5.1%V_2O_3 － 1.1%MnO － 5.8%Al_2O_3 － 8.4%MgO（分析点 4）であった。ウルボスピネル（Ulvöspinel：2FeO・TiO_2）に近い組成の化合物である。

Photo.3 ⑤は付着砂鉄の反射電子像（COMP：Photo.3 ②右上の砂鉄粒子の拡大）である。微細な淡黄色鉱物は、特性 X 線像では硫黄（S）に強い反応がある。定量分析値は 56.6%Fe － 3.2%Cu － 38.0%S（分析点 5）であった。磁硫鉄鉱（Pyrrohtite：$Fe_{1-x}S$）に同定される。素地は特性 X 線像では鉄（Fe）、チタン（Ti）に強い反応がある。定量分析値は 82.1%FeO － 5.7%TiO_2 － 2.2%Al_2O_3 － 1.4%MgO（分析点 6）であった。チタン磁鉄鉱（Titanomagnetite）である。灰色六角形状・柱状鉱物は特性 X 線像ではカルシウム（Ca）、燐（P）に反応がある。定量分析値は 53.8%Ca － 2.1%F － 36.7%P_2O_5（分析点 7）であった。燐灰石［Apatite：$Ca_5F(PO_4)_3$］である。
当遺物は砂鉄製錬に伴う生成物（含鉄鉄滓）であった。金属鉄部は微細で、炭素含有率は部位によるばらつきが大きい。低炭素域は 0.1% 未満、高炭素域は最大で 0.8% 程度と推定される。また付着物から　広葉樹材の木炭が用いられていた。砂鉄は含チタン鉄鉱であることが確認された。

0626364.indd 52　2016/09/26 17:53:44

4．まとめ

元総社蒼海遺跡群（64）で検出された１号製鉄炉跡に伴う、出土関連遺物を調査した結果、次の点が明らかとなった。

〈１〉今回調査を実施した鉄滓２点（MO－4、5）は、ともに砂鉄製錬滓に分類される。チタン（TiO_2）含有率は6%台とやや低めであるが、群馬県下の西野原遺跡[2]、峯山遺跡[3]の砂鉄・砂鉄焼結塊のチタン含有率も６～7%である。地域周辺に賦存する、火山岩起源の砂鉄（含チタン鉄鉱）を採取して、製鉄原料としていた可能性が高いと考えられる。

〈２〉鉄塊系遺物（MO－6）表面には、砂鉄粒子が多数付着している。熱影響を受けた痕跡がほとんどなく、操業中に製鉄炉の周辺に飛散したものと推測される。EMPAを用いて、付着砂鉄（チタン磁鉄鉱）の定性・定量分析を行ったところ、粒内には微細な磁硫鉄鉱（Pyrrohtite:$Fe_{1-x}S$）、燐灰石〔Apatite：$Ca_5F(PO_4)_3$〕などが確認された。これらの脈石鉱物は、高温製錬に伴い主要元素の硫黄（S）、燐（P）が生成中に移行した場合、鍛冶作業時の鍛接不良や製品の脆化などの要因となる。

表面に付着した木炭破片から、当遺跡では燃料に広葉樹材の黒炭を用いたことも明らかとなった。

また金属鉄部は微細で、製錬滓との分離も不十分な状態であった。炭素含有率は部位によるばらつきが大きく、0.1%から0.8%程度の軟鉄～鋼と推定される。

〈３〉炉壁（MO－1）耐火性に寄与するアルミナ（Al_2O_3）の割合は高いが、古代の製鉄炉の炉壁としても若干低めの耐火性状といえる。ガラス滓中の鉄分の影響を受けた可能性が考えられる。ただし、群馬県下の箱形炉の炉壁片の耐火度をみると、上述した西野原遺跡、峯山遺跡でもほぼ1100℃台であった。造滓剤としての役割を意識して、胎土が選択されていた可能性も考慮する必要がある。

註

（1）木下亀城・小川留太郎『岩石鉱物』保育社　1995

チタン鉄鉱は赤鉄鉱とあらゆる割合に混じりあった固溶体をつくる。（中略）チタン鉄鉱と赤鉄鉱の固溶体には、チタン鉄鉱あるいは赤鉄鉱の結晶をなし、全体が完全に均質なものと、チタン鉄鉱と赤鉄鉱が平行にならんで規則正しい縞状構造を示すものとがある。チタン鉄鉱は磁鉄鉱とも固溶体をつくり、これにも均質なものと、縞状のものとがある。（中略）このようなチタン鉄鉱と赤鉄鉱、または磁鉄鉱との固溶体を含チタン鉄鉱 Titaniferous iron ore という。

（2）『西野原遺跡（5）（7）』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2010

（3）『峯山遺跡Ⅱ』（財）群馬県埋蔵文化財調査事業団　2010

0626364.indd 53　2016/09/26 17:53:44

o62364_Indd 54

Table1　供試材の履歴と調査項目

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	計測値		磁着度	メタル度	調査項目								備考
					大きさ (mm)	重量 (g)			マクロ組織	顕微鏡組織	ビッカース断面硬度	X線回折	EPMA	化学分析	耐火度	カロリー	
MO-1	元総社香海遺跡群（64）	1号製鉄炉東排滓土坑下層	炉壁（上段）	7～8c	82 × 73 × 31	86.3	1	なし		○				○	○		
MO-4			流動滓		133 × 124 × 35	672.8	1	なし		○				○			
MO-5		1号製鉄炉西排滓土坑底面	流動滓		105 × 82 × 57	576.3	1	なし		○				○			
MO-6			鉄塊系遺物		39 × 29 × 23	34.1	－	M（◎）	○	○			○				

Table2　供試材の化学組成

符号	遺跡名	遺構名	遺物名称	推定年代	全鉄分 (Total Fe)	金属鉄 (Metallic Fe)	酸化第1鉄 (FeO)	酸化第2鉄 (Fe₂O₃)	＊ 二酸化珪素 (SiO_2)	＊ 酸化カルシウム (CaO)	＊ 酸化カルシウム (CaO)	＊ 酸化マグネシウム (MgO)	＊ 酸化ガラム (K_2O)	＊ 酸化ナトリウム (Na₂O)	酸化マンガン (MnO)	二酸化チタン (TiO_2)	酸化ガラム (Cr_2O_3)	硫黄 (S)	五酸化燐 (P_2O_5)	強熱減量 (Ig loss)	炭素 (C)	ボナジウム (V)	銅 (Cu)	二酸化ジルコニウム (ZrO_2)	砒素 (As)	耐火度 (℃)	Σ＊ 造滓成分	造滓成分 Total Fe	TiO₂ Total Fe	注
MO-1	元総社香海遺跡群（64）	1号製鉄炉	炉壁（上段）	7～8c	7.17	0.17	2.66	7.06	57.53	20.19	3.76	1.78	0.45	1.94	0.09	0.63	0.08	0.024	0.14	1.67	0.53	0.03	<0.01	－	－	1120	85.65	11.946	0.088	
MO-4			流動滓		40.96	0.23	46.82	6.21	22.05	7.85	3.01	3.45	0.48	0.48	0.48	6.22	0.05	0.054	0.40	－	< 0.01	0.25	< 0.01	0.01	< 0.01	－	37.32	0.911	0.152	
MO-5			流動滓		45.16	0.60	50.45	7.65	18.06	6.88	3.29	2.87	0.54	0.46	0.46	6.00	0.05	0.039	0.44	－	0.02	0.24	< 0.01	0.01	< 0.01	－	32.10	0.711	0.133	

Table3　出土遺物の調査結果まとめ

符号	遺跡名	出土位置	遺物名称	推定年代	顕微鏡組織	化学組成（%）								所見
						Total Fe	Fe₂O₃	塩基性成分	TiO₂	V	MnO	造滓成分	Cu	
MO-1	元総社香海遺跡群（64）	1号製鉄炉東排滓土坑下層	炉壁（上段）	7～8c	内面表層：ガラス質滓、被熱砂粒（石英・長石類混在） 滓部：M、鍋化鉄	7.17	7.06	5.54	0.63	0.03	0.09	85.65	< 0.01	耐火度：1120℃、やや耐火性の低い性状
MO-4			流動滓		滓部：U＋F、微小金属鉄粒	40.96	6.21	6.46	6.22	0.25	0.48	37.32	< 0.01	製錬滓（原料：砂鉄）
MO-5		1号製鉄炉西排滓土坑底面	流動滓		滓部：U＋F、被熱砂鉄（含チタン鉄鉱）	45.16	7.65	6.16	6.00	0.24	0.46	32.10	< 0.01	製錬滓（原料：砂鉄）
MO-6			鉄塊系遺物		滓部：U＋I、金属鉄部：亜共析～共析組織、付着木炭：広葉樹材、砂鉄（含チタン鉄鉱）付着	－	－	－	－	－	－	－	－	金属鉄部：炭素含有率のばらつきが大きい（C：0.1以下～0.8前後）

M:Magnetite（FeO・Fe₂O₃）、U:Ulvospinel（2FeO・TiO₂）、F:Fayalite（2FeO・SiO₂）

2016/09/26 17:53:44

dz0294.indd 55 2016/09/26 17:53:48

分析資料番号4

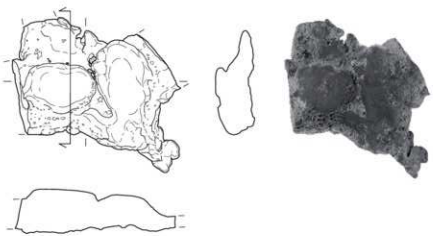
出土状況	遺跡名	元総社蒼海遺跡群（6E）	書類No.	
	出土位置	1号製鉄炉東隣接土坑下層	時 期	出土遺物：7～8世紀
試料記号	種 類：MO－4 化 学：MO－4 数制化：－	法量 長 径 113cm 短 径 124cm 厚 さ 35cm 重 量 672kg	色 調	表：灰青灰色 遺存度 破片 地：褐灰～褐色 断面際粉 －
遺物種類（名称）	流動滓		磁着度	1
			メタル度	なし

分析：マクロ 顕鏡 硬度 CMA X 線回折 化学 耐火度 カロリー 熱残比 X 線透過

観察所見　滓質密、比重が若い、流動性の高い滓で、左側面上部に直径 30mm 程度の気泡が見られる。上面は製鉄炉、下面は砂質土や細かい炉壁を粗滓とする粗粒子が付着している。上下面が生きており、左右側面が破面。

分析部分　長軸端部 1/3 を直線状に切断し、分析に用いる。残材返却。

備　考　炉外に流出した流動滓である。滓質が密である。化学分析を主体に行い、操業内容や生成熱を推測する資料としたい。



分析資料番号1

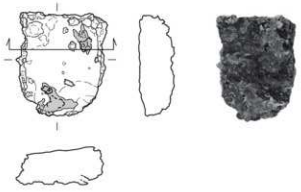
出土状況	遺跡名	元総社蒼海遺跡群（6E）	書類No.	
	出土位置	1号製鉄炉東隣接土坑下層	時 期	出土遺物：7～8世紀
試料記号	種 類：MO－1 化 学：MO－1 数制化：－	法量 長 径 82cm 短 径 73cm 厚 さ 31cm 重 量 86kg	色 調	表：暗灰黄～暗灰黄色 遺存度 破片 地：褐灰～褐色 断面際粉 －
遺物種類（名称）	炉壁（上段）		磁着度	1
			メタル度	なし

分析：マクロ 顕鏡 硬度 CMA 〇 X 線回折 化学 ○ 耐火度 カロリー 熱残比 X 線透過

観察所見　内面は溶化し、光沢は暗黄灰～暗黄灰色である。炉壁の胎土には、長さ 3cm 程のスサが多量に混入している。炉厚から厚さ 12mm 程度は溶化・発泡し、その外側は還元している。

分析部分　直線状に切断。短軸端部 1/3 を直線状に切断し、分析に用いる。残材返却。

備　考　上段の炉壁として耐火度を測定する。下段の炉壁と性状・耐火度に違いがある比較検討する。



d02994.indd 56 2016/09/26 17:53:53

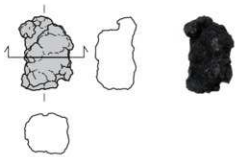
分析資料番号6

出土状況	遺跡名	元総社蒼海遺跡群（64）				遺物No.								項目	浮	沈
	出土位置	1号製鉄炉西排滓上坑底面				時・時期	出土遺物：7～8世紀							マクロ		○
試料記号	検：鏡：MO－6 化：学：MO－6 放射化：－	法量	長径	39 cm		色調	表：黒褐色	遺存度	破片	分析				顕微 現位 CMA		○
			短径	29 cm			地：暗灰褐色	断面形態	○					X線回折		
			厚さ	23 cm		磁着度	1							化学	○	
遺物種類（名称）	鉄関系遺物		重量	34.1 g		メタル度	なし							組成 含浸		○
														放射化 X線透過		○

観察所見　黒褐色。内面から鍛の噛み出ており、全体に鉄分が含有している。外面観察では滓部が確認できなかったことから、鉄関系遺物とした。磁着が中位い。塊状して、金属鉄の残存がみれば、化学分析を行いたい。

分析部分　長軸端部1/2を直縦状に切断し、メタル部を中心に分析を用いる。残材の切断面に腐蝕進む。残材進却。

備　考　本遺構出土鉄関系遺物で最も金属鉄が残存していると推測される資料である。



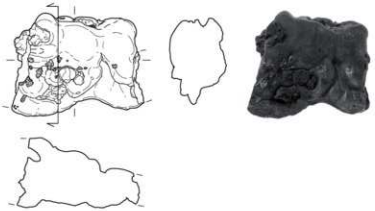
分析資料番号5

出土状況	遺跡名	元総社蒼海遺跡群（64）				遺物No.								項目	浮	沈
	出土位置	1号製鉄炉西排滓上坑底面				時・時期	出土遺物：7～8世紀							マクロ		
試料記号	検：鏡：MO－5 化：学：MO－5 放射化：－	法量	長径	105 cm		色調	表：黒褐色	遺存度	破片	分析				顕微 現位 CMA	○	
			短径	82 cm			地：明黄褐色	断面形態	－					X線回折		
			厚さ	57 cm		磁着度	1							化学	○	
遺物種類（名称）	流動滓		重量	576.3g		メタル度	なし							組成 含浸		
														放射化 X線透過		

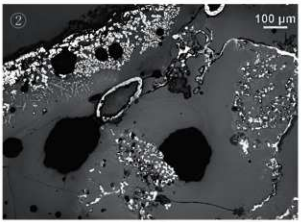
観察所見　滓質密、比重が高い、流動性の良い部が下段にあり、流動性の悪い部が、その滓を包み込むように覆っている。両横面上部に直径2～6 mm 程度の気泡が見られる。上面は無風化、下面は砂質土や細かい砂礫を相当まず微粒子が付着している。上下面が生きており、左右側面が破損。

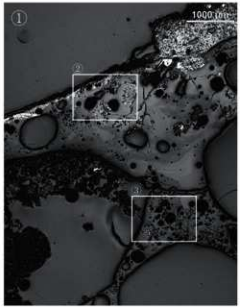
分析部分　長軸端部1/3～1/2を直縦状に切断し、分析に用いる。残材進却。

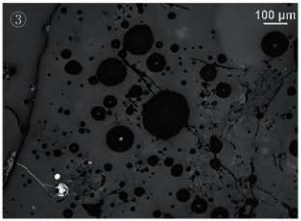
備　考　炉外に流出した流動滓である。滓質は密である。化学分析を主体に行い、推量内容や生成鉄を推測する資料としたい。



MO-1　炉壁
①内面表層：ガラス質滓、
②表層滓部：マグネタイト、不定形微細灰褐色部：鋳化鉄
③灰色粒：鋳化鉄、被熱砂粒（石英・長石類）







MO-4　流動滓
④～⑥滓部：ウルボスピネル・ファヤライト、微小明白色粒：金属鉄

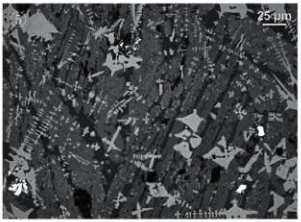
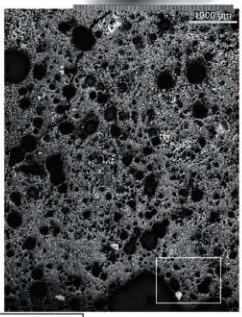
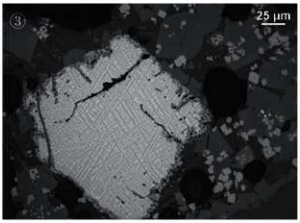


Photo.1　炉壁・流動滓の顕微鏡組織

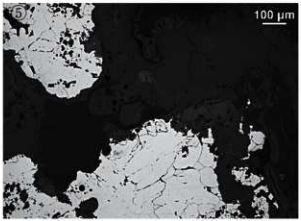
0626364.indd 57　2016/09/26 17:53:54

MO-5　流動滓
①～③滓部：ウルボスピネル・ファヤライト。
下層表層：被熱砂鉄
（含チタン鉄鉱）





MO-6
鉄塊系遺物
④マクロ組織、ナイタル etch
⑤金属鉄部：亜共析組織、滓部：ウルボスピネル、
⑥金属鉄部：亜共析組織～共析組織
Photo.3 ①表層付着砂鉄、木炭破片（広葉樹材）、②付着砂鉄（含チタン鉄鉱）



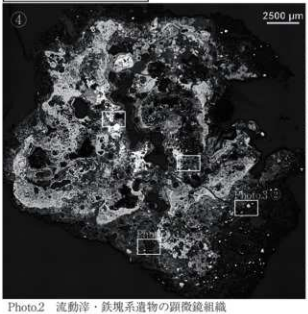
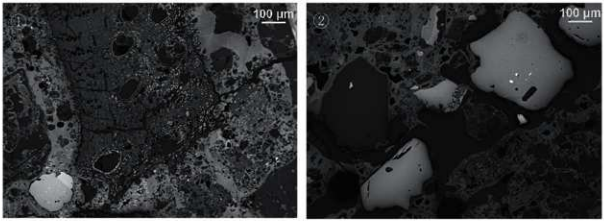
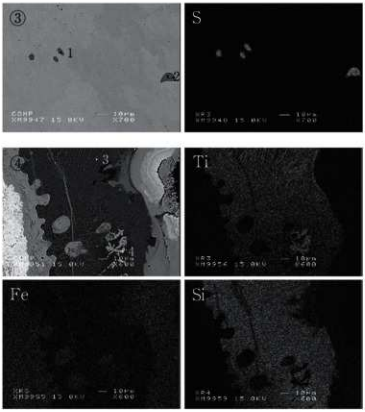


Photo.2　流動滓・鉄塊系遺物の顕微鏡組織

0626364.indd 58　2016/09/26 17:53:56





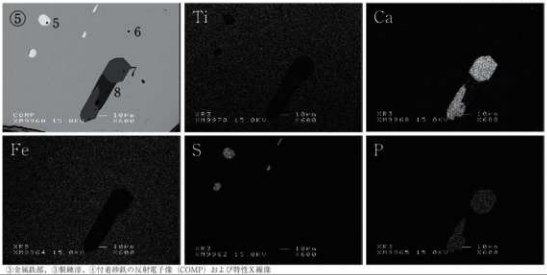
定量分析値

Element	1	2
O	0.968	0.765
P	0.001	0.007
S	30.168	32.977
Mn	0.013	–
Fe	66.716	66.103
As	–	0.054
Sn	0.053	–
Pb	0.061	–
Ag	–	0.028
Ti	0.032	0.012
Cu	–	0.015
Ni	0.033	–
V	0.012	0.052
Total	98.057	100.013

Element	3	4
Na_2O	0.655	–
MgO	5.492	8.441
Al_2O_3	3.940	5.805
SiO_2	9.755	0.604
P_2O_5	0.099	–
S	0.022	0.012
K_2O	0.438	0.041
CaO	2.183	0.292
TiO_2	38.904	32.098
Cr_2O_3	0.136	0.542
MnO	0.846	1.138
FeO	29.620	46.603
ZrO_2	0.052	0.010
SrO	0.065	–
F	–	0.372
CuO	0.032	–
V_2O_5	2.122	5.104
Total	94.361	100.905

Element	5
O	0.238
P	0.011
S	38.006
Mn	0.049
Fe	56.648
Zn	0.176
As	0.059
Sn	0.023
Ag	0.003
Ti	0.278
Cu	3.196
Ni	0.105
V	0.028
Total	98.820

Element	6	7	8
Na_2O	–	–	1.610
MgO	1.372	0.152	0.244
Al_2O_3	2.187	–	12.212
SiO_2	0.119	–	77.033
P_2O_5	0.018	36.682	0.063
S	0.005	0.115	0.023
K_2O	–	–	0.491
CaO	–	53.806	1.987
TiO_2	5.691	0.031	0.313
Cr_2O_3	0.005	0.055	–
MnO	0.520	0.108	0.061
FeO	82.134	1.801	2.464
ZrO_2	0.049	0.069	0.023
SrO	0.053	0.075	0.527
F	–	2.054	0.639
CuO	0.051	0.039	0.019
V_2O_5	0.524	0.004	0.023
Total	92.728	94.126	97.463



③金属鉄部、③腐鏡部、④付着砂鉄の反射電子像（COMP）および特性X線像

Photo.3　鉄塊系遺物の顕微鏡組織・EPMA 調査結果

o626364.indd 59 2016/09/26 17:53:59

Ⅶ　まとめ

ここでは、調査成果を基に元総社蒼海遺跡群（62）（63）（64）の主たる遺構について検討し、まとめとしたい。

元総社蒼海遺跡群（62）（以下、「元総社蒼海遺跡群」は省略する。）

本調査区では溝跡１条、井戸１基、土坑１基、ピット７基を確認している。

Ｗ－１について　Ｗ－１は確認面においてHr-FAをブロック状に含有する暗褐色土に被覆され、底面ではAs-Cを主体とする暗褐色土の堆積が確認されている。出土遺物は頭部に刻み目のある突帯をもつ、古式土師器の壺が出土している。なお、覆土からは６世紀前半以降の遺物は出土していない。溝の形状は、底面の凹凸が著しく、コーナー部は浅く緩やかに下り、調査区北西は一段低いため（外側の立ち上がりは調査区外となるため確認されていない）、調査区南半の灰色砂質土面を前方部に想定し、東西軸の前方後方形周溝墓に付随する周溝として調査が行なわれた[1]。しかし、その後、調査された隣接調査区[2]では連続する周溝は検出されていないため、Ｗ－１の性格について再検討を行なう。

Ｗ－１は覆土や出土遺物の傾向から、古墳時代後期には埋没したと考えられる。周辺調査区では、該当する時期の溝状遺構として、（81）と（100）の方形周溝墓があげられる。２つの方形周溝墓は、方台部が正方形で一辺の長さは10ｍを超え、外縁は円形に近い隅丸方形を呈し、周溝はコーナーが浅く、底面にはAs-C主体の覆土が確認されている。Ｗ－１にも類似する様相が見られ、（81）と（100）と同様な方形周溝墓の可能性が考えられる。

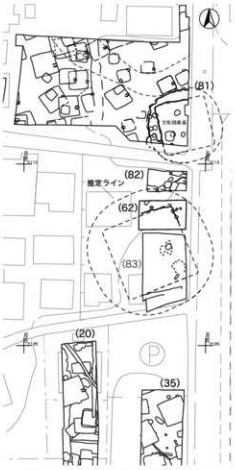


Fig.36　（62）周溝の推定図S=1/1000

周辺の調査区では多数の住居跡が検出されているのに対し、（81）の方形周溝墓方台部は住居跡の空白域となっている。（100）でも同様な傾向がみられる。なお、本調査区の空白域は（83）へ続いている。（62）と（83）の遺構確認面は総社砂層漸移層から同層上位の標高117.60ｍ付近で推移している。北側縁辺は標高117.60ｍで、等高線を南へ追うと（83）のＷ－１付近で緩やかに南端に向かって調査区が落ち込む。この傾斜部の堆積は（62）Ｗ－１の堆積状況と類似し、暗褐色のAs-Cと考えられる白色軽石混入土が堆積しており、（62）Ｗ－１に連続する周溝の可能性がある。この区間約21ｍを方台部の推定範囲としたい。

（81）の方形周溝墓は、方台長13.5ｍ、外縁長19.6ｍ、（100）の方形周溝墓は、方台長15.6ｍ、外縁長22.5ｍが推定されている。この２つの方形周溝墓の形状・規模をもとに、本調査区のＷ－１を方形周溝墓として推定したものがFig.36である。（62）の方形周溝墓の規模は方台長21ｍ、外縁長30.6ｍと推測しておきたい。

元総社蒼海遺跡群（63）

本調査区では、住居跡20軒、溝跡１条、土坑２基、ピット２基を確認している。住居跡の時期は、５世紀後半が５軒、５世紀末から６世紀初頭が４軒、６世紀前半が７軒、６世紀後半が１軒、11世紀が２軒、時期不明が１軒確認されている。Ｈ－４・６・７・９・11・12・13・15・16・18・20は11軒重複し、５世後半から６世

0626364.indd 60　2016/09/26 17:54:00

紀後半まで繰り返し建て替えが行なわれている様子が窺える。

南端で確認された W－1の西側は、（7）W－2で確認されている中世の大溝がある。この大溝は、古代の大溝に平行し、東の延長線上の閑泉樋遺跡でも確認されている。字境にも重なっているのが推測できるため、土地境と想定されている[4]。

元総社蒼海遺跡群（64）

本調査区では、住居跡1軒、竪穴状遺構2基、溝跡1条、土坑墓1基、土坑14基、ピット43基、製鉄炉跡1基を確認している。ここでは製鉄炉跡について、まとめと検討を行なう。

検出された製鉄炉跡は箱形炉であり、東日本に製鉄技術が導入された時期の形状である。群馬県内の箱形炉はこれまでに、三ヶ尻西遺跡・松原田遺跡（市内）、西野原遺跡・峰山遺跡（太田市）で調査されている。そのうち、三ヶ尻西遺跡、西野原遺跡、峰山遺跡については、笹澤泰史によって、関連する鍛冶遺構も含め総合的に検討され[5]、時期は順に7世紀中頃、7世紀後半、8世紀前半に比定されている。これらの遺跡は赤城山南麓や赤城山南東の八王子丘陵・金山丘陵の縁辺に立地する。

上野で箱形炉が操業された7世紀中頃～8世紀前半の総社・元総社では、宝塔山古墳（7世紀中頃）・蛇穴山古墳（7世紀後半）の築造、山王廃寺の創建、上野国府の造営等が行なわれていた時期である。

周辺の鉄生産関連遺構について　本調査区周辺では鉄滓が多く拾えることは昔から知られ、刊行されている報告書の中には、遺構に伴わないものの製錬滓や羽口等が掲載されているものがあり、鉄滓の分布は広範囲に確認できる。また、本調査区の台地の反対側にあたる（14）4区では蒼海城堀跡の上層から鉄滓が約500kg出土している。この事例からは、近隣の鉄生産関連遺構が蒼海城の地形改変に伴い壊されている可能性も考えられる。

鍛冶遺構は確認されているものの少ない。そのうち、（40）の鍛冶遺構は住居跡に伴うもので、出土遺物から8世紀後半と想定され、一般集落に鍛冶遺構が普及する9世紀より若干早い時期と考えられている[6]。

周辺の鉄生産関連遺構は、元総社稲葉遺跡（市内）、鳥羽遺跡（市内）、清里・陣場遺跡（市内・吉岡町）で確認されている。元総社稲葉遺跡では10世紀に想定される製鉄炉跡（小型自立炉）が2基検出されている。鳥羽遺跡では、連房式鍛冶工房が6棟検出されており、8世紀前半～中頃に該当する事例が多い。清里・陣場遺跡では10世紀後半の住居跡から土坑状に掘り込まれた炉跡が検出され、鋳型・鉄滓・羽口が出土していることから、鋳造が行なわれたと想定されている。

製鉄炉跡の設置方向について　本調査区は榛名山南麓に水源をもつ牛池川の開析によって形成された台地縁辺に位置する。台地縁辺は北側から牛池川に沿って続いてくるが、調査区の東で西に向きを変え、緩やかに湾曲しながら宮鍋神社の方向へ続いて行く。調査区は、この舌状に突出した台地の突端に位置し、現況では製鉄炉跡の設置方向が等高線に対し、直行する「縦置き」とも平行する「横置き」とも捉えることが可能なため、判断が難しい。なお、「縦置き」は8世紀前半、「横置き」は7世紀後半と考えられている。

西排滓土坑は一部調査区外のため全容が把握されていないため、未調査部分で排滓溝の有無を確認してからの判断が望ましい。もし、排滓溝が付随するならば、「縦置き」となる。

形状と機能について　炉本体の形状は、平面は長方形を呈し、断面は浅い船底形の掘り込みである。西排滓土坑は楕円形を呈し、炉本体側に傾斜を持ち、流動滓が出土した位置で底面の深さは最大となる。東排滓土坑は楕円形を呈し、中央東寄りに大きな石が設置されている。排滓土坑の機能については、流動滓分布状況から主に西排滓土坑へ排出され、東排滓土坑では炉本体側傾斜面下部に流動滓が確認できるため、流動滓が排出されたと考えられるが、設置された石の側面には流動滓等の付着は認められない。そのため、東排滓土坑は補助的な排出で留まり、設置された石を台石として「鉄塊系遺物を含有する鉄滓」の荒割り作業が主に行なわれたと考えられる。

埋没状況について　上層では細かい鉄滓・炉壁が多く、土器は出土しているがほとんどが爪程の大きさで詳細

0626364.indd 61　2016/09/26 17:54:00

不明な破片が多い。下層では鉄滓・炉壁の破片が大きくなり細分できるようになる。土器はほとんど出土しなかったが、西排滓土坑内Ｐ１から土師器坏が出土している。この坏は、湾曲した体部で口縁が内傾するため、７世紀末～８世紀初頭に比定される。４層では炉壁がまとまって出土している点や上・下層の遺物の出土傾向から、埋め戻しが想定され、８世紀前半に廃絶したものと考えられる。

製鉄関連遺物について　金属学的分析を行い、箱形炉が検出されている西野原遺跡、峰山遺跡と比較した結果、鉄滓類は類似した化学組成が示された。群馬県内で出土している炉壁の耐火度は、他の地域[7]と比べ、県内では耐火度は1,100～1200℃と低いことが知られ、本製鉄炉跡の炉壁でも1,120℃が示され、この範囲に収まる結果であった。

この特徴は、箱形炉から次期の竪形炉にも見られるため、炉材として耐火度の高い物がないという制約の中で、炉の構築技術が発展し受け継かれているのではないかと、考えられている[8]。

今回の結果は、赤城山南麓で行なわれていた鉄生産と同系統の技術で、上野国の中心地域でも鉄生産が行なわれていたと考えられる。

おわりに　元総社蒼海遺跡群（64）製鉄炉跡の発見は、上野国の中心地域でも製鉄技術導入期の鉄生産が行なわれていることが明らかになった。今後の調査による事例の増加に期待したい。

註

（1）類似の土師器坏は食賀野万福寺遺１号周溝墓出土遺物などで確認される。

（2）前橋市教育委員会　2014　『年報　平成25年度文化財調査報告書』

（3）前橋市教育委員会　2016　『元総社蒼海遺跡群（81）・（82）・（83）・（84）』

（4）前橋市教育委員会　2006　『元総社蒼海遺跡群（7）』

（5）笹澤　泰史　2015　「近年の群馬県における箱形炉の調査動向」『最新の古代製鉄関連遺跡調査・研究特集：鉄鋼プレゼンス研究調査委員会第29回フォーラム講演会論文集』（社）日本鉄鋼協会学会鉄鋼プレゼンス研究調査委員会編

（6）前橋市教育委員会　2013　『元総社蒼海遺跡群（40）（46）（49）（50）』

（7）近江では1,400～1,500℃、豊濃では1,300～1,500℃である。

（8）笹澤　泰史　2016　「東日本の古代製鉄技術の展開　－箱形炉の導入から竪形炉の変遷－」『研究紀要』34　財団法人群馬県埋蔵文化財事業団

参考文献

安堵市教育委員会　2002　『古墳時代の鉄製鏃・銅鏡再現実験記録』

前橋市教育委員会　2007　『元総社蒼海遺跡群（9）』、元総社蒼海遺跡群（10）』

前橋市教育委員会　2008　『元総社蒼海遺跡群（14）』、元総社蒼海遺跡群（19）』

前橋市教育委員会　2009　『元総社蒼海遺跡群（25）』

前橋市教育委員会　2011　『元総社蒼海遺跡群（35）』

前橋市教育委員会　2012　『元総社蒼海遺跡群（37）』

前橋市教育委員会　2011　『元総社蒼海遺跡群（38）』

前橋市教育委員会　2014　『元総社蒼海遺跡群（56）（61）（72）（73）』

前橋市教育委員会　2016　『元総社蒼海遺跡群（65）』

前橋市教育委員会　2016　『元総社蒼海遺跡群（100）・（101）』

高崎市食賀野万福寺遺跡調査会　1983　『食賀野万福寺遺跡』

群馬県市町村会館遺跡調査会　1995　『元総社稲荷遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1981　『清里・神場遺跡』

群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　1988　『鳥羽遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ区本文編』

群馬県教育委員会　財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2007　『南原間遺跡』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2010　『西野原遺跡（5）（7）』

財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団　2010　『峰山遺跡Ⅱ』

笹澤　泰史　2006　『古代上野国有馬郷の鉄生産』『研究紀要』24　財団法人群馬県埋蔵文化財事業団

角田　徳幸　2014　『たたら吹製鉄の成立と展開』　清文堂

日沖　剛史　2016　『群馬県前橋市元総社地域における地形の形成と土地利用』『地域考古学』１　地域考古学研究会

0626364.indd 62　2016/09/26 17:54:00

（62）遺構検出状況（西から）

（62）調査区全景（北東から）

（62）調査区全景（北西から）

（62）調査区全景（北東から）

（62）調査区東部（北西から）

（62）W－1遺物出土状況（南西から）

（62）P－1～6全景（南東から）

（62）I－1全景（西から）

0626364.indd 1 2016/09/26 17:54:05

PL.2

（63）遺構検出状況（北西から）

（63）調査区全景（北西から）

（63）Ｈ－１全景（西から）

（63）Ｈ－１貯蔵穴全景（南から）

（63）Ｈ－２全景（南から）

（63）Ｈ－２Hr-FA堆積状況（南から）

（63）Ｈ－３全景（西から）

（63）Ｈ－３カマド全景（西から）

o626364.indd 2 2016/09/26 17:54:10

(63) H－4 全景（南から）

(63) H－4 カマド全景（南から）

(63) H－5 全景（西から）

(63) H－6 全景（北東から）

(63) H－7 全景（南西から）

(63) H－7 カマド全景（南西から）

(63) H－8 全景（北西から）

(63) H－9 全景（東から）

0626364.indd 3 2016/09/26 17:54:15

PL.4

（63）H－9カマド遺物出土状況（東から）

（63）H－9貯蔵穴遺物出土状況（東から）

（63）H－10全景（西から）

（63）H－10貯蔵穴全景（北から）

（63）H－11カマド断面（東から）

（63）H－12全景（西から）

（63）H－12遺物出土状況（東から）

（63）H－13全景（北から）

0626364.indd 4 2016/09/26 17:54:19

（63）H－13カマド全景（北から）

（63）H－14全景（東から）

（63）H－15全景（西から）

（63）H－15カマド灰層下断面（南西から）

（63）H－16全景（西から）

（63）H－16カマド断面（西から）

（63）H－17カマド断面（南西から）

（63）H－18・20全景（西から）

o626364.indd 5 2016/09/26 17:54:24

PL.6

（63）H－19全景（北西から）

（63）W－1全景（西から）

（63）D－1全景（南から）

（63）D－2全景（東から）

（63）P－1全景（南から）

（63）P－2全景（南から）

（63）作業風景

（63）除雪作業風景

o626364.indd 6 2016/09/26 17:54:26

(64) 調査区全景（上が北）

(64) 遺構検出状況（西から）

(64)1号製鉄炉跡検出状況（南から）

(64)1号製鉄炉跡掘り方全景（東から）

(64)1号製鉄炉跡掘り方断面（南から）

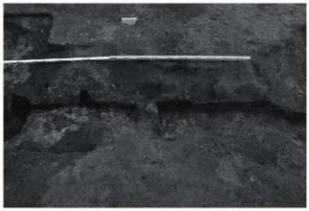
0626364.indd 7 2016/09/26 17:54:32

PL.8

(64)1号製鉄炉跡上層遺物出土状況（東から）

(64)1号製鉄炉跡下層遺物出土状況（東から）

(64)1号製鉄炉跡炉本体部断面（南から）



(64)1号製鉄炉跡炉本体部掘り方断面（南から）

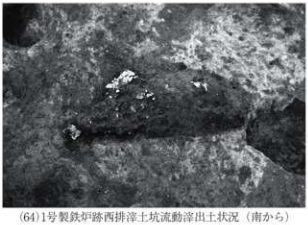
(64)1号製鉄炉跡炉本体部掘り方断面（東から）

(64)1号製鉄炉跡炉本体部木炭片出土状況（南から）

(64)1号製鉄炉跡西排滓土坑上層断面（東から）

(64)1号製鉄炉跡西排滓土坑下層断面（南から）

0626364.indd 8 2016/09/26 17:54:31


(64)1号製鉄炉跡西排滓土坑流動滓出土状況（南から）

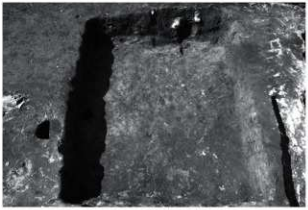
(64)1号製鉄炉跡東排滓土坑上層断面（南東から）

(64)1号製鉄炉跡東排滓土坑下層断面（南東から）

1号製鉄炉跡東排滓土坑流動滓出土状況

(64) H－1全景（西から）

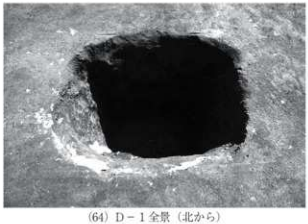
(64) H－1カマド全景（西から）


(64) T－1全景（東から）

(64) T－2全景（南から）

0626364.indd 9 2016/09/26 17:54:41

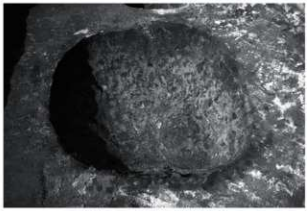
PL.10



(64) D－1 全景（北から）

(64) D－2 全景（東から）

(64) D－3 全景（南から）

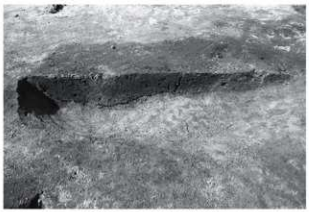


(64) D－4 全景（南東から）

(64) D－5 全景（南から）

(64) D－6 全景（南東から）

(64) D－7 全景（南から）



(64) D－8 断面（東から）

o626364.indd 10 2016/09/26 17:54:46

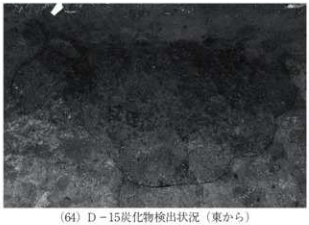
(64) D－9断面（東から）

(64) D－10断面（東から）

(64) D－11断面（東から）

(64) D－14断面（北から）

(64) D－15断面（北から）



(64) D－15炭化物検出状況（東から）

(64) DB－1全景（東から）

(64) DB－1人骨出土状況（東から）

0626364.indd 11 2016/09/26 17:54:50

PL.12

元総社蒼海遺跡群（62）

W－1－1（1/4）

W－1－2（1/4）

遺構外－1（1/1）

元総社蒼海遺跡群（63）

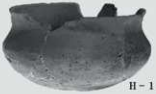
H－1－1

H－1－4

H－1－7

H－1－2

H－1－5


H－1－8

H－1－3

H－1－6

H－1－9（1/4）

H－2－1

H－2－3（1/4）

H－2－2

H－3－3

H－3－1

H－3－2

H－4－6

H－4－1

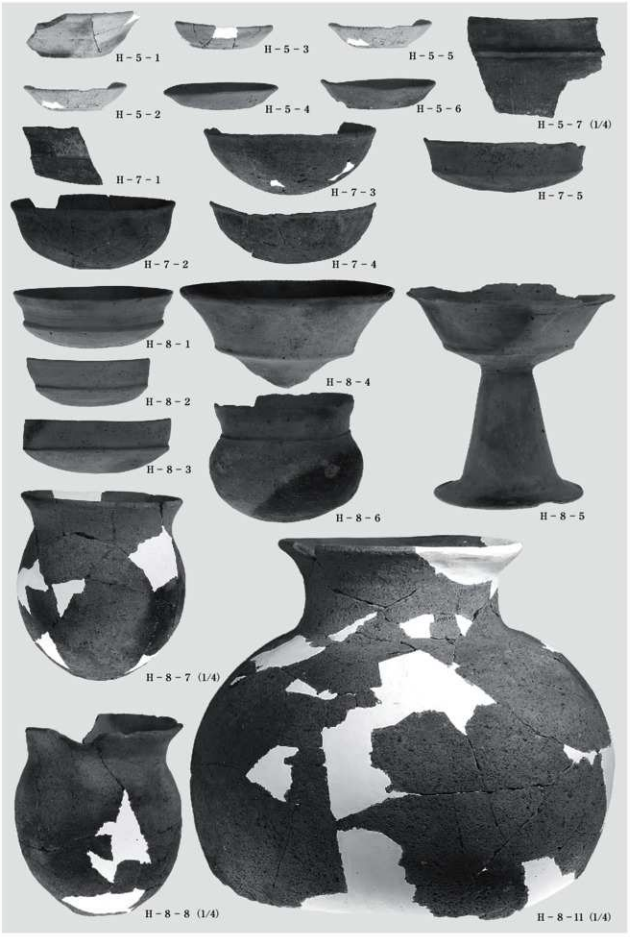
H－4－3

H－4－2

H－4－4

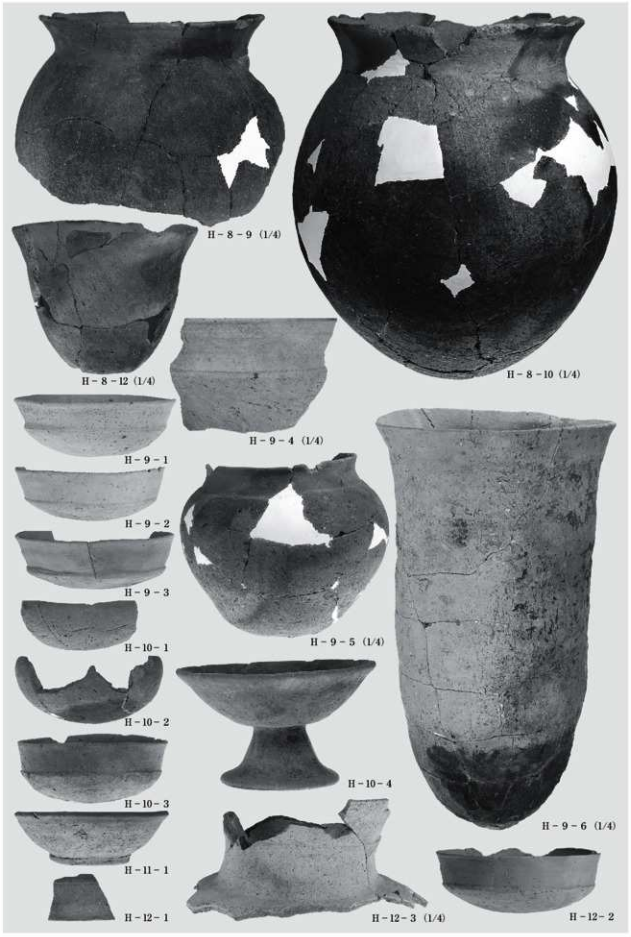
H－4－5

o626364.indd 12 2016/09/26 17:55:41

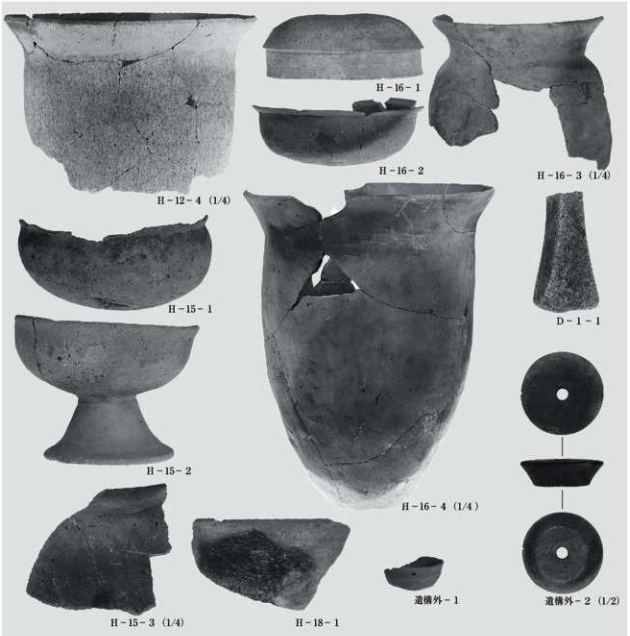


0626364.indd 13 2016/09/26 17:56:19

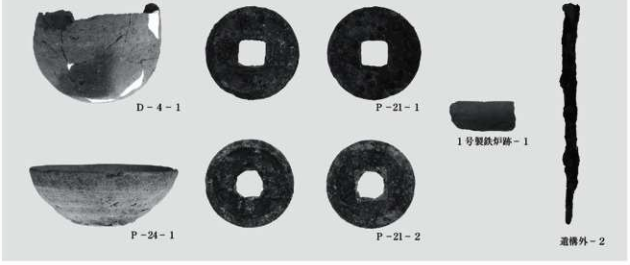
PL.14



o626364.indd 14 2016/09/26 17:56:52



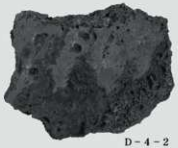
元総社蒼海遺跡群（64）



0626364.indd 15 2016/09/26 17:57:33

PL.16

製鉄関連遺物



D－4－2

遺構外－1

1号製鉄炉跡－No.1

1号製鉄炉跡－No.3

1号製鉄炉跡－No.6

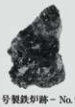
1号製鉄炉跡－No.11

1号製鉄炉跡－No.4

1号製鉄炉跡－No.8

1号製鉄炉跡－No.12

1号製鉄炉跡－No.5



1号製鉄炉跡－No.9

1号製鉄炉跡－No.13

1号製鉄炉跡－No.7

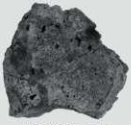
1号製鉄炉跡－No.10

1号製鉄炉跡－No.14

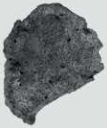
o626364.indd 16 2016/09/26 17:57:51

1号製鉄炉跡－No.15

1号製鉄炉跡－No.16


1号製鉄炉跡－No.17

1号製鉄炉跡－No.19（1/2）


1号製鉄炉跡－No.18

1号製鉄炉跡－No.32

1号製鉄炉跡－No.21

1号製鉄炉跡－No.26

1号製鉄炉跡－No.33

1号製鉄炉跡－No.22

1号製鉄炉跡－No.23

1号製鉄炉跡－No.29

1号製鉄炉跡－No.34

1号製鉄炉跡－No.24

1号製鉄炉跡－No.30

1号製鉄炉跡－No.35

1号製鉄炉跡－No.25

1号製鉄炉跡－No.31

1号製鉄炉跡－No.36

報告書抄録

カタカナ	モトソウジャオウミイセキグン（62）（63）（64）
書名	元総社蒼海遺跡群（62）（63）（64）
副書名	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	－
シリーズ名	－
シリーズ番号	－
編著者名	藤坂和延・岡野　茂
編集機関	技研コンサル株式会社
編集機関所在地	〒371－0031　群馬県前橋市下小出町１丁目15番地３
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番地４
発行年月日	2016年９月30日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	位置 北緯	位置 東経	調査期間	調査面積	調査原因
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（62）	マエバシシソウジャオウマチ 前橋市総社町総社3600-1	102021	25A161	36°23′34	139°2′17	20140114 ～ 20140326	110㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（63）	マエバシシソウジャオウマチ 前橋市総社町総社3598-4	102021	25A162	36°23′31	139°2′17		230㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業
モトソウジャオウミイセキグン 元総社蒼海遺跡群（64）	マエバシシモトソウジャオウマチ 前橋市元総社町2019	102021	25A163	36°23′30	139°2′7		500㎡	前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
元総社蒼海遺跡群（62）	その他	古墳時代	溝跡	土師器	方形周溝墓の可能性がある。
元総社蒼海遺跡群（63）	集落 その他	古墳時代 平安時代 中世	住居跡、溝跡	土師器、須恵器	
元総社蒼海遺跡群（64）	集落 城館跡 その他	奈良時代 中世	製鉄炉跡 竪穴状遺構、土坑墓	土師器、須恵器 製鉄関連遺物	箱形炉の検出。

元総社蒼海遺跡群（62）（63）（64）

前橋都市計画事業元総社蒼海土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2016年９月23日　印刷
2016年９月30日　発行

発行　前橋市教育委員会事務局文化財保護課
〒371－0853　群馬県前橋市総社町３丁目11番地４
TEL　027-280-6511

編集　技研コンサル株式会社
印刷　朝日印刷工業株式会社

0626364.indd　18　2016/09/26　17:58:26